

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2023

熊本労災病院 年報 2023年度



Kumamoto Rosai

独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院

Kumamoto Rosai Hospital



理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。



CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務	2
------------------	---

■病院運営状況

院長 松岡 雅雄	4
病院幹部職員紹介	5

■病院概要

病院概要	8	研修・セミナー	9
------	---	---------	---

■各診療科・部門紹介

呼吸器内科	12	リハビリテーション科	47
消化器内科	14	放射線科	48
脳神経内科	16	麻酔科	50
糖尿病・代謝内科	17	病理診断科	51
精神科	19	初期臨床研修医	52
小児科	20	中央手術部	53
循環器内科	21	救急部	54
心臓血管外科	25	DMAT	55
消化器外科／一般外科	27	医療安全管理室	57
乳腺外科	29	感染制御部	59
呼吸器外科	30	地域医療連携部	61
小児外科／移植外科	31	看護部	63
脳神経外科	35	認定看護師・がん相談支援センター	66
整形外科	36	看護師特定行為研修	75
形成外科	38	薬剤部	76
皮膚科	39	中央リハビリテーション部	78
泌尿器科	40	中央放射線部	81
産婦人科	41	中央検査部	83
耳鼻咽喉科	43	栄養管理部・栄養管理室	86
眼科	46	中央臨床工学部	90

※「スタッフ紹介」「診療体制」については令和□年□月1日現在

■臨床業績

患者数等	92	高度医療	107
疾病構成	97	救急医療	109
院内がん登録データに係る統計	103	地域医療	110

患者の権利と責務

【患者の権利】

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。
また、分からないことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。
また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【子どもの権利】

- 1 人として大切にされ、自分らしく生きる権利
- 2 子どもにとって一番よいこと(子どもの最善の利益)を考えてもらう権利
- 3 安心・安全な環境で生活する権利
- 4 病院などで親や大切な人といっしょにいる権利
- 5 必要なことを教えてもらい、自分の気持ち・希望・意見を伝える権利
- 6 希望どおりにならなかったときに理由を説明してもらう権利
- 7 差別されず、こころやからだを傷つけられない権利
- 8 自分のことを勝手にだれかに言われない権利
- 9 病気のときも遊んだり勉強したりする権利
- 10 訓練を受けた専門的なスタッフから治療とケアを受ける権利
- 11 今だけではなく将来も続けて医療やケアを受ける権利

【患者の責務】

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

病院運営状況



熊本労災病院



院長挨拶

熊本労災病院 院長

松岡 雅雄

2024年4月に病院長に就任致しました松岡雅雄です。2023年の年報をお届けするこの機会に病院の近況をご報告したいと思います。

2024年3月より、長らく待ち望んでいた高度医療・災害対応棟の建設がスタートいたしました。現在、基礎工事が順調に進められており、2025年12月頃の完成を目指しております。この新棟は手術室、ICU、集中治療部に加えて災害時にDMATが集合して拠点となるスペース、災害用の備蓄にも対応しています。八代地域では日奈久断層による地震、球磨川による水害が危惧されていますが、それらの災害時には重要な医療拠点となることが期待されます。熊本県初となる手術用ロボット「ヒノトリ」の導入とハイブリッド手術室の開設により、より高度な医療の提供が可能となります。八代地域の人々の健康を守り、そして癒やしていくことが可能となります。

我が国は少子高齢化が急速に進み、医療を取り巻く環境も大きく変化しています。特に、高齢者人口の増加に伴い、救急医療の需要が高まることを見込まれています。また生活習慣の変化、高齢化により疾病構造も変貌しつつあります。胃がんの原因としてピロリ菌が同定され、除菌、衛生環境の向上により感染者は激減しており、将来、胃がんは稀な病気となりそうです。C型肝炎ウイルスは治療薬の開発により根絶されつつあります。一方、乳がん、前立腺癌は全世界で増加しており日本も例外ではありません。高齢者の増加により骨折などは増加することが予想されています。労災病院では、これまで最善の

医療を提供してきましたが、さらに経皮的左心耳閉鎖術（Watchman）、早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法を開始致します。より負担が少なく効果が高い治療法を提供してまいります。

10月からは歯科口腔外科が診療を開始致しました。2名の歯科医師、2名の歯科技工士が従事致します。これまで八代地域には歯科口腔外科が無かったために熊本市内で診療を受ける必要がありましたが、今後は熊本労災病院で対応でき地域の方々の健康に大きく貢献できます。

医師の働き方改革が本年4月から始まり、労災病院でも会議の短縮・効率化、タスクシフティングを進めています。医療従事者だけでなく事務系職員も含め全ての職員が安心して働く環境が重要です。熊本県は医師多数県ですが、若手医師の割合は極めて低く、今後の若手医師の育成が極めて重要です。県内の病院、大学病院と連携して研修医・専攻医の育成・教育に尽力しています。

6月には病院機能評価を受審しました。病院機能評価は、医療安全、感染制御、患者サービス、医療の質などこれまで行ってきたことを評価してもらい改善する貴重な機会です。熊本労災病院の取り組みは高く評価されましたが、改善すべき点も指摘して頂き更に良い病院へバージョンアップしていきます。患者さんが受診したい、医療者は働きたいと思う病院として高めて行きます。ご支援、ご指導の程、お願い申し上げます。

病院幹部職員紹介

■院長



松岡 雅雄

■副院長



池田 天史

(医事業務、施設基準、救急・災害医療、診療事務補助者管理、設備改修、機器整備等)



佐々木 雅人

(医療安全、薬事、治験、倫理、広報誌編集等)



松村 敏幸

(教育研修、患者サービス、地域連携、労災疾病、外来検診体制整備等)

■看護部長



福松 之敦

(産婦人科診療体制整備、広報等)



山上 艶子

■事務局長



福間 雄介

病院概要



病院概要

(令和6年8月1日現在)

病院概要

名 称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	
所 在 地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地	
電 話 番 号	TEL:0965-33-4151(代表) FAX:0965-32-4405(代表)	
開 設 承 認	昭和29年2月8日	
開 設 者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 大西 洋英	
管 理 者	院長 松岡 雅雄	
病 床 数	410床	
職 員 数	医師93名(うち基幹型研修医12名)、看護職426名、医療職116名、事務職64名、その他21名	
診 療 科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・代謝内科、精神科、小児科、循環器内科、心臓血管外科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科	
指 定 医 療 機 関 等 に 関 する 事 項	地域がん診療連携拠点病院(国指定)、地域災害拠点病院(熊本DMAT指定病院)、救急告示病院(二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後方支援病院、小児初期救急医療病院、紹介受診重点医療機関	
認 定 施 設	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 NCD参加施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本胸部外科学会教育施設 胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 	<ul style="list-style-type: none"> 日本脳神経外科学会連携施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本脳ドック学会認定施設 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設(補完施設) 日本産科婦人科学会専門研修連携施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設 日本小児外科学会教育関連施設B 日本胃癌学会認定施設 日本医療機能評価機構認定施設(3rdG: Ver.2.0) NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定
施 設 概 要	敷地面積：26,681.86㎡ 延床面積：30,193.10㎡	
駐 車 台 数	614台	

令和5年度 研修・セミナー

開催日	内容
5月26日	一次救命処置(BLS)研修
6月5日	接遇セミナー
6月6日	災害(トリアージ)研修
6月15日	虐待対応研修会
6月23日	地域医療連携の会
7月7日	市民公開講座『どうする、子どもの便秘!』
7月19日	緩和ケア講演会
7月30日	市民公開講座『肝がんゼロを目指して』
8月19日	熊本労災病院緩和ケア研修会
10月1日	八代市総合防災訓練(DMAT参加)
11月14日	いい医師の日講演会(石工の郷八代プロジェクト)
12月2日	脳死判定研修会
12月11日	FLS(骨折リエゾンサービス)院内研修会
12月14日	医療安全研修会
1月20日	コンプライアンス・ハラスメント対策研修
1月21日	大規模災害訓練
2月16日	虐待対策研修会
2月17日	市民公開講座『先生教えて!がんに関するあれやこれ』
2月21日	褥瘡対策勉強会
2月29日	院内迅速対応システム(RRS)研修会
3月7日	能登半島派遣報告会
3月16日	第26回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会
3月22日	栄養管理セミナー



災害(トリアージ)研修



脳死判定研修会



医療安全研修



褥瘡対策勉強会



市民公開講座

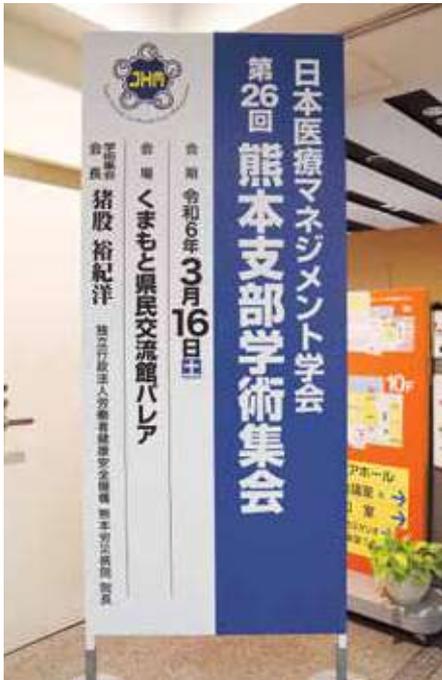


能登半島派遣報告会

第26回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会

2024年3月16日 くまもと県民交流館パレオ

病院概要



各診療科・部門紹介



呼吸器内科

スタッフ紹介

呼吸器内科部長
(兼アスベスト疾患センター長、
兼感染制御部長)

安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療

【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医、AHA-BLSコースインストラクター、AHA-ACLSコースインストラクター・ディレクター、JMECCインストラクター、インфекションコントロールドクター、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、難病指定医

第二呼吸器内科部長

山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、難病指定医

腫瘍内科部長

丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本癌治療認定医機構日本がん認定医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、産業医、難病指定医

第三呼吸器内科副部長

中山 剛

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺癌学会、嚥下リハビリテーション学会、嚥下機能評価研修会修了、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、産業医

呼吸器内科医師

楯崎 恵里子

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、緩和ケア研修会修了、難病指定医

呼吸器内科医師

川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、緩和ケア研修会修了

呼吸器内科医師

塩見 太郎

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師

本庄 花織

【専門分野】呼吸器一般

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会

呼吸器内科の特色

常勤医師8名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。疾病の内訳は、高齢化社会を反映して肺炎・胸膜炎などの感染症が最も多くの割合を占めています。肺癌については、化学療法の進歩で延命効果も高く入院患者数が増加しています。最新の超音波気管支ファイバービデオスコープシステムを導入して従来のTBLBやEBUS-GS法による肺病変の生検に追加して、EBUS-TBNAIによる縦隔・肺門リンパ節の質的診断も行っており、正診率の向上に努めています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患は治療の中心となる吸入薬の進歩により外来での治療コントロールが良くなり入院割合としては減少し、殆どは救急や他院からの紹介入院です。自然気胸は、必要時は当院呼吸器外科での手術も行っています。間質性肺炎は特発性・膠原病関連・薬剤性等も含めて増加しています。その他の疾患は膠原病・不明熱・感染症等で、総合内科的な役割も担っています。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助を行っています。

呼吸器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
--	---	---	---	---	---

(午前中)

呼吸器内科	山根	安道	丸山	安道	中山
総合内科/再診		本庄	塩見		
再診	中山	川口		山根	鋤崎
腫瘍内科			丸山		丸山

(14:00~15:30)

特殊外来			禁煙外来 山根 (要予約)		
------	--	--	---------------------	--	--

診療実績

(1) 患者数

入院患者数	新患者数	1,207人
	延患者数	19,753人(54.0人/日)
外来患者数	新患者数	2,559人
	延患者数	12,944人(53.3人/日)

(2) 検査数

気管支鏡検査数	244件	
再掲	TBLB/TBB	179件
	BAL	65件
CTガイド下肺生検	20例	

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医 安道 誠、山根宏美
- 県南結核審査会委員 安道 誠

学会・講演会発表等

- 学会名 第92回日本呼吸器学会 日本結核非結核性抗酸菌症学会 九州支部春季学術講演会
日程・会場 令和6年3月、熊本城ホール
発表者 井村昭彦、山根宏美、黒木美樹、川口紘矢、鋤崎恵里子、中山剛、丸山広高、安道誠
題名 当院で診断した外国生まれ肺結核8症例の検討
- 学会名 第344回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和6年1月、福岡県福岡市九州大学百年講堂

- 発表者 黒木美樹、丸山広高、井村昭彦、川口紘矢、鋤崎恵里子、中山剛、山根宏美、安道誠
- 題名 頭蓋内髄膜腫治療前に診断した髄膜腫肺転移の1例

施設認定等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

消化器内科

スタッフ紹介

副院長
消化器内科部長

佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

内視鏡科部長

千代永 卓

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

消化器内科副部長

富口 純

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医講習会修了

消化器内科医師

日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会専門医、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

米田 暁

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

山岡 哲秀

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

安倍 悠乃

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

消化器内科の特色

当科は、千代永卓先生、富口純先生、日隈ゆかり先生、米田暁先生、山岡哲秀先生、安倍悠乃先生と私の7人体制です。千代永先生は消化器内科全てに精通していますが、特に胆膵専門であり、ERCPや超音波内視鏡などによる胆膵系の検査・治療が増加しています。閉塞性黄疸や胆嚢炎におけるER(N)BD、ER(N)GBD、PTCD、PTGBDも行っています。

緊急の上下部内視鏡検査の他、NBI・拡大内視鏡、上下部消化管ESD、小腸/カプセル内視鏡、CTコロノグラフィ、食道胃静脈瘤治療、胃瘻造設・交換などは通常業務として行っています。また熊大消化器内科より週一回松野健司先生に上下部消化管ESDのご指導を頂いています。

肝臓専門外来を毎日行っており「肝疾患センター」を運営しています。ウイルス肝炎のコントロールがほぼ完全に可能となった現在、検査部で検出したHBs抗原/HCV抗体陽性者はすべてチェックし、陽性者は当科を受診するよう担当医や患者に通知する「院内拾い上げシステム」を2018年1月より確立しています。肝胆膵のみならず、上下部消化管悪性腫瘍に対する分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤など最新の治療が可能です。一般消化器外科のほか移植外科、小児外科など経験豊富な医師や放射線医と毎週合同カンファレンスを行っており、また全科が出席するカンサーボードを開催しており、患者様に適切で包括的な治療が可能です。

学会・研究会にも多数参加しており、JDDWや地方会のほか、ボストン、シンガポール、バンコク、上海、バリ、台湾、香港の国際学会でも発表しました。今年6月、学会長の田中靖人教授のもと熊本で開催された日本肝臓学会総会にも演題を発表しました。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
消化器内科	千代永	千代永	佐々木	富口	佐々木
総合内科 ／再診					米田
再診	富口	山岡	安倍	山岡	
PEG相談	山岡 ／安倍		山岡 ／安倍		

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,228人
	延患者数	14,706人(40.2人/日)
外来患者数	新患者数	1,717人
	延患者数	13,830人(56.9人/日)

手術(内視鏡)件数

症 例	件数
食道ESD	0件
胃ESD	20件
EIS/EVL	4/13件
大腸EMR/ポリペクトミー	211件
大腸ESD	28件
胃ろう造設術	72件

検査/治療実績

症 例	件数
上部内視鏡検査	2,779件
下部内視鏡検査	1,677件
ERCP	276件
EUS	239件
EUS-FNA	15件
カプセル内視鏡	11件
小腸内視鏡	2件

超音波検査/治療件数

検 査	件数
腹部超音波	3,994件
腹部造影超音波	38件
肝生検	55件
PTCD/PTGBD	2/5件
経皮的RFA/PEIT	1/0件
腫瘍生検	11件

学会、研究会

- 学会名 第344回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和6年1月27日
発表者 長春菜、他
題 名 喉のつかえ感を契機に発見された Forrester病の1例
- 学会名 市民公開講座
日程・会場 令和5年7月30日、熊本労災病院 大講義室

発表者 佐々木雅人

題 名 肝がんゼロを目指して

- 学会名 市民公開講座

日程・会場 令和6年2月17日

発表者 千代永卓

題 名 消化器がんの内視鏡治療

施設認定等

- 日本消化器内視鏡学会指導連携施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設

脳神経内科

スタッフ紹介

脳神経内科部長

原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医・評議員、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会認定医、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経内科医師

松尾 淳一

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会内科専門医、日本神経学会、日本脳卒中学会、日本神経血管内治療学会、日本脳神経超音波学会認定検査士、日本頭痛学会、日本認知症学会

脳神経内科の特色

脳梗塞、てんかん、頭痛、めまい、脳炎・髄膜炎、免疫性神経疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症）、神経変性疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、認知症）など、神経疾患全般に関して県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。

入院は半数以上が急性期脳梗塞で、その他もてんかんなど急性疾患が多くを占めます。脳梗塞超急性期症例は、適応例に対してはt-PA静注療法を行い、必要に応じて脳血管内治療目的に救急車またはヘリで対応可能な病院へ転送しています。リハビリ継続が必要な場合は、適宜後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などの神経難病、さらに頭痛、しびれ、ふるえ、めまいなどに至るまで幅広く診断・治療を行っています。頭痛診療については、令和6年4月より頭痛外来を開始しました。抗CGRP製剤も使用することで治療成績を向上させています。

高齢化を反映して、脳神経疾患のニーズはますます高まっています。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	松尾	原	松尾	池ノ下 (非常勤)

(14:00~16:00)

				頭痛外来 原
--	--	--	--	-----------

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	425人
	延患者数	8,391人(23.0人/日)
外来患者数	新患者数	908人
	延患者数	1,120人(4.6人/日)

学会・講演会発表等

研究会・講演会

- 開催名 八代市郡学術講演会
日程・会場 令和5年4月、八代
発表者 原 靖幸
題名 新時代を迎えた片頭痛治療
- 開催名 脳卒中連携Webセミナー in 八代
日程・会場 令和5年7月、八代
発表者 原 靖幸
題名 脳卒中後てんかんを考える

施設認定等

- 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介

糖尿病・代謝内科部長
(兼栄養管理部長)

金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本臨床栄養代謝学会、日本甲状腺学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、日本病態栄養学会認定NST研修修了

第二糖尿病・代謝内科部長

岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了

糖尿病・代謝内科医師

吉田 知史

【専門・認定・資格・所属学会】

糖尿病・代謝内科医師

今井 佑衣子

【専門・認定・資格・所属学会】
緩和ケア研修会修了

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数(糖尿病が強く疑われる人)は1,000万人以上と考えられ、予備軍(糖尿病が否定できない人)も合わせると2,000万人超とされています。糖尿病が強く疑われる人のうち、治療を受けている人の割合は76.6%とされ、40歳代男性では治療を受けている割合が51.5%で他の年代よりも低くなっています。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患(橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍)などの内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院代謝・内分泌疾患の診療も行っており、対象患者さんは概ね40~50名/日に上ります。さらに、栄養サポートチームの一員としての栄養管理も全病棟を対象に実施しています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井 (非常勤)	金子	岩下
総合内科 ／再診	今井			吉田	
再診			吉田		金子 (要予約)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	179人
	延患者数	3,752人(10.3人/日)
外来患者数	新患者数	648人
	延患者数	7,900人(32.5人/日)

検査数

検査	件数
甲状腺超音波検査	362件
甲状腺穿刺吸引細胞診	21件

地域活動の実績

毎年11月14日を含む1週間は糖尿病週間となっており、当院でもコロナ禍以前は講演会など対面で、それ以降はポスター掲示などのイベントを行なっています。

学会・講演会発表等

- **学会名** 第61回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和5年12月1日(金)・2日(土)、熊本県熊本市
発表者 中島璃沙(薬剤師)、今井佑衣子、吉田知史、櫻井希美、岩下晋輔、金子健吾
題名 サクビトリルバルサルタンによる尿中 C-ペプチド異常高値が疑われた1例
- **学会名** 第61回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和5年12月1日(金)・2日(土)、熊本県熊本市
発表者 今井佑衣子
題名 クエチアピン中止後にインスリン分泌能改善を認めた糖尿病性ケトアシドーシスの一例
- **学会名** 第344回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和6年1月27日(土)、福岡県福岡市

糖尿病・代謝内科

発表者 今井佑衣子、岩下晋輔、吉田知史、金子健吾
題名 ビタミンB1投与を契機に乳酸アシドーシスの急速な改善をみた敗血症の1例

施設認定等

■ 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

スタッフ紹介

精神科医師(非常勤)

本田 荘介

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科医師(非常勤)

大内 清

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科医師(非常勤)

加治屋 智子

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科の特色

令和3年4月からは、他医療機関から3名の先生を派遣いただき、病棟でのリエゾン診療のみを行っています。

また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がい医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

診療体制

発達相談外来 ※紹介制

月	火	水	木	金
				担当医 (第1・3週)

小児科

スタッフ紹介

小児科部長

吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児科副部長

渡邊 聖

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会、日本小児神経学会

小児科副部長

松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児科医師(非常勤)

永沼 節子

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、日本小児内分泌学会、日本児童青年精神医学会

小児科医師(非常勤)

坂本 理恵子

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、日本先天代謝異常学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本集中治療医学会

小児科の特色

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっており、全般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
小児科	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
	松石	松石	松石	松石	松石
	永沼			坂本 (非常勤) (第1・4週)	
予防接種/ 1か月健診		予防接種 (紹介のみ)			

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	268人
	延患者数	1,008人(2.8人/日)
外来患者数	新患者数	1,472人
	延患者数	5,126人(21.1人/日)

学会・講演会発表等

- **学会名** 水俣芦北薬剤師会 学術講演会
- 日程・会場** 令和5年5月24日、水俣市総合もやい直しセンター もやい館
- 発表者** 吉牟田純一郎
- 題名** 小児の経静脈輸液と経口補液

施設認定等

- 小児初期救急医療病院

循環器内科

スタッフ紹介

副院長

松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了

循環器内科部長

血管内科部長

土井 英樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、難病指定医、浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施医、日本フットケア・足病医学会、日本職業・災害医学会、緩和ケア研修会修了

第二循環器内科部長

(兼心臓リハビリテーション部長)

阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、日本心臓リハビリテーション学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第三循環器内科部長

川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、緩和ケア研修会修了、産業医

循環器内科副部長

古川 祥太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本プライマリーケア連合学会指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

循環器内科副部長

満瀬 達郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、日本心血管インターベンション治療学会、緩和ケア研修会修了

循環器内科副部長

小森田 貴史

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、JMECC/ICLSインストラクター、臨床研修指導医講習会修了、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、緩和ケア研修会修了

循環器内科医師

小林 貴大

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定内科専門医、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会、着型自動除細動器(WCD)処方資格、日本心臓リハビリテーション学会、日本血栓止血学会、緩和ケア研修会修了、産業医

循環器内科の特色

当科は、心臓血管外科との連携を図りながら、県南はもとより県央および鹿児島県出水市など、非常に広いエリアから24時間体制で心・血管病の患者様を受け入れています。

不整脈専門医も在籍し、カテーテルアブレーション等の頻脈性不整脈治療を精力的に行うとともに、ペースメーカー植え込みの困難な徐脈性不整脈の患者様に対するリードレスペースメーカー留置や、致死的不整脈や難治性心不全に対するICDやCRT-P、CRT-D植え込みなども、県南全域からご紹介いただき積極的に治療を行っています。

下肢動脈を中心とした末梢血管治療は20年以上前から力を入れており、特に重症下肢虚血(CLTI)症例は、下肢創傷治療に関して経験豊富な形成外科の岡坂正信先生をリーダーとして足壊疽外来を併設し、循環器内科医師、WOC看護師、病棟・外来看護師など多職種で介入を行い、多くの方の下肢救済を実現することができました。また創傷治療を促進するLDLアフェレーシスも導入し、より一層下肢救済に取り組んでいるところです。

循環器内科

昨今、主に心不全の患者をはじめとして、高齢化や心臓疾患に伴う日常生活での活動レベル低下、いわゆるフレイルへの積極的な介入が求められています。当科では、入院および外来心臓リハビリテーションの充実を図ってきており、入院中から積極的に介入し、外来でもサポートを継続することで、自分の足で生活できる状態を維持できるよう取り組んでいます。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
循環器内科 血管外来	満瀬 小林	小森田 担当医	松村 土井	阿部 担当医	古川 担当医
不整脈外来	川上 (要予約)			川上	
特殊外来			循環器 足壊疽外来 匂坂 (要予約)		

○救急患者紹介への電話対応

	月	火	水	木	金
午前 (8:30-13:00)	小森田	古川	阿部	土井	満瀬
午後 (13:00-17:00)	小森田	古川	阿部	土井	満瀬

※担当者不在の場合は予め代行者を決めて対応いたします。

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,081人
	延患者数	13,025人(35.6人/日)
外来患者数	新患者数	1,301人
	延患者数	10,725人(44.1人/日)

治療実績

症 例	件数
冠動脈インターベンション	228件
末梢血管インターベンション	111件
カテーテル焼灼術	182件
永久ペースメーカー移植術(新規・交換)	114件
リードレスペースメーカー留置術	12件
植込み型除細動器移植術(新規・交換)	5件
両室ペーシング=心臓再同期療法(CRT+CRTD、新規・交換)	9件
心エコー	7,832件

症 例	件数
血管エコー	3,013件
経食道心エコー	127件

学会・講演会発表等

国内学会

- 学会名** 第3回日本不整脈心電学会九州・沖縄支部地方会
日程・会場 令和5年4月、福岡県福岡市
発表者 ○小林貴大、川上和伸、石丸雄大、梅田美結、竹尾政宏、古川祥太郎、高嶋英夫、阿部浩二、土井英樹、森山周二、原正彦、松村敏幸
題 名 電気生理学検査後の8の字縫合によりシース断裂をきたした症例
- 学会名** 日本内科学会 第341回九州地方会
日程・会場 令和5年4月、福岡県北九州市
発表者 ○小林貴大、川上和伸、石丸雄大、竹尾政宏、小森田貴史、古川祥太郎、高嶋英夫、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題 名 イソプロテレノール投与にてCoumel現象を呈した房室回帰性頻拍に対しアブレーション焼灼術に成功した症例
- 学会名** 第135回日本循環器学会九州地方会
日程・会場 令和5年12月、福岡県福岡市
発表者 ○石丸雄大、小森田貴史、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題 名 冠動脈瘤を合併した左右冠動脈肺動脈瘻の一例
- 学会名** 第36回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 令和6年1月、福岡県福岡市
発表者 ○竹尾政宏、石丸雄大、小林貴大、小森田貴史、古川祥太郎、川上和伸、阿部浩二、茅嶋理絵、匂坂正信、土井英樹、松村敏幸
題 名 感染を伴う重症虚血趾に対して創傷チームによる包括的ケアで大切断を回避し、創傷治癒した症例
- 学会名** 第36回日本心血管インターベンション学会九州地方会
日程・会場 令和6年1月、福岡県福岡市
発表者 ○古川祥太郎、石丸雄大、小林貴大、小森田貴史、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題 名 Radianz Radial Peripheral SystemによるEVT時にカッピングバルーンがガイドシースから抜去できなくなった1例

循環器内科

- **学会名** 日本不整脈心電学会 第16回植込みデバイス関連冬季大会
日程・会場 令和6年2月、広島県広島市
発表者 ○小林貴大、川上和伸、石丸雄大、小森田貴史、古川祥太郎、高嶋英夫、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 2年の予測電池残量がある状態で、新たに右室閾値自動測定機能を使用したことで、想定よりも電池消耗を加速させ5ヶ月後にEnd of Lifelに至った症例
 - **学会名** 第26回日本医療マネジメント学会第26回熊本支部学術集会
日程・会場 令和6年3月、熊本県熊本市
発表者 ○松村敏幸、常住あや、原山優、猪股裕紀洋
題名 当院における研修医リクルート対策
- 【講演会】**
- **開催名** 災害医療を考える in 長崎諫早総合病院
日程・会場 令和5年5月、Web
発表者 土井英樹
題名 地震の体験から再考する静脈血栓塞栓症の診断と治療～最新のトピックも加えて～
 - **開催名** 佐賀好生館EVTセミナー
日程・会場 令和5年5月、佐賀県佐賀市
発表者 土井英樹
題名 EVTにおけるモダリティ活用術
 - **開催名** 福岡徳洲会病院EVTセミナー
日程・会場 令和6年3月、福岡県福岡市
発表者 土井英樹
題名 EVT for F-P lesion in our hospital after 2021
 - **開催名** 八代薬剤師会学術講演会
日程・会場 令和6年1月、熊本県八代市
発表者 阿部浩二
題名 高齢社会における心不全治療
 - **開催名** 不整脈地域連携の会
日程・会場 令和6年1月、熊本県八代市
発表者 川上和伸
題名 県南地区心房細動治療における当院の取り組み
 - **開催名** 睡眠時無呼吸症候群(SAS)地域連携会
日程・会場 令和6年3月、熊本県八代市
発表者 川上和伸
題名 SASと循環器疾患について
 - **開催名** Rheocana Summit
日程・会場 令和5年5月、熊本県熊本市+Web
発表者 古川祥太郎
題名 レオカーナが奏効した2症例
 - **開催名** 聖隷浜松EVT Web Seminer
日程・会場 令和5年6月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 カuttingバルーン使用時に手技に難渋した1例
 - **開催名** KASHI Intervention Conference of Kyushu and ChuShikoku
日程・会場 令和5年6月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 BTKに対する治療戦略
 - **開催名** Rheocana Case Study Conference vol.1
日程・会場 令和5年8月、福岡県福岡市
発表者 古川祥太郎
題名 SPP-K1を使用した1例
 - **開催名** Peripheral Closed Advisory Meeting
日程・会場 令和5年9月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 Ver.UPLしたVisicubeを使ってみた
 - **開催名** 熊本労災病院 救急症例検討会
日程・会場 令和5年11月、熊本県八代市+Web
発表者 古川祥太郎
題名 COVID-19ワクチン接種後に発症した急性冠症候群の1例
 - **開催名** KASHI Intervention Conference of Kyushu and ChuShikoku
日程・会場 令和5年11月、福岡県福岡市
発表者 古川祥太郎
題名 膝窩部坐骨神経ブロックについて
 - **開催名** Rheocana Case Study Conference vol.2
日程・会場 令和6年1月、福岡県福岡市
発表者 古川祥太郎
題名 Buerger病による上下肢の難治性潰瘍にLDL-apheresisを行なった一例
 - **開催名** 令和5年度 熊本労災病院 第2回M&Mカンファランス
日程・会場 令和6年2月、熊本県八代市
発表者 古川祥太郎
題名 虚血再還流による急激な菌血症の死亡事例
 - **開催名** 第4回熊本県CLTI症例検討会
日程・会場 令和6年3月、熊本県熊本市+Web
発表者 古川祥太郎
題名 no responderでも治療を諦めないno option CLTI治療戦略
 - **開催名** ICD/CRTの治療選択

循環器内科

日程・会場 令和6年3月、Web

発表者 小林貴大

題名 当院でのCRT治療に検討を有した症例

施設認定等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施施設

心臓血管外科

スタッフ紹介

心臓血管外科部長

森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会認定医、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

心臓血管外科医師

定永 達明

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、緩和ケア研修会修了

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来、30年以上の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており、施設の集約化が求められるなかで唯一県中心部以外に存在しています。

当科では急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの救命のために緊急手術が必要な症例にも昼夜を問わず対応し、主に県南の地域医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くありませんが、当科では大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管内治療や弁形成術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。

また当施設は上記の胸部および腹部大動脈瘤に対する県南唯一のステントグラフト実施施設です。「地元完結で社会復帰・自宅退院する」を第一に考え、患者様にとって最適な治療を提供し患者様や家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	森山		森山	金子 (非常勤再診のみ) 森山 (要相談)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	64人
	延患者数	1,668人(4.6人/日)
外来患者数	新患者数	217人
	延患者数	1,332人(5.5人/日)

治療実績

症例	件数
冠動脈手術	13件
弁膜症手術	23件
単弁手術	12件
連合弁膜症手術	11件
(Maze 手術併施)	6件
その他の心臓手術	1件
大動脈瘤手術	24件
胸部大動脈瘤	7件
開胸手術	6件
腹部大動脈瘤	17件
開腹手術	5件
ステント手術(EVAR)	12件
急性大動脈解離手術	4件
(上記のうち人工心肺使用手術)	38件
末梢動脈手術	8件
下肢静脈瘤手術	7件
(Laser手術)	6件
その他の手術	3件
計	85件

学会・講演会発表等

- 学会名 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会
- 日程・会場 令和5年7月、大分県大分市
- 発表者 中田浩介、森山周二、福井寿啓
- 演題名 Aorto-mitral curtainに穿孔性仮性瘤を認めた1例

心臓血管外科

- **学会名** 第196回熊本外科集談会
日程・会場 令和5年9月、熊本県熊本市
発表者 中田浩介、森山周二、福井寿啓
演題名 Aorto-mitral curtainに穿孔性仮性瘤を認めた1例
- **学会名** 第120回日本血管外科学会九州地方会
日程・会場 令和5年9月、福岡県北九州市
発表者 森山周二、中田浩介、田村吉高、福井寿啓
演題名 IgI4関連疑診炎症性腹部大動脈瘤破裂にEVARを施行した術後長期観察症例

論文発表

- **雑誌名** 胸部外科2023; 76(12): 1005-1009.
著者 中田浩介、森山周二、廣田貴史、福井寿啓
題名 90歳以上の超高齢者に対する心臓大血管手術
- **雑誌名** Surgical Case Report 2023; 9: 210.
doi.10.1186/s40792-023-01789-3.
著者 Nakata K, Moriyama S, Takeo M, Doi H, Matsumura T, Fukui T.
題名 Psuedoaneurysm of mitral-aortic intervalvular fibrosa with rupture: A case report.
- **雑誌名** Circ J 2024; 88: 297-306.
doi:10.1253/circj.CJ-23-0076.
著者 Moriyama S, Hara M, Hirota T, Nakata K, Doi H, Matsumura T, Araki Y, Inomata Y, Fukui T.
題名 Population-based study of the incidence and mortality rate of acute aortic dissection.
- **雑誌名** Eur Heart J Case Rep 2024; 8: ytae141.
doi.10.1093/ehjcr/ytae141.
著者 Moriyama S, Nakata K, Doi H, Fukui T.
題名 Small cardia vein connecting the coronary sinus with the right atrium.

施設認定等

- 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科／一般外科

スタッフ紹介

一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)

飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本がん治療認定医機構認定医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本臨床栄養代謝学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本救急医学会、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本緩和医療学会、日本DMAT(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会終了、ICLSコースインストラクター、JATECコース修了、SSTTプロバイダー、令和4年度外傷外科医等養成研修修了

消化器外科部長

井上 光弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科、一般外科副部長

辻 顕

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科、一般外科副部長

江藤 二男

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、緩和ケア研修会修了

消化器外科／一般外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として、質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療を提供することはもちろん、熊本県南地域を主体とした救急症例を、24時間・365日受け入れられるよう診療体制を整えています。一般／消化器外科医のほか、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科医師により構成し、専門科の垣根を超えて、チームでの外科診療・救急診療等に対応しているこ

とが、当院の特徴です。低侵襲手術として、内視鏡下手術には、特に力を入れており、胃癌、大腸・直腸癌に対する切除術、胆石・胆嚢炎に対する胆嚢摘出術のほか、鼠径部ヘルニアや直腸脱に対する修復術なども、腹腔鏡下で積極的に行っています。また、肝臓・膵臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科領域の高難度手術も行っており、ハイボリュームセンターに劣らぬ手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。一方、救急領域では、重症腹部外傷のほか、腹膜炎や広範囲腸管虚血などの内因性腹部臓器疾患に対し、ダメージコントロール戦略を用いて治療にあたり、これらの治療成績の向上に努めています。

手術以外では、他科多職種連携のもと、術前・術後(放射線)化学療法も積極的に手掛け、治療成績の向上に努めている一方で、終末期を迎えられる患者様とそのご家族へは、医療県南では緩和病床が少ないという実情を踏まえ、周辺医療機関と連携を図りながら、より有意義な時間を共有いただけるよう病棟スタッフ共ども努めています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
井上	井上 (新患)	担当医	担当医	江藤
	辻			

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	942人
	延患者数	11,142人(30.4人/日)
外来患者数	新患者数	667人
	延患者数	5,968人(24.6人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

項目	件数
手術室内手術件数	586件

学会・講演会発表等

- **学会名** 第95回 日本胃癌学会総会
会場 札幌
発表者 飯坂正義
演題名 切除不能若年(A世代)進行胃癌の1治療経験
- **学会名** 第58回 日本腹部救急医学会総会
会場 沖縄
発表者 飯坂正義
演題名 当院における閉鎖孔ヘルニア修復術の工夫
腹腔鏡下腹膜(ヘルニア嚢)翻転結紮法による閉鎖孔ヘルニア修復術について
- **学会名** 第15回 日本Acute care surgery学会
会場 千葉
発表者 飯坂正義
演題名 当院における閉鎖孔ヘルニア修復術の工夫
- **学会名** 第51回 日本救急医学会
会場 東京
発表者 飯坂正義
演題名 アンデキサネット α 投与により保存的に治療し得た外傷性大量血胸の1例
- **学会名** 第36回 日本内視鏡外科学会総会
会場 横浜
発表者 飯坂正義
演題名 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下腹膜(ヘルニア嚢)翻転結紮法の有用性についての検討
- **学会名** 第70回 日本職業・災害医学会総会(シンポジウム)
会場 福岡
発表者 飯坂正義
演題名 大規模災害時における外科医の役割と多職種連携について(熊本地震、令和2年7月豪雨を経験して)

論文発表

- **雑誌名** Surg Case Rep. 2023 Sep 4; 9(1): 154
発表者 Morinaga T, Nakahara O, Tsuji A, Kuramoto K, Iizaka M, Hayashida S, Ohya Y, Hitoshi Y, Inomata Y.
題名 Laparoscopic intervention for late-onset perforating peritonitis due to a ventriculoperitoneal shunt: a case report and literature review.
- **雑誌名** Drug Discov Ther. 2023 Jul 12; 17(3): 217-219.
発表者 Ohya Y, Hayashida S, Yoneda A, Tsuji A, Inoue T, Chiyonaga S, Kuramoto K, Oda K, Iizaka M, Nakahara O, Inomata Y.
題名 Laparoscopic-assisted treatment for diospyrobezoar-induced intestinal obstruction after distal gastrectomy and cholecystectomy.
- **雑誌名** Exp Clin Transplant. 2023 Jun; 21(6): 537-539
発表者 Yuki Ohya 1, Norifumi Aritome, Shintaro Hayashida, Takuya Sasaki, Takeshi Morinaga, Akira Tsuji, Mitsuhiro Inoue, Masayoshi Iizaka, Yukihiko Inomata.
題名 Right-Side Acquired Diaphragmatic Hernia in an Adult 15 Years After Living Donor Liver Transplant

施設認定等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設(認定施設)
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本肝臓学会関連施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 日本乳癌学会関連施設

乳腺外科

スタッフ紹介

乳腺外科部長

林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)、乳房超音波医師講習会(A判定)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

乳腺外科医師

竹野 雅子

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

乳腺外科医師

梶原 絢子

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

乳腺外科の特色

乳癌検診、乳腺疾患そして緩和医療まで乳腺全般を担当します。年間9万人の方が乳癌に罹患し1.5万人の方が乳癌にて死亡しています。その一方で、ステージI、IIでの予後は比較的良好なことから、乳癌には早期発見早期治療が有効であるとして、乳癌検診に重きをおいています。乳癌検診は対策型検診と任意型検診を実施しています。マンモグラフィ、乳腺超音波は女性のスタッフが担当し、診察においても女性医師ができるだけ担当するように心がけています。

乳腺疾患は感染症から腫瘍性のものまで、幅広く診察しています。とりわけ乳癌に関しては多職種専門チームでの診療を実施しています。乳癌の診断と治療については、乳癌のバイオロジーに基づき薬物療法そして手術の適応を判断し、乳癌診療ガイドラインに準拠した標準治療の実践を基本としています。あいにく、乳癌が再発。あるいは、初診時からステージIV乳癌の患者さんに関しては緩和医療に重点をおいた治療方針で身体症状および精神面でのフォローも大切にしています。乳癌は年齢を問わず発症することから、特にAYA世代の乳癌においては妊孕性を第一に考慮した診療を心がけています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
林	林	林	林	林
	竹野	竹野 (午後)	竹野	

乳がん検診外来(クーポン健診)：火・木

※月・水午前はその都度臨時に対応可能です

手術日：月・水・木・金(週4日対応)

化学療法：月・火・水・木・金(週5日対応)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	485人
	延患者数	2,685人(7.0人/日)
外来患者数	新患者数	733人
	延患者数	5,197人(21.0人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

症例	件数
乳腺手術	98件

検査実績

項目	件数
乳腺超音波検査	1,844件
マンモグラフィー検査	847件

学会・講演会発表等

- **学会名** 第31回日本乳癌学会学術総会
- 日程・会場** 令和5年6月29日(木)
- 発表者** 林 裕倫
- 題名** 熊本労災病院のコロナ禍における乳がん検診啓蒙活動の試み

施設認定等

- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介

呼吸器外科部長

柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・胸腔鏡安全技術認定・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、日本臨床細胞学会・専門医、がん治療認定医、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さんには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さんへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するということは、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	93人
	延患者数	1,066人(2.9人/日)
外来患者数	新患者数	189人
	延患者数	1,075人(4.4人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

症例	件数
手術件数	89件
肺癌	48件
転移性肺腫瘍	0件
縦隔腫瘍	5件
気胸・血胸	10件
膿胸	11件
その他	15件

学会・講演会発表等

- **学会名** 第39回日本呼吸器外科学会学術集会
日程・会場等 令和5年7月、新潟県新潟市
発表者 柴田英克
演題名 肺原発悪性黒色腫の1切除例
- **学会名** 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
日程・会場等 令和5年6月、神奈川県横浜市
発表者 柴田英克
演題名 閉塞性肺炎を繰り返した気管支結石症の1例

施設認定等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

小児外科／移植外科

スタッフ紹介

小児外科部長
(兼緩和ケア科部長)

大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・評議員、日本外科学会専門医・指導医、日本移植学会認定医、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了

移植外科部長

林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児外科・移植外科医師

朝岡 元気

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会、日本外科学会、緩和ケア研修会修了

名誉院長

小児外科・移植外科医師

猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児外科／移植外科の特色

(1)小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行っています。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、4名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留睾丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることが

あり、そのような症例の紹介にも対応しています。

なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例も多く、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥など、救急疾患にも対応しています。

(2)移植外科

肝臓移植を多数経験した日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、生体肝移植医療の実施、脳死移植施設への紹介などを行います。また、術後患者さんの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。また、臓器提供推進にむけて院内体制整備支援事業、熊本赤十字病院を中心とした臓器提供施設連携体制構築事業に力をいれています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	311人
	延患者数	3,187人(8.7人/日)
外来患者数	新患者数	667人
	延患者数	5,968人(24.6人/日)

※外来新患者数は外科、小児外科の合計

小児外科 / 移植外科

手術実績

症例	件数
小児外科関連の手術症例数	59件
鼠径ヘルニア、陰嚢水腫	18件
急性虫垂炎(腹腔鏡下虫垂切除術)	11件
肝生検	8件
臍ヘルニア、白線ヘルニア	5件
停留精巣	6件
腸重積	2件
卵巣腫瘍切除術	2件
食道静脈瘤結紮術(EVL)	1件
痔瘻	2件
内肛門括約筋切開術(Lynn手術)	1件
大腸ポリープ切除	1件
精巣摘出	1件
副耳切除	1件

地域活動の実績

- 熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長) 猪股裕紀洋
- 熊本保健科学大学(理事) 猪股裕紀洋
- 熊本県立大学評価委員会(委員長) 猪股裕紀洋
- 熊本大学病院肝移植適応審査委員会(委員) 猪股裕紀洋

学会・講演会発表等

- 学会名 第39回日本肝臓研究会
日程・会場 令和5年7月、神奈川県横浜市
発表者 大矢雄希
演題名 当院の小児肝生検について
- 学会名 第26回日本マネジメント学会熊本支部学術集会
日程・会場 令和6年3月16日、熊本市
発表者 猪股裕紀洋(学術集會会長)

論文発表

- 雑誌名 Exp Clin Transplant. 2023; 21(6): 537-539.
発表者 Ohya Y, Aritome N, Hayashida S, Sasaki T, Morinaga T, Tsuji A, Inoue M, Iizaka M, Inomata Y.
題名 Right-Side Acquired Diaphragmatic Hernia in an Adult 15 Years After Living Donor Liver Transplant
- 雑誌名 Drug Discov Ther. 2023; 17(3): 217-219
発表者 Ohya Y, Hayashida H, Yoneda A, Tsuji A, Inoue T, Chiyonaga S, Kuramoto K, Oda K, Iizaka M, Nakahara O, Inomata Y.
題名 Laparoscopic-assisted treatment for diospyro bezoar-induced intestinal obstruction after distal gastrectomy and cholecystectomy
- 雑誌名 Surg Case Rep. 2023; 9(1): 154
発表者 Morinaga T, Nakahara O, Tsuji A, Kuramoto K, Iizaka M, Hayashida S, Ohya Y, Hitoshi Y, Inomata Y.
題名 Laparoscopic intervention for late-onset perforating peritonitis due to a ventriculoperitoneal shunt: a case report and literature review
- 雑誌名 Heliyon. 2024; 10(2): e24590.
発表者 Ouchi K, Isono K, Ohya Y, Shiraki N, Tasaki M, Inomata Y, Ueda M, Era T, Kume S, Ando Y, Jono H
題名 Characterization of heterozygous ATTR Tyr114Cys amyloidosis-specific induced pluripotent stem cells
- 雑誌名 Transplant Proc. 2023 Apr; 55(3): 606-612.
発表者 Ishii M, Ibuki S, Morinaga J, Shimata K, Hirukawa K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.
題名 Elevated Alfa-Fetoprotein and Des-Gamma-Carboxy Prothrombin Levels Predict Poor Outcomes After Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma Beyond the Japan Criteria
- 雑誌名 Liver Transpl. 2023; 29(12): 1292-1303.
発表者 Sambommatsu Y, Hirukawa K, Shimata K, Honda M, Sakurai Y, Ishii M, Ibuki S, Isono K, Irie T, Kawabata S, Hirao H, Sugawara Y, Tamura Y, Ikeda O, Hirai T, Inomata Y, Morinaga J, Hibi T.
題名 Hepatic venous outflow obstruction after adult living donor liver transplantation

小児外科 / 移植外科

- 雑誌名** Exp Clin Transplant. 2024 Mar; 22(3): 223-228.
発表者 Kadohisa M, Inomata Y, Shimata K, Isono K, Honda M, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Okajima H, Hibi H.
題名 Donor Complications Following Living Donor Hepatectomy: 17-Year Experience of a Single Team in One Institution of Japan
- 雑誌名** Transplant Proc. 2023; 55(3): 606-612.
発表者 Ishii M, Ibuki S, Morinaga J, Shimata K, Hirukawa K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.
題名 Elevated Alfa-Fetoprotein and Des-Gamma-Carboxy Prothrombin Levels Predict Poor Outcomes After Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma Beyond the Japan Criteria

臨床研究

- 令和4年度厚労科研費補助金 「小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究班」研究協力者
 (主任研究者 仁尾正記)

施設認定等

- 日本外科学会専門医制度修練施設(継続)
- 日本小児外科学会教育関連施設B

その他

- ミャンマー ヤンゴン小児病院での小児外科医療支援(6月、12月)

各診療科・部門紹介

●手術を行う猪股医師(左)と田口医師=ジャバンハート提供●リモートで取材に応じる田口医師(右)と猪股医師=7日



クエーター 病院は機能不全

ジャバンハートは2000年、ほとんどどの医療機関も4年の設立後、ミャンマーが休止。ジャバンハートがではヤンゴンやザガイン地 支援するヤンゴンの小児専 減など医療活動をしてき ない医療機関で、午前8時 教授を務めていた州大の 小児外科チームも協力。田 口医師はこれまで計10回、 現地を往復して肝移植などを行 ってきたが、新型コロナウイルス の影響で、20年3月を最後 に入れなくなっていた。 猪股医師によると、現地で は董事クエーターに反発する 4カ月と年6カ月の開 腹手術など4件を担当し 医療関係者の「不服従」も 多かった。

ミャンマーの子救うメス

福岡の田口、熊本の猪股両医師 現地で人材育成も

ため、猪股医師は帰国を待 参。3、4時間の手術を1 日2回ずつ行う厳しい状 況だったが、技術力と集中 力で乗り切った。

現地の状況について、猪 股医師は「詳しく話さず聞い けないが、貧血がひどい 子も増えたこともあり、生活 が大変なところなど想像 した」。田口医師は「日 本の専門的な小児科医に 比べれば、ミャンマーの手 術のクオリティーはまだまだ」と話し、現地の研修医 を診察や手術に立ちかわ せて人材育成を図ったとい う。

この病院では年間6千件 の手術を行っていたが、医 療従事者の減少で今は年1 500件まで減った。複数の 病棟も閉鎖された状態とい う。2人は「自分たちの技 術で助かる命がある活動 の場はここぞもしい。来 て良かった」と語りつつ、 「クエーターの恩恵がいて、 厳しい状況で入院している 方もいる」と猪股医師と 述べ、医療状況の改善期 待を寄せた。

ジャバンハートは199 0年に小児外科医の福岡 秀人代表がミャンマーで始 めた医療活動が源流。吉岡 代表も新型コロナウイルス一 時期は入国できなかった が、昨夏以降は毎月1、2 回現地で手術を行って いる。ミャンマーではこれ までに約4万4400件の 手術をしたという。

(C) 西日本新聞社 無断転載、複製及び頒布を禁止します。

日本人のベテラン小児外科医2人が6月上旬、ミャンマー最大都市ヤンゴンの小児専門病院で、肝臓や胆道に疾患を抱える小児患者4人を手術した。2021年のクーデター後、現地の医療機関では医師や看護師らの不足が深刻化しており、手術を待つ患者が増えているという。2人は「自分たちの技術をミャンマーの子どもたちのために生かしたい」と語る。 (バンコク・藤川大樹)

日本人医師2人、現地で執刀



①6日、ミャンマー・ヤンゴンの病院で患者のCT画像を確認する田口医師（左から2人目）と猪股医師（同3人目）

②6日、手術する田口医師（左）と猪股医師



二人は、福岡医療短期大（FMO）ミャンマーやラオスの田口智章学長（左）と熊本ス、カンボジアで医療活動の猪股裕紀洋院長を続けるNPO法人「ジャバンハート」（東京都台東区、吉岡春菜理事長）が、ミャンマー訪問を要請した。田口さんは九州大大学院教授だった一六年、ジャバンハートの活動に賛同して協力を始めた。二〇年二月までに計十回にわたりミャンマーを訪れ、生体肝移植手術の支援などを行ってきた。しかし新型コロナウイルスの感染拡大に加え、国軍によるクーデターが起き、二一年以降は訪問が途絶えていた。

ミャンマーの子に手術を

政変後に医師・看護師不足

コロナ禍が落ち着いたことから、田口さんは今回、現地の状況を把握するため、生体肝移植手術の第一人者である猪股さんとともに現地入りした。ヤンゴンの小児専門病院で六月六、七の両日、肝臓でつくられる胆汁の流れが滞る難病「胆道閉鎖症」を患う乳児など患者四人の手術を行った。現地の若い医師らが技



5日、ミャンマー・ヤンゴンの病院で、2019年に生体肝移植を受けた患者を診察する猪股医師（左）とジャバンハート提供

術を学ぶために、手術に立ち会った。田口さんによると、訪問時と比べ、この病院では小児外科医など医療従事者が三分の一程度に減り、手術件数は年間六千件から千五百件程度まで落ち込んでいた。胆道閉鎖症は生後二〜三カ月での手術が適切とされるが、診断が遅れてしまった患者も複数いたと

いう。田口さんは「この時期に手術をして助かる見込みのあるケースを選んだ」と苦渋の決断を語る。初めてのミャンマー訪問となった猪股さんは「医療従事者が少なく、いくつかの病棟や集中治療室（ICU）は閉鎖されていた。かなり厳しい状況だった」と話し、医療体制の整備や人手不足解消の必要性を指摘した。二人は今後も要請があれば、ミャンマーへの支援を続ける意向だ。ジャバンハートは〇四年から、北西部ザガイン地域で私立病院「ワッチェ慈善病院」の一角を借りて活動している。主に現地の医師や看護師によって十八歳以下には無償で医療を提供しており、定期的に日本の医師らを派遣している。



脳神経外科

スタッフ紹介

脳神経外科部長

植田 裕

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定、緩和ケア研修会修了

脳神経外科医師

河野 達哉

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医、緩和ケア研修会修了

脳神経外科の特色

当科は熊本大学脳神経外科の支援のもと、脳神経外科疾患全般の治療を行っています。

脳出血やくも膜下出血といった出血性脳卒中や頭部外傷といった救急疾患等にも対応し、ガイドラインに基づいた診断・治療を行っています。必要時は周辺の関連病院にも協力いただき、患者さんのニーズに合わせた治療を心がけております。虚血性脳卒中に対しても当院脳神経内科と協力し、内頸動脈や頭蓋内動脈の狭窄・閉塞に対する血行再建術などにも積極的に取り組んでまいります。

日本脳神経外科学会専門医制度における研修施設、脳卒中学会の研修教育施設などに認定されており、若手医師の教育、指導にも力を入れております。

また、当院では脳ドックも実施しており、未破裂脳動脈瘤や無症候性脳腫瘍などの早期発見やリスクの評価、疾患発症の予防にも取り組んでおります。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
脳神経外科	植田		植田		植田
	河野		河野		河野
脳ドック	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	216人
	延患者数	4,423人(12.1人/日)
外来患者数	新患者数	731人
	延患者数	2,510人(10.3人/日)

手術実績

症 例	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	48件
水頭症手術(シャント手術)	17件
頭蓋内血腫除去	11件
脳動脈瘤クリッピング	8件
頭蓋形成術	2件
頭蓋内腫瘍摘出術	2件
穿頭脳室ドレナージ術	3件
内視鏡的血腫除去	5件
脳血管内手術(コイル塞栓)	0件
合 計	96件

施設認定等

- 日本脳神経外科学会連携施設
- 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- 日本脳ドック学会認定施設

整形外科

スタッフ紹介

副院長

池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、労災補償指導医、地方労災医員

整形外科部長
(兼関節外科部長)

宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本膝外科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

手外科部長

土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

脊椎外科部長

川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

整形外傷科部長

二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本リウマチ学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第二脊椎外科部長

武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医専門医、日本脊椎脊髄神経手術手技学会、JATECインストラクター、日本DMAT隊員(統括)、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了、八代MC協議会委員

整形外科医師

積本 宏信

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、緩和ケア研修会修了

整形外科医師

高木 寛

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、緩和ケア研修会修了、日本医師会認定産業医

整形外科医師

浅沼 涼平

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会、緩和ケア研修会修了

整形外科の特色

整形外科では医師9名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気をもらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節鏡下手術など)、手外科、マイクロ、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。2023年度(2022年4月から2023年3月)の手術症例数は1,365例となっております。救急・手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。2023年度で1日平均入院患者数76.4人、1日平均外来患者数95.8人、平均在院日数20.9日でした。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただいています。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
整形外科 ・ 脊椎 センター	川添	宮崎	川添	武藤	池田
	土田	池田	二山	土田	宮崎
	担当医	担当医	磯本	磯本	担当医
	二山	高木	武藤	浅沼	高木
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,332人
	延患者数	27,963人(76.4人/日)
外来患者数	新患者数	3,760人
	延患者数	23,272人(95.8人/日)

手術実績 (手術室内手術症例)

症 例		件数
計		1,365件
分野別	脊椎	392件
	上肢、手	280件
	下肢	353件
	外傷	279件
	リウマチ	3件
	スポーツ	13件
	小児	30件
	腫瘍	15件

学会・講演会発表等

- 学会名 第146回西日本整形災害外科学会
日程・会場 令和5年11月3日、沖縄県宜野湾市
発表者 石川喜仁
演題名 手術加療を要した胸髄硬膜下血腫の一例
- 学会名 第146回西日本整形災害外科学会
日程・会場 令和5年11月3日、沖縄県宜野湾市
発表者 井手淳之介
演題名 シャルコーマリー・トゥース病による母指対立障害に対し母指対立再建術を施行した一例
- 学会名 第146回西日本整形災害外科学会
日程・会場 令和5年11月3日、沖縄県宜野湾市
発表者 田上 慧
演題名 当院でのFovestier病の治療経験

- 学会名 第37回日本四肢再建創外固定学会
日程・会場 令和6年3月23日、兵庫県神戸市
発表者 土田 徹
演題名 再接着が困難であった母指切断に対する指長温存の試み
- 学会名 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会
日程・会場 令和5年4月13日、北海道札幌市
発表者 武藤和彦
演題名 Virtual non-carcium image(以下VNCa)は新鮮椎体骨折の診断補助に有用である
- 学会名 第5回火の国外傷セミナー
日程・会場 令和6年3月、熊本県熊本市
発表者 片山修浩
演題名 上腕骨遠位端骨折術後難渋した1例
- 学会名 八代薬剤師会学術研修会
日程・会場 令和5年12月、熊本県八代市
発表者 池田天史
演題名 骨粗鬆症と脊椎疾患の関連治療

論文発表

- 雑誌名 整形・災害外科 72 (3), R5年
発表者 笹岡眞光、池田天史、宮崎眞一、土田 徹、川添泰弘、二山勝也、武藤和彦
題 名 柔道により発症した上前腸骨棘・腸骨稜同時裂離骨折の1例
- 雑誌名 整形・災害外科 72 (4), R5年
発表者 田中みずほ、池田天史、宮崎眞一、土田 徹、川添泰弘、二山勝也、武藤和彦
題 名 骨折術後の抜釘施行後に生じた仮性動脈瘤の2例

地域活動の実績

- R5年7月JATEC 熊本コース(済生会熊本)インストラクター 武藤和彦
- R5年8月JATEC 宮崎コース(県立宮崎病院)インストラクター 武藤和彦
- R5年10月JATEC 東京コース(国際医療研究センター)インストラクター 武藤和彦
- R5年11月JATEC 愛媛コース(愛媛大学病院)インストラクター 武藤和彦
- R6年2月JATEC 福岡コース(飯塚病院)インストラクター 武藤和彦
- R6年2月JATEC 広島コース(広島大学病院)インストラクター 武藤和彦
- R6年3月JATEC 富山コース(県立中央病院)インストラクター 武藤和彦

施設認定等

- 日本整形外科専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介

形成外科医師(非常勤)

小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会、労災協力医、更生医療指導医、身体障害者法第15条指定医、難病指定医、緩和ケア研修会修了

形成外科医師(非常勤)

坂本 佳奈

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

常勤医不在のため、外来診療・外来手術が主体です。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

(1)救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から瘢痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

(2)先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

(3)後天性変形

- 熱傷、外傷後の瘢痕、瘢痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

(4)悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉 (非常勤)		小倉 (非常勤)	坂本 (非常勤)	

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	27人
	延患者数	151人(0.4人/日)
外来患者数	新患者数	448人
	延患者数	1,422人(5.9人/日)

手術実績

区分	件数
入院手術件数	31件
全身麻酔	27件
腰麻・伝達麻酔	0件
局所麻酔・その他	4件
外来手術件数	265件
局所麻酔・その他	265件

手術例内訳

区分	入院手術			外来手術	件数
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	局所麻酔・その他	
外傷	1			81	82
先天異常	4			1	5
腫瘍	15		2	88	105
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド					0
難治性潰瘍	1				1
炎症・変性疾患	1			19	20
その他	5		2		7
Ex レーザー治療				76	76
大分類計	27	0	4	265	296

皮膚科

スタッフ紹介

皮膚科部長

城野 剛充

【専門・認定・資格・所属学会】日本皮膚科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

皮膚科医師

押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】皮膚科専門医、日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

皮膚科医師

上妻 美緒

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

皮膚科の特色

皮膚は全体重の16%を占め最大の臓器であり、その役割・機能としては、体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります(ホメオスタシスの維持)。また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。皮膚は最外層にあり、自分以外の人の目にも触れることから社会的境界線と表現される事もあります。このような様々な機能を担う皮膚が障害されることで日常生活に直接支障が生じることもあれば、掻痒やそれによる不眠が生じたり、また見た目の問題で精神的ダメージを負う事もしばしばあります。皮膚の疾患を罹患した方ではこれらの理由で「生活の質: QOL」が低下していることが明らかになっており、皮膚科では症状や病変部のみでなく、心の健康にも配慮して診療を行っています。

近年、皮膚科領域の多くの疾患において新しい薬剤・治療の開発が進み、治療の選択肢は10年前とは大きく変わり、アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬といった疾患を中心に当時は治らなかった皮膚病変が「治る」時代になりました。同様に他科の疾患においても新薬の開発は目まぐるしい中で、皮膚障害が起りやすい薬剤の使用も増加しています。それら他科における治療時の皮膚障害を最小限にし、治療継続を下支えするのも当科の役目と考えています。

〈医療機関の方々へ〉

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介下さい。また、ご要望等ありましたらお気軽にご連絡下さいませ。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
城野	城野	担当医	城野	上妻
上妻	押川		押川	押川

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	283人
	延患者数	3,172人(8.7人/日)
外来患者数	新患者数	1,632人
	延患者数	10,074人(41.5人/日)

手術実績

区分	件数
入院手術件数	483件
外来手術件数	265件

検査実績

区分	件数
皮膚生検	221件

学会・講演会発表等

多数あり

施設認定等

■ 皮膚科学会専門医教育研修認定施設

泌尿器科

スタッフ紹介

泌尿器科部長

宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第二泌尿器科部長

中村 圭輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医、緩和ケア研修会修了

泌尿器科医師

今藤 淳之助

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

泌尿器科の特色

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしく申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、この10数年一定数を維持していることから八代圏では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹

介お願い申し上げます。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日につき 要相談	宮本	今藤	中村

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	296人
	延患者数	2,302人(6.3人/日)
外来患者数	新患者数	746人
	延患者数	6,006人(24.7人/日)

手術件数

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	45件
経尿道的前立腺切除術	19件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	19件
前立腺全摘術	3件
小児手術	4件
精巣捻転手術	3件
その他	1件
尿道狭窄内視鏡手術	2件
前立腺生検	45件
経尿的尿管ステント留置術	16件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)上部尿路	11件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)下部尿路	5件
精巣の手術(除睾術陰の水腫)	11件

施設認定等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介

副院長
(兼産婦人科部長)
(兼地域医療連携副室長)

福松 之敦

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科指導医、日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医・指導医、日本がん検診・診断学会認定がん検診認定医、母体保護法指定医師、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

産婦人科の特色

1973年の産婦人科開設以来半世紀、地域周産期中核病院として八代圏域にとどまらず人吉球磨圏域、さらには宇城圏域や芦北圏域からの周産期救急に対応して参りました。しかしながら熊本県南部地域の産婦人科医師不足は深刻で、今般、当院産婦人科も減員を余儀なくされました。これに伴い、2024年1月末日をもって、当院での分娩取り扱いと周産期救急対応は出来なくなりました。地域住民の皆様にはご不便とご迷惑をおかけすることとなり、まことに申し訳ありません。現在、産婦人科は婦人科外来診療のみを行っております。入院・手術が必要な患者様に対しては、責任をもって適切な医療機関にご紹介させていただきます。引き続き、宜しくお願いたします。

なお、八代市に住民票がある出産後4か月未満のお母さんと赤ちゃんに対する「産後ケア事業(通所型および宿泊型ケア)」は、引き続き行っておりますのでご活用ください。また、2024年5月に思春期の心と体のお悩みに対する「思春期相談窓口」も開設しました。思春期保健相談士が対応いたします。男女を問いませんのでご相談ください。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
産婦人科	一般外来	福松	福松 (第1・3のみ)	福松	福松	福松
	がん検診	福松	福松	福松	福松	福松
	助産外来	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)

診療実績

(1)患者数

入院患者数	新患者数	172人
	延患者数	1,446人(4.0人/日)
外来患者数	新患者数	299人
	延患者数	3,883人(16.0人/日)

(2)手術実績(2023年4月～2024年1月)

〈婦人科〉

症 例	件数
子宮全摘出術	12件
悪性腫瘍AT+BSO、再発など	10件
筋腫核出術	3件
開腹付属器腫瘍手術	27件
円錐切除	0件
子宮内膜搔爬術	4件
帝王切開	22件
選択	12件
緊急	10件
開腹手術	89件

〈産科〉

症 例	件数
分娩数(帝王切開23例、双胎1例含む)	40件
流産処置(手動真空吸引法)	1件

施設認定等

- 産婦人科専門研修連携施設

思春期相談窓口

〈対象〉

- ・ 思春期世代の方(10歳から18歳の男女)で心や体・性に関する相談をしたい方
- ・ 保護者の方で、子どもの性に関する相談をしたい方

〈相談内容の例〉

- ・ 初潮をはじめとする体の変化、外性器の悩み
- ・ 月経に関すること
- ・ ピルについて
- ・ 性感染症について
- ・ 避妊・アフターピルについて
- ・ LGBTQなど性に関すること 等

〈料金〉

30分 500円(税込み)
保険診療外です

〈予約〉完全予約制

電 話 0965-33-4151(代表)※
予約受付時間 平日13時~16時

〈担当者〉

嶋田紫織(思春期保健相談士、性教育認定講師、アドバンス助産師)
古閑貴子(思春期保健相談士、看護師)

※お電話の際は「思春期相談の予約をしたい」とお伝えください。代表電話より担当部署(婦人科病棟)に繋がります。その際、お名前・希望日・年齢・連絡先・相談内容(簡単に良いです：月経について、避妊について、ピルについてなど)をお伝えください。

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介

耳鼻咽喉科部長

増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、がん治療認定医、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会騒音性難聴担当医、補聴器適合判定医師、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科副部長

宮本 祐亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科医師

竹村 隼也

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科専門医、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科医師(非常勤)

植田 寛之

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

耳鼻咽喉科の特色

常勤医3名体制で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っています。

特色

- ① 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っています。
- ② 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っています。
- ③ 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加している。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行しています。また頭頸部癌手術も積極的に施行しています。終末期医療もできる限り当院で行っています。
- ④ 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいます。予約制の特殊外来として、難聴耳鳴外来、嚥下障害外来、嗅覚外来、顔面神経麻痺リハビリ外来、めまい外来を行っています。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増するこ

とが予測されるため、これに対応する外来診療の充実を図っています。

- ⑤ 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加しています。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
午前	初診	増田	増田	宮本	増田	担当医 (初診のみ)
	再診	宮本	竹村	竹村	宮本	
	専門外来				補聴器・ 耳鳴 (要予約)	
午後	専門外来	補聴器・ 耳鳴 (1,3,5週) (要予約)			嚥下障害 (要予約)	
		顔面神経 (増田) (要予約)				

手術

	月	火	水	木	金
午前		○			○
午後	○	○			○

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	624人
	延患者数	4,541人(12.4人/日)
外来患者数	新患者数	1,545人
	延患者数	8,624人(35.5人/日)

手術実績

症例	件数
耳科手術	計 48件
鼓膜チューブ挿入術	43件
先天性耳瘻管摘出術	5件
鼻科手術	計 249件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	108件

耳鼻咽喉科

症 例		件数
鼻中隔矯正術	鼻中隔矯正術	60件
	鼻甲介切除術	76件
	涙嚢・鼻涙管手術	4件
	その他	1件
口腔咽喉頭手術		計 217件
扁桃摘出術	140件	
アデノイド切除術	39件	
唾石摘出術	3件	
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	5件	
咽頭良性腫瘍摘出術	2件	
その他咽頭手術	9件	
喉頭微細手術	18件	
誤嚥防止手術	1件	
頭頸部手術		計 76件
頸部郭清術	8件	
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2件	
耳下腺良性腫瘍摘出術	12件	
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1件	
甲状腺良性腫瘍摘出術	2件	
甲状腺悪性腫瘍摘出術	9件	
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	13件	
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	3件	
喉頭悪性腫瘍摘出術	3件	
リンパ節生検	8件	
頸部嚢胞摘出術	2件	
顎下腺摘出術	1件	
その他の頸部手術	12件	
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)		22件
気管切開術		22件

学会・講演会発表等

- 学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
日程・会場等 令和5年5月13日、熊本
発表者 増田聖子
共同演者: 植田寛之、村上瑛、竹村隼也
演題名 末梢性顔面神経麻痺後遺症に対する治療について
- 学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会

日程・会場等 令和5年5月13日、熊本
発表者 木脇領太
共同演者: 村上瑛、植田寛之、増田聖子、折田頼尚
演題名 術前に診断し得た右非反回下喉頭神経、右胸管の1例

- 学会名** 第46回日本顔面神経学会
日程・会場等 令和5年6月2日～3日、大阪
発表者 増田聖子
演題名 当科における末梢性顔面神経麻痺症例の検討
- 学会名** 熊本鼻副鼻腔疾患講演会
日程・会場等 令和5年10月7日、熊本
発表者 増田聖子
演題名 当科のESS手術とデュピルマブの使用状況
- 学会名** 第74回日本気管食道科学会
日程・会場等 令和5年11月14日～15日、福岡
発表者 植田寛之
共同演者: 竹村隼也、村上瑛、高野若菜、増田聖子
演題名 気道管理に難渋した放射線誘発気管癌の1例
- 学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会冬期学術講演会
日程・会場等 令和5年11月25日、熊本
発表者 増田聖子
演題名 末梢性顔面神経麻痺256例の検討
- 学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会冬期学術講演会
日程・会場等 令和5年11月25日、熊本
発表者 竹村隼也
演題名 頸部壊死性筋膜炎の1例
- 学会名** 令和5年度 聴力検査実技講習会
日程・会場等 令和5年12月10日、熊本
発表者 増田聖子
演題名 講義科目:耳の構造と機能
- 学会名** 第33回日本頭頸部外科学会
日程・会場等 令和6年2月1日～2日、松山
発表者 村上瑛
共同演者: 植田寛之、竹村隼也、増田聖子
演題名 耳下腺膿瘍から発症した深頸部膿瘍、下降性縦隔膿瘍の1例
- 学会名** 令和5年度熊本県医師会 日本医師会生涯教育講座
日程・会場等 令和6年3月2日、八代
発表者 増田聖子

- 演題名** 講義：摂食嚥下機能障害(CC49:嚥下困難 0.5単位)
- **学会名** 睡眠時無呼吸症候群(SAS)地域連携会 IN 八代
- 日程・会場等** 令和6年3月13日、八代
- 発表者** 増田聖子
- 演題名** 熊本労災病院におけるSAS診療
- **学会名** 19th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery
- 日程・会場等** 令和6年3月20日～22日、ソウル
- 発表者** Masako Masuda
Akira Murakami, Junya Takemura, Hiroyuki Ueda
- 演題名** Investigation of 27 cases of neck abscess
- **学会名** 19th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery
- 日程・会場等** 令和6年3月20日～22日、ソウル
- 発表者** Akira Murakami
Masako Masuda, Junya Takemura, Hiroyuki Ueda
- 演題名** Study of swallowing function test in our department for one year
- **論文題名** Human papillomavirus-related multiphenotypic sinonasal carcinoma: A report of two patients and review of literature
- 雑誌名** Auris Nasus Larynx 50(3): 473-477, 2023
- 筆頭著者** Satoru Miyamaru
- 共同著者** Tetsuji Sanuki, Yusuke Miyamoto, Kohei Nishimoto, Masako Masuda, Yumi Honda, Yoshiki Mikami, Yori-hisa Orita
- **論文題名** 眼症状で発見された乳癌副鼻腔転移例
- 雑誌名** 耳鼻咽喉科臨床 116(12): 1189-1197, 2023
- 筆頭著者** 増田聖子
- 共同著者** 植田寛之、高野若菜、村上瑛、岡崎太郎、宮丸悟、讃岐徹治
- **論文題名** 当科における末梢性顔面神経麻痺症例の検討
- 雑誌名** Facial Nerve Research Japan 43: 179-181, 2023
- 筆頭著者** 増田聖子
- **論文題名** 妊娠中に発覚した涙嚢原発扁平上皮癌の1例
- 雑誌名** 耳鼻と臨床 70(2): 101-107, 2024
- 筆頭著者** 竹村隼也
- 共同著者** 竹田大樹、折田頼尚

論文等

- **論文題名** 小児多発血管炎性肉芽腫症の1例
- 雑誌名** 耳鼻咽喉科臨床 116(4): 331-337, 2023
- 筆頭著者** 植田寛之
- 共同著者** 高野若菜、宮丸悟、折田頼尚、増田聖子
- **論文題名** 頭蓋底浸潤をきたした浸潤性副鼻腔真菌症の2例
- 雑誌名** 耳鼻咽喉科臨床 116(6): 579-592, 2023
- 筆頭著者** 岡崎太郎
- 共同著者** 草場雄基、高野若菜、植田寛之、宮丸悟、増田聖子、折田頼尚
- **論文題名** 微小変化型ネフローゼ症候群と重症筋無力症を合併症として認めた異所性胸腺腫の1例
- 雑誌名** 日本気管食道科学会会報 74(3): 259-263, 2023
- 筆頭著者** 村上瑛
- 共同著者** 大園一隆、折田頼尚

施設認定等

- 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科研修施設
- 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)

眼科

スタッフ紹介

眼科医師

吉積 華子

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会、日本白内障屈折矯正手術学会、緩和ケア研修会修了

視能訓練士

2名

眼科の特色

眼科の診療体制は医師1名、看護師1名、視能訓練士2名で診療を行っています。外来日は月曜日～金曜日の主に午前中で、完全予約制ではありませんので当日午前11時までに受診いただきますようお願いいたします。午後からは特殊検査・処置、手術説明会を行っています。手術は月・木曜日の午後で全て入院下で施行しており、白内障手術を中心とし翼状片手術の他、全身麻酔下で涙嚢鼻腔吻合術鼻内法(DCR)を施行しています。耳鼻咽喉科と眼科合同手術のため鼻中隔湾曲症や副鼻腔炎など併発するような涙道狭窄・閉鎖症例においては鼻中隔矯正術、内視鏡下副鼻腔手術など同時手術が可能です。令和5年度手術件数は内眼手術182件、外眼手術25件(含DCR)、レーザー手術35件となりました。今後とも熊本県南の中核病院としての役割を果たしていけますよう努めて参りたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉積	吉積	吉積	手術日につき要相談	吉積

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	176人
	延患者数	489人(1.3人/日)
外来患者数	新患者数	445人
	延患者数	5,609人(23.1人/日)

手術・治療実績

内眼手術	件数
白内障手術(超音波乳化吸引術)+眼内レンズ挿入術	182件

外眼手術	件数
涙嚢鼻腔吻合術	3件
涙器に関する手術	1件
霰粒腫摘出術	3件
翼状片手術	6件
その他手術	9件

レーザー手術	件数
レーザー手術虹彩切開術	1件
YAGによる後発白内障切裂術	22件
網膜光凝固術	12件

硝子体注射	件数
アイリーア	79件
ルセンチス(ラニビズマブBS含む)	109件
バビースモ	12件

学会・講演会発表等

- 学会名 第38回JSCRS学術総会
- 日程・会場 令和5年6月、北海道札幌市
- 発表者 吉積華子
- 演題名 2種IOLの年齢による中間視力

リハビリテーション科

スタッフ紹介

リハビリテーション科部長

松村 直樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本リハビリテーション医学会認定医、がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、日本老年医学会東海支部主催高齢者医療研修会研修修了

リハビリテーション科の特色

当科は、リハビリテーション科医師1名、理学療法士16名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、診療助手3名でのスタッフで構成されています。

リハビリテーションは様々な疾患や外傷によって生じた障害に対して、その評価と診断のもとに必要・適切な治療を行うものであり、食事、移動、排せつ、更衣、整容などの日常生活動作(ADL)を自立して行い、かつ日常生活関連動作(IADL:買い物、調理、洗濯、掃除など)も快適に遂行でき、介助量を軽減して生活の質(QOL)を高め、復学、復職、家庭復帰していくことを目指します。

当院では、急性期脳血管障害、整形外科疾患、脊髄損傷、各種神経疾患のリハビリは勿論のこと、心臓循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患等で安静臥床が必要な患者様に生じやすい廃用症候群の予防を目的としたリハビリについても、入院または手術後の早期から取り組んでいます。他にも、脳血管障害等で生じた上下肢筋痙縮に対してボツリヌス毒素を用いた治療も行っております。

様々な病態に対して、ニーズに応じたリハビリテーション治療を提供できるよう、知識技術・人間力の向上に努めてまいります。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
松村	松村	松村	松村	松村

施設認定等

- 日本脳ドック学会認定施設

放射線科

スタッフ紹介

放射線科部長
臨床教授

荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了

第二放射線科部長

横田 康宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会

放射線科医師

外村 政道

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、放射線専門医、日本IVR学会、日本磁気共鳴医学会

放射線科医師

吉村 文博

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、日本IVR学会

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関および画像診断管理認証施設に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼動しています。熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。さらに令和3年10月に2台体制の64列CTを更新致しました。更新したCTはスイッチング方式のデュアルエナジーCTですので、上記2管球CTと合わせて従来と比べ、レベルアップした診断体制となりました。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
一般外来	荒木	井上	横田	荒木	荒木
特殊外来		放射線治療外来 村上 (非常勤) 要予約		IVR外来 田村 (非常勤) 要予約	放射線治療外来 山田 (非常勤) 要予約

診療実績

検査実績

区分	件数
CT 検査	17,724件
MRI 検査	5,918件
RI 検査	351件
(その他)大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。	

学会・講演会発表等

- 開催名 八代画像診断検討会
日程・会場等 令和5年9月26日、八代市
発表者 荒木裕至
題名 強直性脊椎骨増殖症の一例
- 開催名 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和5年6月20日、熊本市(WEB)
発表者 森口直哉
題名 嚢胞内出血を伴う中皮嚢胞の一例
- 開催名 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年4月28日
発表者 塚本尚紀、横田康宏
題名 Wernicke脳症の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年8月30日
発表者 藤井章太、井上泰平
題名 左房粘液腫の1例
- 開催名 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年9月20日
発表者 上妻美緒、横田康宏
題名 術前に診断が可能であった十二指腸GISTの一例
- 開催名 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年12月7日
発表者 田畑遼、井上泰平

題名 術前の診断が困難だった子宮体部類内膜癌及び卵巣類内膜癌の一例

- **開催名** 院内症例検討会
- 日程・会場等** 令和6年3月28日
- 発表者** 糸永光里、横田康宏
- 題名** 骨盤内神経鞘腫の一例

論文発表

- **雑誌名** 臨床放射線 68:591-596 2023
- 題名** 頸椎及び椎体外に発生した赤芽球性肉腫の一例
- 発表者** 森口直哉、荒木裕至、井上泰平、横田康宏
池田天史、栗脇一三

施設認定等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

麻酔科

スタッフ紹介

麻酔科部長
集中治療科部長

成松 紀子

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本救急医学会救急科専門医、Infection Control Doctor (ICD)、日本DMAT隊員(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第二麻酔科部長
中央手術部長

山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本臨床麻酔学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第三麻酔科部長

中嶋 健

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本麻酔科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

麻酔科医師

日高 翔

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本麻酔科学会専門医

麻酔科医師

大中 崇行

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

麻酔科医師

中村 孝英

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、緩和ケア研修会修了

麻酔科の特色

常勤医6名に加えて週2回、熊本大学麻酔科より非常勤医師の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来で直接診察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適な麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安を和らげ

られるよう心がけており、質問などもお受けしています。麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。

術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

集中治療室は6床あります。基本的には主治医科管理になっていますが、平日の日勤帯は麻酔科医の担当医が携わるようにしています。術後の患者や救急患者の受け入れを行っています。

地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。救急救命士の気管挿管実習をはじめ、八代地域の救急隊員、救急救命士の技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療体制

術前外来

月	火	水	木	金
成松	成松	成松	成松	成松

診療実績

診療実績

症例	件数
手術室における手術件数 (局所麻酔症例含む)	3,717件
麻酔科管理症例数	2,479件
全身麻酔	2,176件

施設認定等

- 日本麻酔科学会認定病院

病理診断科

スタッフ紹介

病理診断科部長

栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格、臨床研修指導医講習会修了

臨床検査技師

臨床検査技師

井上 博幸

臨床検査技師

関本 香純

臨床検査技師

川野 陽子

臨床検査技師

園田 鮎美

臨床検査技師

田中 寛大

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。全身の組織（頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、脾、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など）の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本（胸水、腹水、肺、脾、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節など）の多彩な穿刺吸引細胞診を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診も行っています。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想してい

ない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断件数

	R3年度	R4年度	R5年度
組織診断	3,337件	3,889件	3,774件
術中迅速診断	118件	129件	124件
細胞診断	3,413件	2,741件	2,759件

施設認定等

- 日本病理学会研修登録施設
- 日本臨床細胞学会認定施設

初期臨床研修医

臨床研修理念

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児救急医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。当院での研修を通して、医師としての社会的使命を認識し、生命に関わる倫理の向上や人格の涵養を図り、どこでもどのような立場でも活躍できる能力を備えた医師の基礎を形作ります。

研修医の自主性が尊重される研修システムであり、積極性のある研修医は臨床経験も豊富となり、大きな伸びが期待できます。

研修プログラムの特徴

内科においては、総合内科として6か月の研修をまず行い、その後希望に応じた多彩で柔軟なプログラムを用意します。

研修医は現在2年次が4人、1年次が8人所属しており、指導医がマンツーマンできめ細かく対応しています。経験症例は、カンファレンスや医局会で発表し、1年目から学会（地方、全国）発表も行っています。また、研修期間内で論文（英文和文）の投稿についても指導しており、実績もあります。

その他、労災病院の特色として、勤労者医療・産業医活動、職業別疾病医療も研修が可能です。

2年次研修医(令和5年度採用)



左から：長 春菜、糸永光里、荒金真帆、天野ゆり

1年次研修医(令和6年度採用)



後列左から：金村尚純、福永怜央、江口航平、松迫朋弥
前列左から：西川文華、蓮池美玖、富士登璃子、山本真音



救急対応



中心静脈カテーテル講習会



外傷初期診療の指導



シーネ固定

中央手術部

スタッフ紹介

第二麻酔科部長
(兼中央手術部長)

山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】 麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本臨床麻酔学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

手術室師長

田頭 久代

中央臨床工学部長

植田 公昭

麻酔科常勤医師 6名
 看護師 23名
 (※特定看護師(術中麻酔管理領域)1名含む)
 看護助手 1名
 臨床工学技士 7名
 医師事務作業補助者 1名
 ○手術室数:8室(うち1室バイオクリーンルーム)、
 1室簡易陰圧装置設置

中央手術部の特色

- ・ 外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科、消化器内科の手術を行っています。
- ・ 予定手術だけでなく緊急手術を数多く受け入れており、休日・夜間は麻酔科医1、2名と看護師2、3名のオンコール体制で24時間の緊急手術に備えています。

看護師の取り組み

- ・ 術前訪問：外来で、もしくは病室を訪問し入室してから退室前までの流れを説明し、患者さんの不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいます。
- ・ 術後訪問：術後患者さんを訪問し、術中の良肢位保持や安全確保のためのフィードバックにつなげ、より良い看護が行えるよう取り組んでいます。

- ・ 安全対策：医療事故防止のために、手術全例でマーキング・タイムアウトを実施し、患者確認・手術部位確認の徹底を行っています。

診療実績

手術件数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
手術件数	3,380件	3,049件	3,258件	3,245件
緊急手術	950件	1,166件	1,184件	1,105件

手術が円滑に行えるよう各診療科・部門と協力を行いチーム医療に努めるとともに、患者様が安全・安心に手術を受けられるよう努力して参ります。

救急部

スタッフ紹介

一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)

飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

外来看護師長

中島 真由子

外来看護師長補佐	2名
看護師	8名
看護助手	1名
医師事務作業補助者	1名

救急部の特色

熊本労災病院は、開院以来、八代医療圏のみならず県南地域の二次救急医療の拠点病院として急性期医療を担ってまいりました。八代を中心に、水俣・葦北、人吉・球磨、宇城などの周辺医療圏より、年間およそ3,500台から4,000台もの救急車を受入れているほか、ヘリポートの設置以降は、天草医療圏や熊本医療圏など、より遠方の医療圏からの救急

患者についても、積極的に受入れを行なっています。

熊本労災病院救急部の特徴は、日勤帯／夜間帯あるいは平日／休日を問わず、24時間、365日、内科系および外科系の当番医師をそれぞれ配置していることにあります。これにより迅速かつ適切な受入れ、初期診療が可能で、全診療科の各専門医の医療的介入へ円滑につなげることが可能となっています。また当救急部は、いわゆる“持ち寄り型”ともいえますが、疾患によっては、各科専門医が、より迅速に介入できる利点があります。とりわけ高エネルギー外傷などの重症外傷については、外科、整形外科、脳神経外科が連携して対応しているほか、小児科、産婦人科に積極的に参画してもらうことで、熊本県小児初期救急医療病院、熊本県産科中核病院としての機能を果たしています。

そのほか、当救急部としては、八代救急隊との病院滞在型救急ワークステーションや、院内職員や救急隊のほか、保健所、開業医の先生方にもご参加いただく救急症例検討会などをおして、救急隊はもとより、圏内の救急医療に関わる諸先生方とのパートナーシップをより深化してまいります。救急専門医指揮下の独立した救急チームや専用入院病床の整備など、未完成な点も多々ありますが、従前の体制による機動的な運用でカバーしつつ、今後の継続的進化を目指したいと思っております。

最後に、あらためて熊本労災病院救急部の発足をお知らせするとともに、“全ては、救急患者さまのため”、全身全霊を込めて、県南地域の急性期医療を支えてまいり所存ですので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

救急搬送件数の推移

救急車搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	295	299	305	400	372	328	348	319	348	350	292	296	3,952
R3	290	320	293	376	311	291	344	332	378	336	300	378	3,949
R4	323	333	418	465	401	385	364	339	437	429	365	385	4,644
R5	377	356	342	461	484	400	376	403	402	391	342	340	4,674

救急ヘリ搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	4	1	0	27	3	2	4	1	3	3	2	1	51
R3	7	0	0	3	3	2	3	3	2	3	3	2	31
R4	0	1	2	1	3	2	1	0	2	1	4	2	19
R5	1	1	2	1	1	1	2	1	0	2	3	0	15

※令和2年7月は、豪雨災害による増

DMAT

スタッフ紹介

■ 医師

(統括DMAT)
一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)

飯坂 正義

麻酔科部長(統括DMAT)

成松 紀子

第二脊椎外科部長(統括DMAT)

武藤 和彦

■ 看護師

看護師長補佐

岩本 真奈美

看護師長補佐

橋本 直紀

稲田 聡美

中倉 智樹

三浦 由美子

大山 里奈

松下 千鶴

■ 業務調整員

主任理学療法士

長田 政和

医療ソーシャルワーカー
(社会福祉士)

椋谷 豊

池田 隼人

DMATの特色

熊本労災病院は、熊本県地域災害拠点病院に指定されており、DMAT指定医療機関でもあります。DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは、災害時医療派遣チームの一つで、その発端は、1995年に発生した阪神・淡路大震災に遡ります。阪神・淡路大震災においては、500人以上の防ぎ得たであろう災害死があったと推定されています。その背景には、①発災直後から介入できる機動性をもった医療チームがなかったこと、②災害時に診療拠点となる医療機関がなかったこと、③被災地域から非被災地域への患者搬送のシステムがなかったこと、そして④災害時における医療機関の情報を共有するツールがなかったこと、などがあったとされ、我が国の大規模災害への対応の脆弱性が露呈した出来事となりました。これを契機に、①DMATの養成、②災害拠点病院の整備、③広域搬送システムの構築、④EMIS(広域災害緊急医療情報システム; Emergency medical information system)の整備が進められました。

近年、地震災害や豪雨水害などが、毎年のように日本各地で発生し、その規模も広域化、甚大化しています。熊本県も例外でなく、記憶に新しいところでは、熊本地震、九州北部豪雨災害、そして令和2年7月豪雨災害などの大規模災害を経験することとなりました。特に、令和2年7月豪雨災害では、熊本県地域災害拠点病院である当院に、県南地域保健医療調整本部が設置され、球磨川流域をはじめ、甚大な被害を受けた県南地域の豪雨災害に対応することとなりました。このとき受け入れたDMATは、熊本県内のみならず、九州・沖縄、近畿、東海、四国ブロックなど広域に及び、のべ60隊を数えました。またその活動は、病院はもとより、診療所、介護施設、避難所など多岐にわたり、EMIS上でのモニタリングに始まり、医療施設と入院患者、介護施設と入居者の安否確認、避難所スクリーニングなどに奔走しました。また被災医療機関に対しては、資機材の提供のほか、入院患者様の転院・受け入れ調整、病院避難などの支援を行いました。

私たち熊本労災病院DMATは、こうした県内有事のみならず、今後起こりうるとされる首都直下型地震や南海トラフ地震など、国家的規模の大災害などに対応すべく、訓練、技能維持に努め、活動してまいります。



訓練参加時



令和2年7月豪雨

医療安全管理室

スタッフ紹介

医療安全管理室長
医療安全総括責任者
(副院長)

佐々木 雅人

医療安全管理者

高野 さおり

構成員

医療安全対策委員会
副委員長

大矢 雄希

脊椎外科部長

川添 泰弘

医療機器安全管理責任者
(麻酔科部長)

成松 紀子

事務局次長

伊藤 新

糖尿病・代謝内科部長

金子 健吾

医薬品安全管理責任者
(薬剤部長)

玉置 秀成

医療放射線安全管理責任者
(放射線科部長)

荒木 裕至

医事課長

小松 靖明

概要

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者に医療を提供している。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題である。そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要である。

医療事故を防止するためには、「人間はエラーを犯すものである」ということを前提として、スタッフ及びシステムによるエラーのチェック機能を強化していくことが重要である。そのためには、医療事故やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策の検討を行

い、再発防止のために組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動している。

業務内容の特徴と実績

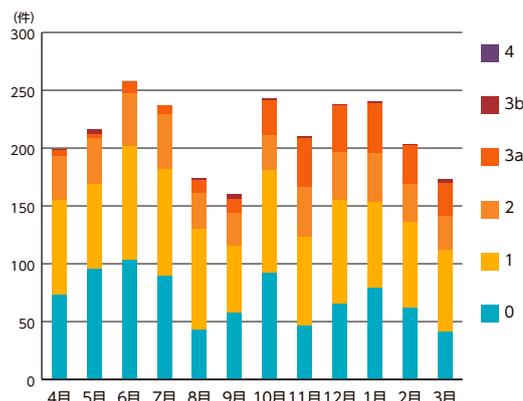
医療安全に対する目標及び活動計画を立案し、インシデントレポート、医療事故報告から発生した事実の実態調査と対策についての検討を行っている。重要事例に関しては病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者が相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては、医療事故緊急対策会議にて対応について検討している。

今年度より全職種で組織横断的に診療の質、システム改善を目的としM&Mカンファレンスを2例実施した。全職員の情報共有と学びの機会の場として、さらに安全文化を醸成するためにも定期的を開催していく。

医療安全対策委員会の下部組織に実働部隊としてリスクマネジメント会議を設置している。ここでは多職種による事例分析や情報共有、安全ラウンドを実施し、職種間の連携を重視した活動を行っている。また、職員の安全教育の一環である医療安全対策研修会はe-ラーニングによる研修を実施し、複数回視聴できるように学習の機会を提供している。

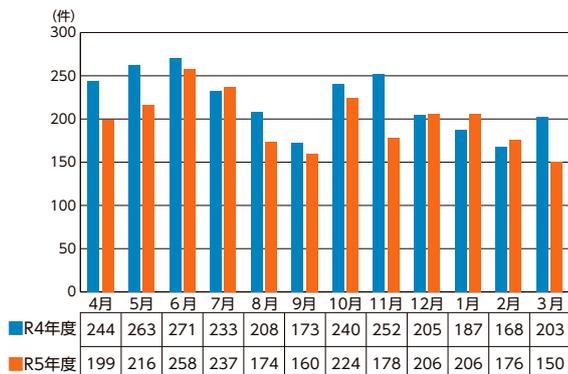
新規採用者、中途採用者へのオリエンテーションを活用した安全教育や、院外での医療安全に関わる研修や講演会への参加、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講を推進し職員の安全文化の醸成に取り組んでいる。また地域連携相互チェック、労災病院間医療安全相互チェックなどを行い、他施設からの助言を取り入れた安全の視点での業務改善なども行っている。

令和5年度月別レベル別報告件数
報告総数2,635件

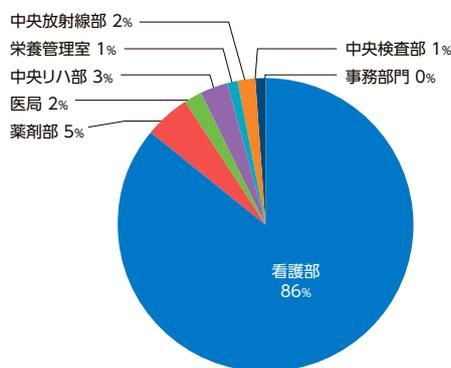


医療安全管理室

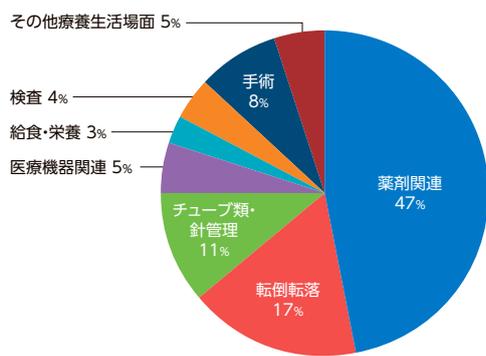
■ 報告件数R4年度、R5年度比較



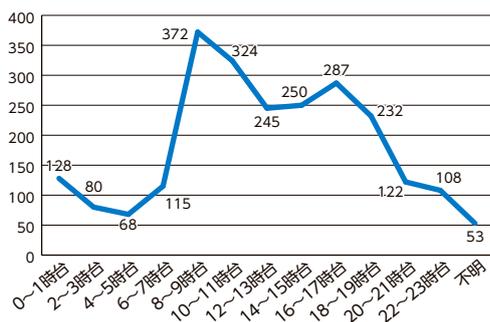
■ R5年度部門別報告



■ R5年度医療事故報告表題別



■ 令和5年度発生時間別件数



医療安全講演会及び研修会

- 2023年7月10日～8月4日 e-ラーニング
テーマ「院内迅速対応システムについて」
全職員視聴100%
- 2023年12月14日
テーマ「良質な医療を提供するために」
当日参加+e-ラーニング視聴100%
- 2023年5月22日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
医師対象
講師：林田信太郎 移植外科部長
- 2023年5月23日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
研修医対象
講師：林田信太郎 移植外科部長

*その他、BLS研修、KYT研修、医療ガス研修など開催

医療安全推進週間

- 2023年11月22日～24日
テーマ「あなたを守るお手伝い」
- 医療安全ポスター掲示
- 医療相談コーナー
手洗いチェック、転倒予防運動、栄養相談、INBODY測定、AEDの使い方
- 医療安全パトロール
患者確認安全ラウンド
- システム改善ポスター発表
医事課
「車への安全な乗り移り～移乗介助方法～」
中央検査部
「ヒト+システム ダブルで防ぐ」
「緊急輸血対応に関するシステム改善」
薬剤部
「医薬品監査システムの紹介」
中央臨床工学部
「人工呼吸器の安全管理～回路・加温加湿器の統一～」
栄養管理部
「給食施設使用不可時における食事提供対応マニュアルの改善」
中央リハビリテーション部
「リハビリ介入後の鼻腔からの栄養チューブ自己除去事例に対して、中央リハビリテーションによる再発防止策の取り組み」
中央放射線部
「MRI検査時における貼付剤使用患者様への対策」
看護部
「誤配膳防止への取り組み」

感染制御部

スタッフ紹介

感染制御部長(呼吸器内科部長)

安道 誠

【認定・資格】インフェクションコントロールドクター

感染管理認定看護師

和久田 容子

感染対策チームスタッフ

小児外科部長

大矢 雄希

【認定・資格】インフェクションコントロールドクター

主任薬剤師

丸山 久美子

【認定・資格】感染制御専門薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師

主任臨床検査技師

森口 美琴

【認定・資格】感染制御認定臨床微生物検査技師

主任臨床検査技師

浜島 智央

【認定・資格】感染制御認定臨床微生物検査技師

感染管理認定看護師

高村 敦史

【認定・資格】感染管理認定看護師

感染管理認定看護師

大倉 尚子

【認定・資格】感染管理認定看護師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チーム(ICT)と協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。

- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。
- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。
- アウトブレイク発生に係ること。
- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること。
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

(1) 院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。新型コロナウイルス感染症の対応の検討、情報提供を行い、必要時には他の委員会と協働し対応を検討しました。

(2) ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者および*Clostridioides difficile*感染症(CDI)の患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

- 令和5年度ICTラウンド対象患者
 - MRSA：97件
 - ESBL産生菌：85件
 - その他の耐性菌：28件
 - CDI：20件
- 遺伝子検査(POT法)事例 なし

(3) サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、手術部位感染(SSI)部門、全入院患者部門)
- 熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランス
- 耐性菌サーベイランス
- SSIサーベイランス(外科・整形外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス
- 人工呼吸器関連イベント(VAE)サーベイランス
- 手指消毒剤使用量調査および手指衛生直接観察

感染制御部

(4) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動

広域抗菌薬(MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC、LSFX)や抗MRSA薬(VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP)の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。2020年度からは外来における上気道炎および感染性胃腸炎に対する経口抗菌薬の使用に関しての把握も行き、抗菌薬の適正使用に向けた取り組みを行っています。

- 令和5年度 AST介入実績
 - 血液培養陽性者：256件
 - 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：147件
 - その他：1件

(5) 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎ウイルスなど)検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。また、針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。その他、院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

- 血液・体液曝露発生数
針刺し・切創：21件 粘膜曝露：5件 その他：0件
- 結核 令和5年度 結核曝露発生数：2件

(6) 教育・啓発

【教育】

- 入職者オリエンテーション
- 院内感染対策研修会の企画・開催(e-learningにより開催)
 - ① 令和5年11月22日～令和6年2月26日
「血液培養について」
「SARS-CoV-2とインフルエンザについて」
 - ② 令和6年2月5日～3月31日
「標準予防策について」
 - ③ 令和6年3月21日～4月14日
AMR(薬剤耐性)対策アクションプラン
～2016-2020年の振り返りと2023-2027年の評価指標～

【啓発・広報】

- 院内感染対策菌 週報の発行

- 院内誌(ばんべいゆ)における「Infection Control Teamだより」の掲載
- 医療安全推進週間におけるイベント(外来ホールにおける手洗いチェック)

(7) コンサルテーション

院内・院外を対象に、感染症診療および感染対策に関するコンサルテーション

(8) アウトブレイク等の対応

【令和5年度における対応事例】

- 新型コロナウイルス感染症の院内発生事例
 - 新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生した事例：12例
 - インフルエンザ感染症によるアウトブレイク事例：2例

(9) 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

① カンファレンス

連携病院：八代北部地域医療センター、平成病院、たかの呼吸器科内科クリニック、八代ハートクリニック、保田医院、八代中央クリニック

- 令和5年6月30日(Web開催)
「令和4年度集計報告」「感染対策向上加算連携における概要説明と意見交換」
- 令和5年9月11日(Web開催)
「院内での感染症発生事例の共有およびディスカッション」
「情報提供(五類移行後のCOVID-19の対応、院内感染対策講習会について)」
- 令和5年12月4日(Web開催)
「院内での感染症事例の共有とディスカッション」
「情報提供(インフルエンザについて)」
- 令和6年3月26日(対面開催)
新興感染症等の発生を想定した訓練「麻疹発生時の対応シミュレーション」
会場：熊本労災病院中央診療棟5階会議室
共催 八代保健所、八代市医師会、八代郡医師会
参加施設：入院医療機関3施設、外来医療機関9施設

② 相互チェック

連携病院：熊本南病院、熊本再春医療センター
訪問：熊本地域医療センター(令和5年11月1日)
受審：上天草病院(令和5年10月20日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク(KCMN)
- 院外での研修会等：5件

地域医療連携部

スタッフ紹介

副院長
地域医療連携部長
松村 敏幸

副院長
地域医療連携副部長
福松 之敦

スタッフ

- 地域医療連携室

地域医療連携室係長	1名
地域医療連携室看護師長	1名
MSW	4名
退院支援看護師	4名
事務職	3名
- 入退院支援センター

入院支援看護師	3名
---------	----

地域医療連携室、入退院支援センターの特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者様の転院受入調整及び紹介患者様の問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保健施設等と幅広く連携業務を行っています。

また、患者様に対して、各諸法制度に関する手続き、各種障害、生活支援・行政サービスに関する相談などを行っています。他の医療機関とも更なる連携強化を図り、患者様に良質な医療が提供できるよう努力しています。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携し、がん等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

入退院支援センターでは、入院前の患者様に対し多方面からのサポートし、必要に応じて多職種と連携をとりながら、患者様の入院に対する不安の解消を図っています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師5名、MSW4名、事務職3名(うち1名兼任)の14名、入退

院支援センターは、看護師3名体制です。

ここでは、患者様の紹介・逆紹介の手続きや、入院患者様の入院から退院までのサポートを実施しています。

また、がん相談支援センターの専任看護師と共に、地域の医療機関とがんに関する情報を共有し、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上に努めています。

「両立支援相談窓口」では、がん等の病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

業務実績

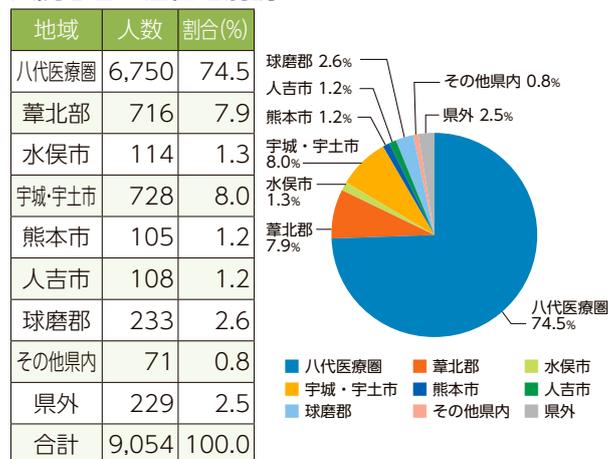
相談・支援件数

令和5年度	退院相談	1,796件
	在宅療養支援(外来)	550件

紹介率・逆紹介率

	令和4年度	令和5年度
紹介率	70.5%	79.7%
逆紹介率	89.5%	110.3%

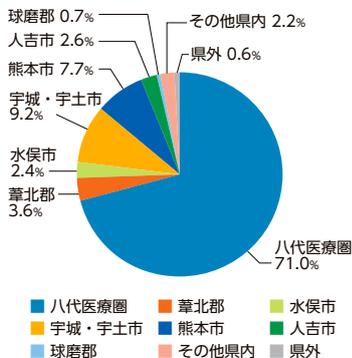
入院患者の居住地別調



地域医療連携部

患者の転院先地域別調

地域	人数	割合(%)
八代医療圏	918	71.0
葦北部	47	3.6
水俣市	31	2.4
宇城・宇土市	119	9.2
熊本市	100	7.7
人吉市	33	2.6
球磨郡	9	0.7
その他県内	28	2.2
県外	8	0.6
合計	1,293	100.0



両立支援相談窓口相談件数等実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	3	2	1	1	2	2	2	6	3	1	1	2	26
面談数	7	7	8	5	7	5	6	10	7	5	6	7	80

地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、1部では当院医師の専門分野について講演を行い、2部では懇親会を開催し、地域の開業医等の先生方との意見交換を行っています。

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院としての運営に関する意見交換を実施しています。

委員会名 第1回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和5年6月14日(水)
 場所 中央診療棟5階会議室
 出席者数 外部委員 6名
 当院委員 5名
 事務局 5名
 看護部 1名

委員会名 第2回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和5年8月31日(木)
 場所 中央診療棟5階会議室
 出席者数 外部委員 6名
 当院委員 5名
 事務局 6名
 看護部 1名

委員会名 第3回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和5年12月11日(月)
 場所 中央診療棟5階会議室
 出席者数 外部委員 6名
 当院委員 4名
 事務局 5名
 看護部 1名

委員会名 第4回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和6年2月19日(月)
 場所 中央診療棟5階会議室
 出席者数 外部委員 6名
 当院委員 4名
 事務局 6名
 看護部 1名

看護部

スタッフ紹介

看護部長
山上 艶子

看護副部長
坂上 和江

看護副部長
荒川 直美

スタッフ (令和6年6月1日現在)

看護師長	12名
看護師長補佐	12名
看護師	404名
准看護師	2名
看護助手(夜間助手含む)	35名
ワーカー	2名

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さまに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

令和5年度目標

- 看護の質向上
- 働きやすい職場づくり
- 病院経営に貢献
- 看護職として主体的な自己成長

「看護の質向上」では、看護職の接遇向上、感染や安全対策の徹底、高齢者看護の充実、患者の意思決定に沿った退院支援など多くの事に取り組みました。看護職の接遇は、感謝やお褒めのご意見が多くなり成果がみられました。また、病棟の混合化(共通ベッド)に対応する為にIVナースの育成や認定看護師を中心に研修等を実施し、少しずつ混合化に対応できる看護師が増加しました。

「働きやすい職場づくり」では、早出勤務・遅出勤務(4病棟)を試行することで、時間外勤務の減少、夜勤帯の「休憩取れず」時間の減少、看護師のナースコール対応が早くなるなど多くの成果がみられました。

「病院経営に貢献」では、西3階病棟でレオカーナ血液浄化療法を開始しICUの救急患者等の受入がスムーズになりました。また病院の方針である「断らない救急」を目指し病床利用率向上や在院日数

の短縮のために看護部全体で取り組みました。タスクシフト/シェアでは、IVナースを育成しポート穿刺や抗がん剤投与時の静脈ルート確保、そして特定看護師6名が幅広い分野で実践しており医師のタスクシフトには貢献できました。

「看護職として主体的な自己成長」では、院内ナースングアワード12題の発表、令和6年3月の「日本医療マネジメント学会第26回熊本支部学術集会」は口演7題、ポスター12題を発表しました。能登半島地震に災害派遣看護師として7名が活動しました。

管理・運営

看護部職員配置 (令和6年6月1日現在)

看護部管理室	看護部職員	人数
看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長	1名
	看護副部長(兼看護師長)	1名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師)	6名
	地域医療連携室(看護師長、看護師)	8名
	看護部(看護師、事務補助)	5名
病棟部門	看護師長	8名
	看護師長補佐	9名
	看護師	275名
	看護助手	33名
	ワーカー	2名
外来部門	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	61名
	准看護師	2名
	看護助手	1名
手術部門	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	20名
	手術室看護助手	1名

看護体制

- 7：1看護(平成21年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
2交替制(救急外来)
待機制(手術室、内視鏡室、血管造影室)

看護部

各種会議・委員会

各種会議・委員会	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
キャリアアップ支援委員会	月1回
新人看護職員育成委員会	月1回
看護部接遇向上委員会	月1回
在宅ケア支援委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
看護基準・手順委員会	月1回
せん妄・認知症ケア委員会	月1回
看護部安全対策委員会	月1回
看護部感染対策委員会	月1回
看護部NST・褥瘡対策委員会	月1回
看護の日実行委員会	随時
認定看護師会	奇数月1回
特定看護師会	奇数月1回

各種会議(主な会議)

● 師長会議

看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。

● 師長補佐会議

看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。

各種委員会(主な委員会活動について記載)

● 教育委員会

キャリアラダーでは49名のレベル認定を行った。個々に能力を開発、維持・向上し、キャリアを形成できるように支援している。本部研修主催の中堅看護師研修には、10名が参加しそれぞれの課題解決に取り組んだ。また、VR研修では、せん妄・認知症ケア委員会とコラボレーションし、VRによる認知症の世界を体験した。

● キャリア開発支援委員会

継続教育として役割別研修・ラダー別のキャリアアップ研修に取り組んだ。キャリアラダーI～IVまで合わせて159名を認定した。IVナースの育成では、レベル1・2(36名)、レベル3(48名)、化学療法のライン確保ができるIVナース3C(3名)、CVポートの穿刺ができるIVナース3P(39名)が院内認定し資格を取得することができた。今後も看護職員のキャリアアップを支援し、看護の質向上の推進力となる人材を育成してい

きたい。

● 新人看護職員育成委員会

新人看護職員が看護技術を習得できるように研修を企画し、集合研修とOJTが連動するように取り組んだ。集合研修後はストレスチェックを実施し、職場環境に適応できているかを参考にしながら支援した。

● 看護記録委員会

看護記録の質向上を目指し、看護記録監査を実施した。記録の記載表現を倫理的側面から考える機会として、「看護者の倫理綱領」を意識し、誰も不快に感じない記録を心掛けるように学習した。また看護が見える記録を目指し、看護問題立案・修正、SOAP記載内容の改善に取り組みだした。次年度も引き続き継続する。

● 在宅ケア支援委員会

勤労者看護、在宅ケアの推進と支援の充実を目的に退院前後訪問を10例実施し、マネジメント学会でも事例発表を行うことができた。今年度は初めての試みで9/20に八代地域在宅医療・介護連携支援センターと協働で「ケア・カフェやつしろ in ろうさい」を開催し、院内42名、院外16名が参加し顔の見える関係作りができた。次年度も医療依存度が高い患者でも安全・安楽に在宅療養に移行し、在宅医療を継続できるように病棟～外来～地域の継続看護に取り組んでいく。

● 看護基準・手順委員会

ナーススキルと当院の手順の整合性をはかり、医療機器の手順作成と見直しを行った。ナーススキルの活用推進と統一された看護技術の提供を目標として年間を通して技術チェックに取り組み、看護の質向上に努めた。また、看護基準と医療機器の手順を電子カルテの看護部TOPページに掲載し、電子化することができた。

● せん妄・認知症ケア委員会

せん妄・認知症対応能力向上を図るため、研修参加、自己チェック実施、事例検討を通じた成功体験の共有、身体拘束最少化に向けた4つの取り組みを実施した。

● 看護部安全対策委員会

令和4年度のインシデント・アクシデントの結果の誤配膳6件に着目して、配膳時の患者誤認防止に取り組んだ。また、薬剤に関連したインシデントについては、モデル病棟での注射施行時のシングルチェックに取り組んだ。その結果、誤配膳は4件、薬剤関連は東4病棟でシングルチェックを導入しており、今後は更に取り組みを継続して、実施部署を拡大する予定である。

そして、上記以外では、年間を通して安全な療養環境提供のためのリスク感性支援・育成・強化の3点に取り組んだ。

● 看護部感染対策委員会

手指衛生の適切なタイミングと方法、医療廃棄物の正しい取り扱い、膀胱留置カテーテルの適正使用の3点を主に取り組み、各部署の委員と共に自部署の状況把握とスタッフ指導を実施した。また、今年度は手指衛生の直接観察法を認定看護師の指導を中心に活動。次年度は部署の看護師がリンクナースとして積極的な働きかけを行い手指消毒剤使用量の増加につなげていきたい。

● 接遇向上委員会

退院時アンケートや接遇マナー意識調査を実施し、各部署で改善策を考え接遇向上に取り組んだ。新人職員研修や看護補助者研修の中でも、医療接遇について講義・演習を行う。また、接遇基準や身だしなみチェックの改訂、ナースコールの対応改善を行った。ナースコールの対応改善の過程と成果はマネジメント学会での発表も行う。

● 看護部NST・褥瘡対策委員会

各部署の「褥瘡発生の現状と課題について」皮膚排泄ケア認定看護師とヒアリングを行い、部署の特性に合った対策を実施した。令和3年度から継続して2回目の実施となった。また、褥瘡対策にマットレスの適正な選択が課題となったが、独自のマットレス選択表でマットレスを選び、その結果高機能マットレスのリースを増やす働きかけを行った。更に、褥瘡管理システム「ZEROパルサー」を導入するにあたり、教育プログラムを組み教育した。MDRPUベストプラクティスを用いたMDRPU予防マニュアルを作成し、電子カルテから閲覧できるようにし、予防に働きかけた。

看護研究発表

- 2023年度熊本県看護協会八代支部看護研究
エンパワーメントを高めウエルビーイングにつながった外泊支援
(東5病棟 島井和美)
マルトリートメント予防への支援
(東3病棟 嶋田沙織)

- 日本医療マネジメント学会 第26回熊本支部学術集会

【口演】

- 呼吸サポートチームの現状と課題
(東5病棟 菅原真澄)
- 当院における院内迅速システム(RRS)の現状と課題
(ICU 寺瀬真利子)
- 注射実施時の適正な確認行動の取り組み
(東4病棟 多武直美)
- 精神疾患のある患者のストーマ造設から閉鎖まで
(看護部 坂田 舞)
- ナースコールの対応を改善し患者満足度を向上させるための取り組み
(東4病棟 塚本夏鈴)
- 看護部せん妄・認知症ケア委員会での取り組み
(手術室 大倉香代)
- 急性期病院における高齢者への身体拘束を減らすために必要なこと
(東5病棟 上淵恵子)

【ポスター】

- 患者と家族の思いに沿った退院支援
(東4病棟 松本麻美)
- がん薬物療法における曝露対策への取り組み
(外来 梅田知寿子)
- 急性期病院における体圧分散寝具に関する取り組み
(東5病棟 紫垣絵梨香)
- 入院患者の速効性麻薬(レスキュー)自己管理導入後の病棟看護師の意識調査
(看護部 岡山浩子)
- 緊急ストーマ造設となった外国人患者の1例
(看護部 坂田 舞)
- AYA世代がん患者のストーマリハビリテーション
(看護部 坂田 舞)
- 看護部感染対策委員の手指衛生に関する実態調査
(手術室 高村敦史)
- COVID-19クラスター発生時に実施したスクリーニング検査についての考察
(看護部 和久田容子)
- A病院におけるCVポートの使用状況と課題
(外来 梅田知寿子)
- 脳神経外科脳神経内科病棟看護師における改定水飲みテストの体験前後の意識調査
(中央4病棟 田中孝樹)
- 病棟看護師の退院支援に関する実態調査
(外来 中島真由子)
- A病院におけるIVナース育成の取り組み
(東3病棟 松本春美)

認定看護師

皮膚・排泄ケア

スタッフ紹介

皮膚・排泄ケア特定認定看護師
坂田 舞

はじめに

2011年6月に資格を取得し、2012年5月よりリソースナースセンター配属となりました。主に褥瘡管理者専従として、皮膚・排泄ケア領域における看護活動を展開してきました。2023年度の専従活動内容を以下に報告します。

活動と評価および次年度の課題

褥瘡管理者として今年度最大の専従活動は、褥瘡管理システム「ZEROパルサー」を導入できたことです。このシステムについては、10年以上にわたり必要性を提案し続け、打ち合わせやシミュレーション、研修会や説明会の企画・実施、動画作成、導入後のフォローなど、協力を得ながら多くの時間をかけて準備を進めてきました。

まだ導入して間もないですが、情報の一元化により、褥瘡ハイリスク患者や褥瘡を有する患者の把握、有病率等のデータ管理が非常に効率的になりました。危険因子評価や看護計画立案なども行いやすく、記入漏れも劇的に改善できました。褥瘡の経時記録やケア手順書の作成も可能となり、看護サマリーや患者指導にも活用でき、継続看護に役立てることができると思います。また長年、マットレス管理において使用率や不足状況がわかりにくい課題がありましたが、マットレスのバーコード管理が可能となり、使用状況がタイムリーに把握できるようになりました。

褥瘡管理に必要なハード面が整いつつあり、今後はシステムの活用方法や教育を含めたソフト面の充実が課題になると考えています。専任看護師を中心に、今後も組織的な褥瘡対策を展開していきたいと思っております。

活動件数

領域	ケア内容	件数
創傷ケア	術創ケア	18件
	難治性潰瘍(循環器足壊疽外来ほか)	789件
	ドレーン・ろう孔ケア	2件
	スキンテア	11件
	予防ケア	5件
	医療関連機器圧迫創傷	3件
	在宅等相談	56件
	在宅訪問	5件
	褥瘡回診	97件
	WOC褥瘡ラウンド	393件
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	347件
オストミーケア	ストーマサイトマーキング	10件
	周術期ケア	9件
	装具選択	142件
	セルフケア指導	151件
	トラブルケア	195件
	社会資源の説明と手続き	18件
	在宅サービスとの連携	65件
	生活指導	168件
	ケアシート作成	14件
	失禁治療的ケア	7件
	排泄管理指導	8件

<教育>

研修名	開催回数	参加人数
院内ワンポイントレクチャー(昼間15分程度)	5回	60人
院内研修会(新人研修、褥瘡勉強会など)	2回	75人
出前講座	1件	22人
合計	8回	157人

自己研鑽

学会

- 学会名 第32回 日本・創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
演題名 Supporting adolescents and young adults with cancer and stoma by balancing work and treatment to end-of-life care: A case report.
(英語オーラル発表：仙台市)
- 学会名 第5回 日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会
演題名 「足を切らずに治したい!」にチームで寄り添った791日 ―ネガティブケイパビリティで治癒に至った1事例―
- 学会名 日本医療マネジメント学会 第26回熊本支部学術集会
演題名 AYA世代がん患者のストーリーナビゲーション ―治療と仕事の両立支援から終末期支援までの1事例―
緊急ストーマ造設となった外国籍患者の1事例 ―生活と就労の支援―
精神疾患のある患者のストーマ造設から閉鎖まで ―かかりつけ精神科医や訪問看護師と連携して世帯ごと支援を行った1事例―
急性期病院における体圧分散寝具に関する取組み ―効果的な選択基準の考案―
⇒筆頭(口演1、ポスター2)、
共同演者(ポスター1)
- 学会名 令和5年度八代市部看護研究発表会(指導)
演題名 希死念慮を抱く肺がん終末期患者の外泊支援―ウェルビーイング改善につながった多職種アプローチ―

認知症看護

スタッフ紹介

認知症看護認定看護師

上淵 恵子

認知症看護認定看護師

柿本 里美

はじめに

認知症看護の質の向上を図り、認知症を有する患者様が、安全に安心して治療や入院生活を送ることができるよう、また、ご本人にとってより良い生活の場へ退院できるよう、認知症ケアチーム・せん妄ケアチームの一員として活動しています。

ご本人らしさや、持つ力に着目するとともに、ご本人に「聞く」こと、言葉でうまく伝えられないサインをキャッチして支援につなげています。

年間活動報告

(1) 病棟ラウンド

- 毎週水曜日：せん妄ケアチームラウンド
- 毎週木曜日：認知症ケアチームラウンド

(2) 院内研修

- 新人看護師研修
「認知症の基礎知識とコミュニケーション」
ロールプレイ
「帰宅欲求の強い認知症患者様への関わり」
- 看護補助者・夜間看護補助者研修
「認知症患者の見守りを依頼された場合」
- 院内全体研修
「認知症者の体験世界とは」
- 病棟ミニレクチャー
「認知症ケア技術の基礎知識」

(3) 学会発表

- 日本医療マネジメント学会 第26回熊本支部学術集会
「急性期病院における高齢者への身体拘束を減らすために必要なこと ―身体拘束の低減に取り組んだA病棟ナースの語りより―」
「看護部せん妄・認知症ケア委員会での取り組み ―車椅子乗車時の身体拘束ゼロに向けたアプローチ―」

クリティカルケア

スタッフ紹介

クリティカルケア認定看護師
寺瀬 真利子

はじめに

平成27年6月に集中ケア認定看護師となり、ICU病棟に所属し院内で活動を行なっています。特定行為研修を修了し、昨年度よりクリティカルケア認定看護師へ名称が変更となりました。ここに令和5年度の活動について報告します。

活動と評価

1 集中ケア領域において自らが役割モデルとなるよう、知識や技術の実践指導を行う。

(1) RST勉強会の開催(9回/年)

開催内容(人工呼吸器基礎コース)	開催日	参加数
はじめての人工呼吸療法	6月14日	37名
人工呼吸器の種類と使い方	7月13日	43名
人工呼吸器の安全管理	9月14日	22名
人工呼吸中の看護	10月12日	21名
開催内容(人工呼吸器にまつわるコース)	開催日	参加数
人工呼吸器の変更点について	5月11日	39名
循環器内科医が行う呼吸管理を解説	6月13日	29名
HFNCについて解説します	7月11日	35名
人工呼吸中のリハ介入	9月12日	13名
呼吸器離脱のポイント	10月10日	11名

(2) 院内にけるコンサルテーション

呼吸サポートチームメンバーとして週に1回のラウンドを実施しました。設定と指示書の確認や物品管理について確認し、看護ケアに関する助言を行いました。

【指導】新人オリエンテーション1件、勉強会4件、院内e-ラーニング4件

【相談】4件

(3) 熊本労災看護専門学校 講師

「健康危機状況にある人の看護」について、4回実施
「フィジカルアセスメント」について、7回実施

2 生命の危機状態にある患者・家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、リーダーシップを発揮し、関連する多職種との連携と協働ができる。

(1) 看護師特定行為の実施

呼吸器(気道確保に係るもの)関連	
・経口用気管チューブ位置確認	2件
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	
・人工呼吸器からの離脱	1件
・侵襲的陽圧換気の設定変更	2件
・非侵襲的陽圧換気設定変更	1件
動脈血液ガス分析関連	
・直接動脈穿刺法による採血	25件
・橈骨動脈ラインの確保	11件

緩和ケア

スタッフ紹介

緩和ケア認定看護師

岡山 浩子

はじめに

2005年8月に認定取得し18年目を迎えました。令和5年度の緩和ケア認定看護師としての活動を報告します。

活動実績

(1) 参加学会・研修、学会ポスター発表

- ① 第28回 日本緩和医療学会学術大会参加、ポスター発表
内容：「臨床研修2年目医師のがんサロン参加後の意識調査」
「AYA世代(高校3年生)の進行胃がん患者の就労・両立支援」
- ② 第26回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会参加、ポスター発表
内容：「入院患者の速効性麻薬(レスキュー)自己管理導入後の病棟看護師の意識調査」

(2) 緩和ケアチーム回診

- 回診件数：235件/年 新規介入：70件
回診実施日：定期回診(木曜日)+臨時回診
依頼診療科(呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科、婦人科、消化器外科、耳鼻科・循環器科)

(3) 緩和ケア研修開催

- 8月19日(土)
医師：13名、薬剤師：1名、看護師：16名

(4) がん患者指導管理

(イ)133件

(5) 教育

- ① 熊本労災看護専門学校講義
成人看護学方法論Ⅲ(終末期と緩和ケア)
90分×3回 対象：第54期生(2年生)

- ② 熊本県看護協会八代支部研修
「緩和ケア研修、ACPIについて」

(6) 市民講座

- 2月17日(土)開催
参加人数：89名 於：八代市役所
内容：「先生教えて、がんに関するあれやこれ」
PART3

 - ① 成年後見制度について
 - ② 消化器癌の内視鏡治療
 - ③ 紫外線と皮膚がん

(7) 熊本緩和ケアカンファレンス開催

- 10月21日(土)
内容：「看取り土」について
開催方法：ハイブリッド形式(参加人数：約100名)

認定看護師

がん化学療法看護

スタッフ紹介

がん化学療法看護認定看護師
梅田 知寿子

はじめに

2015年に認定資格を取得し、外来化学療法センター(以下治療センターと表記)に在籍しています。2023年度の活動について以下に報告します。

活動内容

治療センターでは、外来移行前にオリエンテーションを実施し、患者や家族が安心して治療を受けられるよう取り組んでいます。がん化学療法による有害事象に関しては、医師・薬剤師・治療センターや各科看護師と情報共有し、安全・安楽な治療ができるように連携しています。昨年度の治療センターの利用総数は約2,000件でした。

毎月開催のカンサーボードは、医師を中心に多職種が参加し、患者について情報共有や意見交換を行っています。さらに検討内容を関係スタッフと共有し、スムーズな治療継続を心掛けています。また、毎月のがん化学療法委員会へ参加し、レジメンの審査や有害事象報告に携わりつつ、治療センターの現状について報告しています。

院内のIVナース制度では、CVポート穿刺(3P)・がん化学療法投与時の血管確保ができる院内認定看護師(3C)の育成を医師の協力を得ながら進めています。昨年度までに3Pは50名、3Cは7名誕生しています。

院外活動として、学会でのポスター発表を2題行いました。

脳卒中リハビリテーション看護

スタッフ紹介

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
水町 広恵

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
田中 孝樹

はじめに

脳卒中看護分野において自己研鑽かつ、スタッフの知識・技術の向上に努め、多職種とのチーム連携を強化し、当院看護師が患者に質の高い看護が提供できることを目標にして活動を行いました。活動内容を以下に報告します。

年間活動報告

活動内容

- ① 日々の看護として病棟に入院される脳卒中患者の観察やアセスメント、看護介入、看護ケアを病棟看護師とともにいった。(実践・指導・相談)
- ② 年間13日認定活動(退院調整の促進・患者生活指導・再発予防指導20名)
中央4病棟学習会4回(NIHSS、体位変換、水飲みテストなど)
中央4病棟以外の入院中の脳卒中患者ラウンド実施
中央3病棟で慢性硬膜下血腫の患者看護について勉強会
- ③ 新人看護研修講師
4月(食事介助とポジショニング、嚥下評価について)
- ④ 排尿ケアチーム活動 ラウンド件数 81件(33名)
- ⑤ 看護の日:脳卒中に関する相談受付、血圧指導(5月)
- ⑥ 熊本労災看護専門学校講師
・成人看護学方法論Ⅰ(脳卒中患者を通して)
4~5月 計4回
・老年期看護学方法論Ⅰ 10月~2月 計7回
- ⑦ 医療マネジメント学会ポスター発表(3月)
「脳神経内科脳神経外科病棟スタッフにおける水飲みテストのレクチャー指導実施後の意識調査」

糖尿病看護

スタッフ紹介

糖尿病看護認定看護師

本山 詔誇

その他 役員活動

- 熊本地域糖尿病療養指導士会 認定委員・研修委員

はじめに

糖尿病看護認定看護師として、糖尿病患者の支援を院内外において行いました。その活動を以下に報告します。

活動状況

(院内)

- 新人研修 糖尿病における薬物療法 5月12日
- 熊本労災看護専門学校 成人看護方法論Ⅰ 計4回
- 糖尿病週間イベント開催 11月14日～11月17日
- 糖尿病教室の実施 毎週木曜日 14:00～15:00
- ミニレクチャー(インスリン注射の混濁について) 10部署

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
療養指導	75	69	75	59	59
透析予防指導	120	124	120	130	94
フットケア	281	313	281	296	371

*延べ件数

(院外)

- 第10回糖尿病看護実践力開発セミナー
ファシリテーター 7月2日
- 第3回多職種連携ミーティング・糖尿病看護学習会
企画・運営 9月9日
- 熊本地域糖尿病療養指導士資格取得者研修
講師 10月14日
- 糖尿病カードシステム研修
ファシリテーター 11月26日
- 第5回日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会
学術集会
「足を切らずに治したい!」にチームで寄り添った難治性足病変の1事例—ネガティブケイパビリティの概念—
共同演者

認定看護師

呼吸器疾患看護認定看護

スタッフ紹介

呼吸器疾患看護認定看護師

菅原 真澄

はじめに

呼吸器疾患看護認定看護師として自己研鑽を行い、病棟スタッフの一員として実践を通し、呼吸器関連の援助に対するニーズを見出しながら指導・相談支援につながるよう病棟内外での活動を行っています。

年間活動報告

(1) 院内外の研修講師、講義

① RST勉強会開催

基礎コース 4回開催

開催内容	開催日	参加数
はじめての人工呼吸療法	6/14	37名
人工呼吸器の種類と使いかた	7/13	42名
人工呼吸器の安全管理①	9/14	22名
人工呼吸器の安全管理②	10/12	21名

応用コース 5回開催

開催内容	開催日	参加数
人工呼吸器の変更点について	5/11	39名
循環器内科医が行う呼吸管理を解説	6/13	29名
HFNCについて解説します	7/11	35名
人工呼吸中のリハ介入	9/12	13名
呼吸器離脱のポイント解説	10/10	11名

RSTメンバーで講師を担い、院内に向けた勉強会を開催しました。

② 熊本労災看護専門学校講師

「セルフマネジメント」

「フィジカルアセスメント呼吸・消化器」

③ 出前講座

「フィジカルアセスメント呼吸」 桜十字八代

④ 学会発表

「当院呼吸サポートチームの現状と課題」

医療マネジメント学会熊本

(2) 院内活動

① 呼吸サポートチーム

人工呼吸関連のケアなどが安全に行われているかラウンドや啓蒙活動を行いました。

ラウンド：毎週火曜11時～

メンバー：医師、臨床工学技士、リハビリテーション(PT)、医事課、看護師

② 特定行為実践

救急領域：人工呼吸器関連、血液ガス採取

③ RRS

日勤勤務時、病棟業務と兼務で担当を担い、ラウンドなどを行いました。

④ 認定活動

・ IPPV、NPPVに関し呼吸器設定、管理などに携わりました。

・ 人工呼吸療法の導入などの継続した看護、観察へつながるようかかわりました。

がん相談支援センター

スタッフ紹介

がん専門相談員
山田 恵子

がん専門相談員
平本 瞳

はじめに

外来初診時から治療開始までをめぐり、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制整備のため、院内・院外へがん相談支援センターの広報活動を中心に行いました。恒例となった乳がん検診の啓発活動に加え、院外ではがん検診のPR活動や図書館でのがん相談を行いました。開設13年目となった八代がんサロン秋桜cosmosは、研修医と看護師も参加しがんサバイバーの方々との交流を行います。

年間活動報告

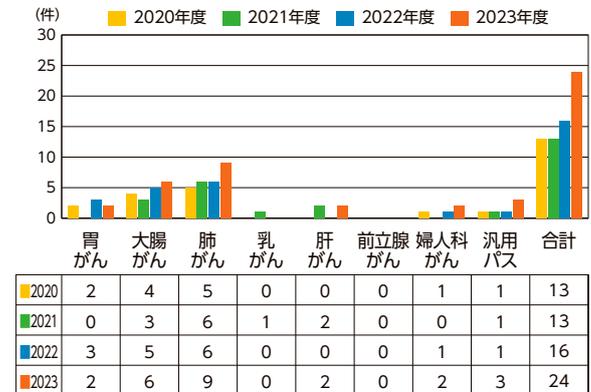
(1)がん相談支援センターの認知度向上及び相談対応の質の向上

- ① 相談内容は、症状・副作用・後遺症に関する相談が多く、がん相談総件数は948件でした。
- ② 八代がんサロン秋桜cosmosは、毎月第2水曜日対面で開催し、季節ごとのレクリエーションや食事に関するミニレクチャーを通して、がんサバイバー同士・職員との交流を行いました。
- ③ ピンクリボン運動推進イベントは雅太鼓による演奏会を開催し、地域に向けた乳がん検診の必要性を発信しました。
- ④ 院外活動
 - ・ 森都心プラザ図書館でがん専門相談員による出張相談会
 - ・ 不知火図書館「がんピアおしゃべり相談室」でがん相談
 - ・ 八代市立図書館で八代市保健センターとがん検診のPR
 - ・ イオンモール宇城の「うきUKI交通安全防災フェア」で、がん治療中の災害時の備えに関する情報提供

(2)地域医療施設との連携及び継続的な情報共有

- ① 地域連携パス「私のカルテ」導入件数 24件(図1)
- ② がん口腔医科歯科連携 192件

図1 「私のカルテ」導入件数(2020年度～2023年度)



がん相談支援センター



ピンクリボン推進運動展示



秀岳館高等学校雅太鼓部
ピンクのハチマキを巻いて雅太鼓演奏

各診療科・部門紹介



がんサロンの様子 クリスマス会



八代市立図書館 がん検診のPRイベント



イオンモール宇城 「うきUKI交通安全防災フェア」

看護師特定行為研修

看護師特定行為研修4年目を迎えて

熊本労災病院で看護師の特定行為研修を開始して4年経過しました。八代地域の医療のニーズに対応するために、また専門性の高い医療を提供するために、着実に増やしていく必要があります。

令和5年(2023年)度は、新たにパッケージ研修を開講しました。「麻醉管理領域パッケージ」「外科系基本領域パッケージ」に各1名が受講しました(写真1・2)。手術や検査のために医師不在となる時間帯に、特定行為研修修了者がアセスメントを行い、医師と看護師の間を繋ぐこと。更に、医師と患者の間を繋ぐことを期待しています。

また、日本看護協会は「生活と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及」を掲げています。看護師の特定行為研修制度を通して医療ニーズに対応する認定看護師の育成促進が明記されました。全国で2万人を超える21分野の認定看護師教育も、特定行為研修を組み込み分野の再編成が行われました。当院でも「認定看護師課程B課程」の「クリティカルケア認定看護師教育課程特定行為研修臨地実習」「心不全看護認定看護師教育課程特定行為研修臨地実習」を各1名受け入れました。「認定看護師課程B課程」における特定行為研修は、最低限のカリキュラムであることから、数年後に更に特定行為研修を重ねていくことを願っています。

以上の研修修了者を合計して、8名の修了生となりました。その内訳は、(表1)のとおりです。



写真1 「術中麻醉管理領域パッケージ」OSCEの場面



写真2 「術中麻醉管理領域パッケージ」OSCEの場面

表1 熊本労災病院における〔領域別〕特定看護師数

領域名	人数
救急・集中領域	5名
創傷管理領域	1名
感染管理領域	1名
術中麻醉管理領域	1名
外科系基本領域	(1名)

※「外科系基本領域」受講生は、延長して受講中

既に活躍している特定看護師6名の活動実績は、「動脈血液ガス分析関連」「呼吸器(気道確保に係るもの)関連」「呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連」が中心となっています。手術等による医師不在の際、特定看護師が特定行為を実施することによって、医師からは「タスクが減るので助かる。」「その時間を他のことに当てられる。」等の声が聴かれています。

薬剤部

スタッフ紹介

薬剤部長

玉置 秀成

薬剤副部長

奥 美和

主任薬剤師	4名
薬剤師	11名
薬剤事務補助	1名

【認定・資格取得状況】

日本医療薬学会 がん指導薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	4名
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	2名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師	10名
日本医療情報学会 医療情報技師	1名

施設認定

- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設
- がん専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬物療法専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬学部薬学生実務実習研修施設

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネート・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

(1)調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方の調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

(2)製剤業務

薬剤が治療上必要であるが、投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・曝露防止に努めています。

(3)医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

(4)医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っていきます。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っています。

(5)病棟業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果の確認・有害作用の防止などにも努めています。

(2020年6月より病棟薬剤業務実施加算算定)

(6)治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

(7)業務実績

入院処方箋枚数	93,918枚
外来処方箋枚数	6,510枚
入院注射箋枚数	155,602枚
外来注射箋枚数	19,469枚
製剤件数	49件
抗がん剤調製件数	3,214件 (入院:646件、外来:2,568件)
薬剤管理指導件数	8,950件(請求件数7,356件)
麻薬管理指導件数	468件
薬物血中濃度解析	141件

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第33回医療薬学会年会
日程・会場等 令和5年11月、仙台市
発表者 中島璃沙
演題名 パリペリドンによる薬剤性低血糖が疑われた1例
- 学会名 第61回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場等 令和5年12月、熊本市
発表者 中島璃沙
演題名 サクビトリルバルサルタンによる尿中Cペプチド異常高値が疑われた1例
- 学会名 日本医療マネジメント学会第26回熊本支部学術集会
日程・会場等 令和6年3月、熊本市
発表者 庄 泰紀
演題名 Web上のフリーの相互作用チェックシステムを用いた相互作用報告
- 学会名 日本医療マネジメント学会第26回熊本支部学術集会
日程・会場等 令和6年3月、熊本市
発表者 武宮陽道
演題名 当院での簡易懸濁法導入時の準備と運用について

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介

理学療法士 主任
大洲 人士

理学療法士 主任
長田 政和

理学療法士 主任
木村 友亮

理学療法士 主任
山谷 歩

他 12名

作業療法士 主任
西田 充征

作業療法士 主任
小屋野 宏明

他 6名

言語聴覚士 主任
畠山 克隆

他 3名

リハビリテーション助手 3名

【認定・資格取得状況】

・認定理学療法士(脳卒中).....	3人
・認定理学療法士(運動器).....	4人
・認定理学療法士(循環).....	2人
・認定理学療法士(呼吸).....	1人
・心臓リハビリテーション指導士.....	6人
・腎臓リハビリテーション指導士.....	1人
・3学会合同呼吸療法認定士.....	12人
・呼吸ケア指導士.....	1人
・両立支援コーディネーター.....	3人
・がんリハビリテーション研修会修了.....	23人

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では、整形外科疾患や脳血管疾患を初め、呼吸器・循環器やがんなど様々な疾患に、入院や手術直後から「早期リハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフ数は、理学療法士16名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の総勢31名です。各スタッフが、専門的資格を取得したり、認定研修を受講したりして、専門的知識を活かした治療の提供に努めています。また、病棟担当制を取り入れ、ICUや病棟を中心に早期離床を重視して積極的に介入しています。ICUや病棟のカンファレンスにも参加し、連携を図っています。また、医師や認定看護師を含む多職種で実施している呼吸器・NST・排尿ケア・褥瘡対策・認知症ケアのラウンドにも参加して、チーム医療に積極的に携わっています。また、機構の掲げている政策医療の一環である両立支援活動として、就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。院外活動としては、熊本県の委託業務である地域リハビリテーション活動として、「八代地域リハビリテーション広域支援センター」を受託して、圏域のリハビリテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談対応など、地域に根ざした事業にも積極的かつ継続的に取り組んでいます。その他にも、熊本地震を発端に、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参画しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管疾患や運動器疾患のリハビリテーションを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、リハ室は基より、『早期離床』目的に、一般病棟やICU病棟に於いて超早期から集中的に治療を実施しています。心疾患のリハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院・外来患者を対象とした集団治療も実施しています。また、実際に介入する際は、必要時にCPX(心肺運動負荷試験)による検査を行い、安全な環境の下で実施しています。

中央リハビリテーション部

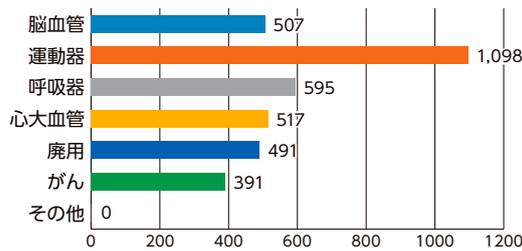
〈2023年度 活動実績〉

1. 疾患別の治療実績(患者数) (表1) (図1)

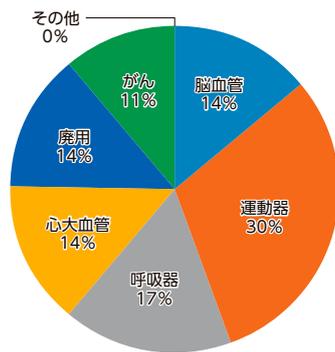
疾患別では、3,599人と前年度より増加しており、中でも呼吸器、循環器が増加している。

表1 疾患別実績

疾患別	患者数
脳血管	507人
運動器	1,098人
呼吸器	595人
心大血管	517人
廃用	491人
がん	391人
その他	0人
合計	3,599人



(図1)

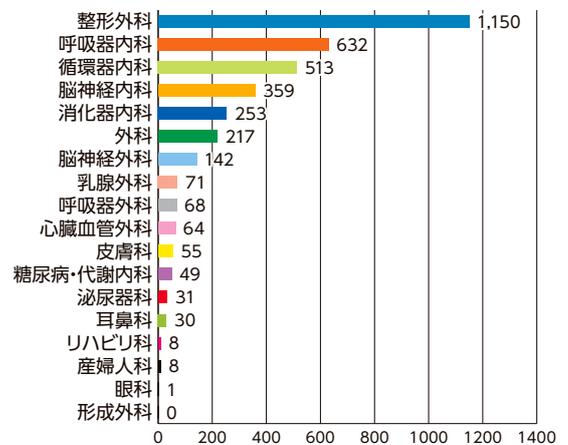


2. 診療科別の治療実績(患者数) (表2) (図2)

整形外科31%、内科系35%、循環器科14%を占めており、昨年度と同等の実績である。

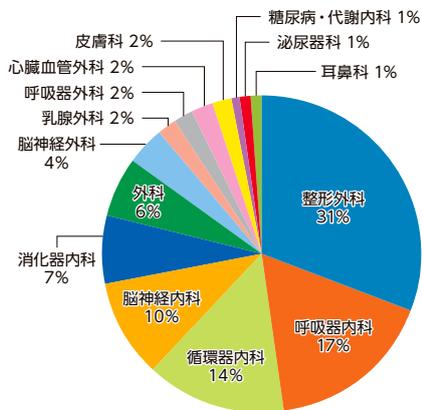
表2 診療科別実績

診療科	患者数
整形外科	1,150人
呼吸器内科	632人
循環器内科	513人
脳神経内科	359人
消化器内科	253人
外科	217人
脳神経外科	142人
乳腺外科	71人
呼吸器外科	68人
心臓血管外科	64人
皮膚科	55人
糖尿病・代謝内科	49人
泌尿器科	31人
耳鼻科	30人
リハビリ科	8人
産婦人科	8人
眼科	1人
形成外科	0人
合計	3,651人



中央リハビリテーション部

(図2)



3. 算定単位数実績(表3, 図3, 表4, 図4)

全体のとしては、前年度実績は上回っている。ただし、部門別も、前年度を上回る実績となった。

表3 全体算定単位数

年度	単位数
2023年度	108,852
2022年度	104,242

(図3)

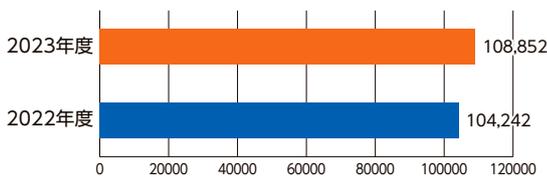
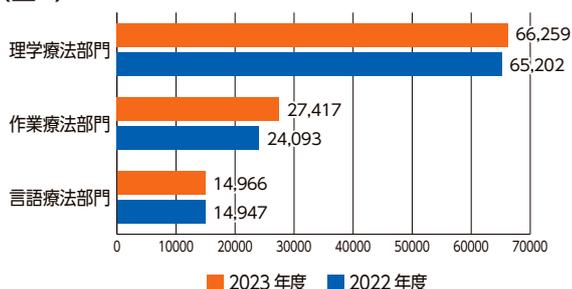


表4 部門別算定単位数

年度	理学療法部門	作業療法部門	言語療法部門
2023年度	66,259	27,417	14,966
2022年度	65,202	24,093	14,947

(図4)



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、平成12年度より熊本県からの委託業務である、「地域リハビリテーション広域支援センター」事業を受託して運営しています。地域の医療や介護、福祉に関わる皆さまや地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く実施しています。活動の際は、八代市郡8施設の地域密着リハセンター(熊本県指定)と情報共有・連携を図っています。

コロナ禍、WEBによるICTリテラシーの促進が図られ、支援内容を多様化して活動しています。

令和2年熊本豪雨災害の復興リハビリテーションは、令和5年度で一区切りしました。今後は平時の地域リハビリテーション活動を、地域密着リハセンターと協同し、地域包括ケアシステムの深化に向けた活動の充実を図りたいと考えています。

(1) 医師会や自治体等の公的委員

- 大洲主任理学療法士：
八代市障害者認定審議会(委員)
- 大洲主任理学療法士：
八代市介護保険認定審査会(委員)
- 西田主任作業療法士：
八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任作業療法士：
八代市介護保険認定審査会(委員)
- 西田主任作業療法士：
八代市介護保険事業計画・評価審議会(委員)
- 西田主任作業療法士：
在宅医療・介護多職種連携検討委員会(委員)
- 小屋野主任作業療法士：
八代市介護保険認定審査会(委員)

(2) セミナーや講演会、研修会等の開催

- 令和5年度 第1回地域リハ従事者研修会
令和5年9月12日(火)
「介護予防と地域活動～通所介護と訪問介護、各立場で考えること・実践していること～」
講師：八田 慶太 氏(言語聴覚士)
(訪問看護ステーションひとつなぎ 代表)
- 令和5年度 第2回地域リハ従事者研修会
令和6年1月19日(金)
「コミュニケーションエラーについて」
講師：恒松 伴典 氏
(医療法人三井会 神代病院 地域活動推進科 科長(作業療法士))

中央放射線部

スタッフ紹介

中央放射線部長
橋口 和博

主任診療放射線技師
前床 正国

主任診療放射線技師
本田 光希

主任診療放射線技師
遠山 和香子

主任診療放射線技師
甲斐 健一

主任診療放射線技師
田尻 光

診療放射線技師 19名

【認定・資格取得状況】

第1種放射線取扱主任者、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、2020年には改定されていますが、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。

業務内容と活動実績

(1) 画像診断部門

① 一般撮影

X線撮影装置4室を備え、FPD(フラットパネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の撮影を行っています。

② X線透視

透視装置は2台ありFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

③ CT

CT装置は2台ありマルチスライスCTであり、デュアルエネルギー撮影が可能です。1台は2管球CTで高速撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

④ MRI

MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

⑤ 血管造影検査

血管造影では1台はバイプレーン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。

⑥ 核医学検査

SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っていきます。最近ではアルツハイマー型認知症の検査やパーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

⑦ マンモグラフィ

撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取りながら市検診にも取り組んでいます。昨年に八代で

中央放射線部

は初めてトモシンセシス(3D)が撮影可能な装置を導入しました。

⑧骨密度検査

骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

⑨ポータブル撮影

院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

⑩画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立てています。

(2)放射線治療部門

①放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能なリニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

業務実績

検査種別		件数	
X線撮影	単純撮影	42,017件	
	透視造影	脳・脊髄領域	3件
		消化器領域	735件
		骨盤腔領域	26件
		循環器領域	1,629件
		その他造影	624件
		透視単独	276件
		透視合計	3,280件
	マンモグラフィ	846件	
ポータブル撮影	7,660件		
核医学検査		336件	
CT	第一 (64列)	5,262件	
	第二 (2管球)	12,444件	
	CT合計	17,706件	
MRI	第一 (3.0T)	2,942件	
	第二 (1.5T)	5,906件	
	MRI合計	3,201件	
放射線治療		3,201件	
骨塩定量		476件	
画像再構成		20,476件	

認定施設 等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設
2023年更新

中央検査部

スタッフ紹介

臨床検査センター長

吉田 顯正

中央診療支援統括室
中央検査部門担当

栗脇 一三

中央検査部長

森谷 智輝

主任臨床検査技師

井上 博幸

主任臨床検査技師

森口 美琴

主任臨床検査技師

吉田 健一

主任臨床検査技師

浜島 智央

主任臨床検査技師

井上 祐子

主任臨床検査技師

結石 友里菜

臨床検査技師
検査助手
事務

計31名
計1名
1名

【認定・資格取得状況】

《病理検査部門》病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名

《検体・細菌検査部門》感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、二級臨床検査士(細菌)1名、二級臨床検査士(血液)1名、二級臨床検査士(臨床化学)1名、緊急臨床検査士3名、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師2名、精度管理責任者1名、臨地実習指導者4名、熊本県糖尿病療養士2名

《生理検査部門》超音波検査士(循環器)5名、超音波検査士(消化器)3名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)1名、超音波検査士(健診)1名、血管診療技師1名、精中機構乳房超音波技術試験A判定1名、心電図検定1級1名

中央検査部の業務内容

当中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門である。臨床検査センター長の吉田顯正先生と病理診断科部長である栗脇一三先生の下、31名の臨床検査技師、1名の検査助手、事務1名が在籍し検査業務を行っている。

当院では日本臨床衛生検査技師会から旧制度の精度保証認定施設として認定取得してきたが、新制度に代わった『品質保証施設認証制度』を令和5年5月に認証取得した。これにより、当院の臨床検査分野の認証範囲が拡大(2分野→12分野)され、臨床検査のさらなる精度向上が実証されることとなった。これは一定の基準をクリアし、臨床側へ提供している検査結果が標準化および高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されるものである。また、院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会等に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、各学会の認定資格を多数取得している。

病理部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに細胞検査士が正確な診断に寄与し、精度向上への取り組みを継続実施することで日本臨床細胞学会から施設認定を受けている。

検体検査部門は、一般検査、血液検査、生化学免疫検査と輸血部門のサポートも行っている。日常では正確な検査データを報告するために内部精度管理を行い、外部精度管理では毎年高い評価を受けている。また最新の高精度な自動化分析機器を整備し、迅速且つ信頼性の高いデータを報告している。

輸血部門では、輸血専任医師の監督のもと輸血専従の臨床検査技師を配置し、安全な輸血が行われるように輸血関連の検査(血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験など)と輸血製剤の管理業務を一元管理している。

細菌検査部門においては、県内ではいち早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たしており、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設しかない研修施設認定を受けている。

中央検査部

生理検査部門は、最新の超音波装置を導入し、医師と緊密な連携を取りながら高度で迅速な検査を行っている。日本超音波医学会認定超音波検査士が多数在籍し、心臓、頸動脈、腹部、乳腺、下肢血管、甲状腺等の専門的検査を行うと共に、研修医の教育も担っている。また、臓器移植時に必要な脳死判定脳波検査もチームで取り組んでいる。

労災病院の特徴の一つである振動病検診は、振動工具を取り扱う労働者の振動曝露状況を調べる検査であり、当検査部から県内外へ出張検診もっており、毎年数百名の方の労災疾病の予防、治療等に大きく貢献している。

業務実績

年度別臨床検査件数の推移

	R3	R4	R5
生化学	918,927件	1,075,820件	1,045,598件
免疫	86,491件	91,022件	92,222件
血液	223,755件	200,146件	186,412件
一般	29,997件	31,093件	32,811件
微生物	45,450件	46,296件	42,137件

年度別生理検査件数の推移

	R3	R4	R5
心電図	14,394件	14,625件	15,068件
ABI	1,447件	1,405件	1,255件
心エコー	7,704件	7,904件	7,872件
腹部エコー	3,959件	4,101件	4,124件
血管エコー	3,006件	3,103件	3,013件
乳腺・甲状腺エコー	2,750件	2,809件	3,349件

年度別病理検査件数の推移

	R3	R4	R5
組織診断	3,337件	3,889件	3,777件
術中迅速診断	118件	129件	124件
細胞診断	3,413件	2,741件	2,759件

地域活動の実績

振動障害巡回検診

- 日程 令和5年10月19日～20日
場所 鹿児島市
参加者 椿 夏香、前田 卓

- 日程 令和5年10月25日～27日
場所 鹿児島市
参加者 中村真維、前田 卓
- 日程 令和5年11月9日～10日
場所 人吉市
参加者 池内尚貴、和田幸大
- 日程 令和5年11月16日～17日
場所 天草市
参加者 池内尚貴、森谷智輝
- 日程 令和5年12月7日～8日
場所 山鹿市
参加者 結石友里菜、前田 卓

学会・講演会発表等

発表・講師・座長

- 学会名 令和5年度熊本県細胞診初心者講習会 (体液液領域)
日程・会場等 令和5年5月 熊本保健科学大学
講師 井上博幸
- 学会名 令和5年度 熊本県臨床検査技師会 病理細胞部門研修会
日程・会場等 令和5年6月 熊本医療センター研修センター
発表者 井上博幸
- 学会名 第5回熊本県心血管エコー検査標準化プロジェクト(K-CHAP)講習会 in 球磨
日程・会場等 令和5年7月9日 人吉医療センター
講師 吉田健一(消化器領域)
- 学会名 令和5年度 第3回熊臨技臨床生理部門研修会
日程・会場等 令和5年7月20日(Web)
演題 『生理検査におけるパニック値の取り扱い』
講師 吉田健一
- 学会名 令和5年度 第1回熊本県臨床検査技師会 臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和5年9月30日 熊本大学病院 生命科学部 医学教育図書棟
座長 森口美琴
- 学会名 令和5年度 第42回九州地区労災病院臨床検査技師会総会学会
日程・会場等 令和5年10月14日 九州労災病院
演題 『大量輸血プロトコール(MTP)導入に向けた当院中央検査部での取り組みについて』
発表者 前田翔太
演題 『終夜睡眠ポリグラフ検査件数増加に向けての中央検査部での取り組み』

中央検査部

発表者 中村真性

- 学会名 令和5年度細胞検査士二次試験対策
日程・会場等 令和5年11月 熊本保健科学大学
講師 井上博幸(症例提示)
- 学会名 令和5年度 第2回熊本県臨床検査技師会
臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和5年12月9日 熊本大学病院 生命科学
科学研究部 医学教育図書棟
座長 森口美琴
- 学会名 2023年度 熊本県臨床精度管理調査報告会
日程・会場等 令和6年2月4日 熊本県医師会館 2階
大ホール(ハイブリッド)
講師 森口美琴
- 学会名 第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会
日程・会場等 令和6年2月9～11日 パシフィコ横浜
ノース(現地+オンデマンド)
演題 『セフィキシム・亜テルル酸カリウム(CT)
含有選択培地非発育の腸管出血性大腸菌
(EHEC)O146の一例』
演者 森口美琴
- 学会名 第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会
日程・会場等 令和6年2月9～11日 パシフィコ横浜
ノース(現地+オンデマンド)
座長 森口美琴
- 学会名 第39回熊本県臨床細胞学会 学術集会ス
ライドカンファレンス
日程・会場等 令和6年2月 熊本医療センター研修セ
ンター
講師 井上博幸
- 学会名 第6回熊本県心血管エコー検査標準化プ
ロジェクト(K-CHAP)講習会 in 熊本県北
日程・会場等 令和6年3月3日 くまもと県北病院
講師 吉田健一(消化器領域)
- 学会名 日本医療マネジメント学会第26回熊本支
部学術集会
日程・会場等 令和6年3月16日 くまもと県民交流館
パレア
演題 『既存の装置・システムを利用した検体ラ
ベル貼り間違いによる未検査防止への取
り組み』
発表者 結石友里菜
演題 『緊急輸血時における当院中央検査部で
の取り組みについて』
発表者 前田翔太

その他活動

- 学会名 第38回日本臨床細胞学会九州連合会
日程・会場等 令和5年7月 くまもと森都心プラザホール
実行委員 園田鮎美、関本香純、田中寛大、井上博幸
- 学会名 第39回熊本県臨床細胞学会
日程・会場等 令和6年2月 熊本医療センター研修センター
実行委員 園田鮎美

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介

栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)

金子 健吾

栄養管理室長

藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名
管理栄養士	6名
事務員	1名
調理主任	1名
調理員	20名
食器洗浄委託職員	9名

【認定・資格】 NST専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター

【所属学会等】 日本臨床栄養代謝学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会、日本栄養士会、熊本県糖尿病療養指導士会、日本在宅栄養管理学会、日本医療マネジメント学会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っており、給食管理では安全で満足度の高い食事の提供、セレクトメニューや行事食、個人対応食などのフードサービスを実施しています。病院食が患者一人ひとりの命や治療を支える基であるということ念頭に置き、日々取り組んでいます。

栄養管理では、栄養専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど医師を中心としたそれぞれのチームの一員として、看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに活動を行っています。その他、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの栄養指導・栄養相談を積極的に行い、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改善および免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるよう取り組んでいます。

業務内容

(1) フードサービス(給食管理)

様々な疾患に合わせた食事の種類は約160種類あり、患者の状態に合わせた食事の対応が可能となっています。食欲低下や摂取不良に対しては、「ハート食」を提供しており、多職種で連携しながら、患者様の食事管理を行っています。また、食物アレルギー、宗教上の理由による禁忌食品の対応、咀嚼・嚥下機能の障害に対し、状態に応じた食形態、嚥下調整食で対応し、毎日の選択メニュー、年間44回の行事食など季節感あふれるメニューの提供を心がけ、手作りのメッセージカードを添え入院中に食事を楽しんでいただけるよう工夫しています。

(2) クリニカルサービス(栄養管理・栄養指導)

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、患者一人ひとりの栄養状態に合わせた栄養管理を行っています。早期栄養介入をはじめ、チーム医療(NST、FLS、褥瘡、緩和ケア、糖尿病チームなど)で多職種と連携し、継続的な栄養管理を実施しています。

食事療法が必要な患者、食事摂取、栄養状態に問題のある患者に対し、栄養指導・栄養相談を実施し、栄養管理計画に基づいた栄養管理を行っています。

栄養管理部・栄養管理室

【栄養指導・栄養相談】

内容		曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室
がん化学療法栄養指導	個人指導・相談	月～金	随時	化学療法室・栄養指導室

活動実績

(1) 栄養指導の実績 (2023年度)



(2) 栄養サポートチーム (NST)

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っています。回診とカンファレンスを毎週2回、NST勉強会を開催し、多職種で連携し実施しています。その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っています。

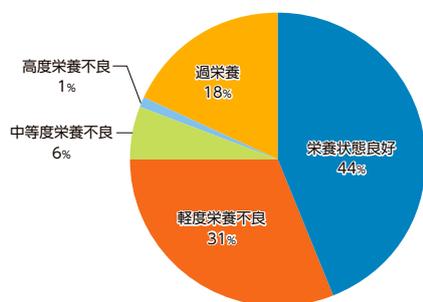
NST活動実績 (2023年度)

内容	件数
コンサルテーション数	1,122件
NST介入件数	485件
ミーティング実施回数	485件
内容	実施回数
勉強会	6回
院内栄養管理セミナー	2回
院外栄養管理セミナー	1回

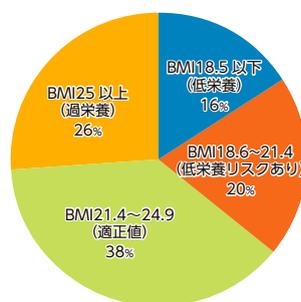
(3) 栄養評価の状況(2023年度 栄養状態別件数)

栄養評価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
良好	342	313	334	326	319	297	312	334	313	322	290	276	3,778
軽度不良	206	210	204	226	241	225	245	233	230	245	207	208	2,680
中等度不良	62	33	40	55	59	51	43	35	27	51	31	38	525
高度不良	9	7	8	4	3	10	7	8	12	13	4	6	91
過栄養	119	155	131	129	113	127	158	151	109	110	128	150	1,580
合計	738	718	717	740	735	710	765	761	691	741	660	678	8,654

2023年度 入院患者栄養評価結果



2023年度 入院患者BMI判定結果



地域活動の実績

- 令和5年度国民健康・栄養調査及び調査活動(厚生労働省)
 - 日程 令和5年11月
 - 場所 八代市
 - 調査員 中村香織
- 熊本健康づくり推進 栄養アドバイザー活動
 - 日程 令和5年7月
 - 場所 八代市
 - 調査員 永野智子、中村香織

講演会、研修会の開催等

- 令和5年度 市民公開講座
 - 日程 令和5年7月7日
 - 内容 「便秘にいい食べ物の話」
 - 講師 藤井しのぶ
- 令和5年度 産業保健研修会
 - 日程 令和5年8月18日、10月27日
 - 内容 「生活習慣病改善の指導に役立つ便秘になりにくい食事について」
 - 講師 藤井しのぶ

- 日程 令和5年12月20日、令和6年2月14日
- 内容 「保健指導にも役立つ生活習慣改善のための食事」
- 講師 藤井しのぶ

学会発表

- 令和5年度 日本医療マネジメント学会 第26回熊本支部学術集会
 - 日程 令和6年3月16日
 - 内容 ①「給食施設使用不可時における食事対応マニュアルの改善」
②「術前・術後経口補水療法導入に関する検討」
 - 発表者 藤井しのぶ
 - 内容 「八代地域における嚥下調整食統一化プロジェクトの取り組み」
 - 発表者 永野智子

施設認定

- 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働施設認定

栄養管理部・栄養管理室

食事サービス

食形態、セレクトメニュー、個人対応食、行事食、産褥食など

■食形態：患者様個人に合わせた食形態で対応しています。



2019年から食形態統一プロジェクトチームを発足し、食形態について当院より八代地域の病院、施設へ情報発信を行い、食の統一化を図る取り組みを行っています。

■ハート食(個人対応食)

その他、冷たい麺類・温かい麺類・パン食や肉類魚類が食べにくい方には特別メニューで提供



■行事食



■セレクトメニュー(朝食)



中央臨床工学部

スタッフ紹介

中央臨床工学部長

植田 公昭

スタッフ

臨床工学技士 5名

【学会所属・認定状況】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、日本体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会、日本体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師、植込み型心臓不整脈デバイス認定士

中央臨床工学部の業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。

当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い6名にて業務を行っています。

「臨床技術提供業務」では、心臓血管外科手術にて使用する人工心肺装置や心筋保護装置を操作する人工心肺業務、出血が予想される場合への自己血回収装置の操作業務、腎不全や術後敗血症に対するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、ECMO・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務、ペースメーカー植込患者への遠隔モニタリングやペースメーカー外来などを実施しています。

「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心に、麻酔器や輸液シリンジポンプ、患者監視装置(ベッドサイドモニタ)、低圧持続吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高い機器等も、

中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検計画やチェックシートを作成、また、取扱説明書や添付文書、安全情報等も一括管理を行っています。平成28年から医療機器の貸出返却や保守管理データは医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を迅速に確認可能となり、安全使用・効率的な運用等に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため、各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務を安全に取り組んでいます。現在は部長含め6名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時には24時間オンコール体制にて迅速な対応を取っています。

活動実績(令和5年度)

臨床技術提供業務において人工心肺業務37例、自己血回収業務20例、血液浄化業務178例、術中モニタリング11例、心臓カテーテル業務371例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器を含む33機種720台を保守管理しており、定期点検951件、使用中点検3,462件、始業前点検2,152件、終業時点検9,955件、日常点検84件、合計16,604件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器637件、輸液シリンジポンプ9,137件の貸出が行われています。また、上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会61件、院内外勉強会・学会14件(演題発表3件)に参加し、スキルアップに努めています。

中央臨床工学部は、体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して、患者さまへよりよい医療を提供できるよう、日々の業務を安全に取り組んでいます。

臨床業績



患者数等(年度実績4-3月)

①患者数等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院患者延数	132,510	127,642	121,681	123,195	122,038
1日平均入院患者数	362.0	349.7	333.4	337.5	333.4
新入院患者数	9,987	9,266	9,020	8,873	366
退院患者数	10,016	9,267	9,018	8,893	9,056
平均在院日数	13.2	13.8	13.5	13.9	13.5
病床利用率	88.3	85.3	81.3	82.3	81.3
外来患者延数	140,849	136,637	140,033	145,107	144,024
1日平均外来患者数	586.9	562.3	578.6	597.1	592.7
救急患者数	12,497	10,243	10,848	12,204	11,050
救急車受入件数(ヘリ含む)	4,173	3,941	3,952	4,644	4,689
ヘリ	17	40	27	16	15

②入院科別患者数

1日平均在院患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	患者数	労災(再掲)								
精神科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	21.4	0.0	23.0	0.0	15.0	0.0	18.8	0.0	23.9	0.0
呼吸器内科	61.3	0.0	56.4	0.3	54.0	0.5	54.3	0.0	54.0	0.0
消化器内科	42.6	0.0	39.5	0.0	36.1	0.0	41.0	0.0	40.2	0.0
糖尿病・代謝内科	6.3	0.0	6.5	0.0	7.8	0.0	8.6	0.0	10.3	0.0
循環器内科	30.7	0.0	34.4	0.0	39.3	0.0	34.3	0.0	35.6	0.0
小児科	7.7	0.0	3.7	0.0	4.1	0.0	3.6	0.0	2.8	0.0
外科	37.5	0.1	39.5	0.1	40.8	0.0	38.9	0.2	30.4	0.1
呼吸器外科									2.9	0.0
乳腺外科									7.3	0.0
整形外科	81.3	4.1	80.0	5.0	80.7	3.2	78.9	3.3	76.4	3.1
形成外科	1.9	0.0	1.8	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0	0.4	0.0
脳神経外科	16.2	0.1	16.9	0.4	16.5	0.0	16.9	0.4	12.1	0.2
心臓血管外科	7.5	0.0	7.5	0.0	4.2	0.0	5.7	0.0	4.6	0.0
皮膚科	4.5	0.1	4.5	0.0	4.5	0.2	7.0	0.1	8.7	0.1
泌尿器科	8.7	0.1	7.3	0.1	8.1	0.1	7.0	0.0	6.3	0.0
産婦人科	18.0	0.0	15.1	0.1	7.8	0.0	8.7	0.0	4.0	0.0
眼科	0.7	0.0	1.0	0.0	0.8	0.0	1.1	0.0	1.3	0.0
耳鼻咽喉科	15.7	0.1	11.7	0.0	12.2	0.0	11.9	0.0	12.4	0.0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	362.0	4.7	349.7	6.1	333.4	4.1	337.5	4.0	333.4	3.6

在院患者延数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	患者数	労災(再掲)								
精神科	12	0	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	7,827	4	8,391	0	5,481	0	6,847	0	8,746	0
呼吸器内科	22,440	8	20,582	100	19,719	172	19,827	0	19,753	11
消化器内科	15,596	0	14,435	14	13,165	0	14,980	0	14,706	8
糖尿病・代謝内科	2,318	5	2,356	2	2,865	1	3,141	0	3,752	0
循環器内科	11,222	16	12,548	8	14,356	0	12,508	0	13,025	0
小児科	2,809	0	1,354	0	1,482	0	1,303	0	1,008	0
外科	13,733	39	14,432	30	14,908	6	14,193	57	11,142	53
呼吸器外科									1,066	5
乳腺外科									2,685	0
整形外科	29,759	1,500	29,214	1,832	29,464	1,165	28,781	1,203	27,963	1,126
形成外科	685	12	674	0	449	0	368	0	151	0
脳神経外科	5,922	35	6,172	148	6,023	4	6,156	141	4,423	67
心臓血管外科	2,748	0	2,753	0	1,543	0	2,067	0	1,668	0
皮膚科	1,653	23	1,634	9	1,629	73	2,545	52	3,172	40
泌尿器科	3,178	41	2,677	47	2,957	40	2,560	0	2,302	3
産婦人科	6,592	0	5,502	21	2,858	0	3,176	0	1,446	0
眼科	268	0	368	1	284	0	399	0	489	0
耳鼻咽喉科	5,748	19	4,288	0	4,440	0	4,344	0	4,541	0
リハビリテーション科	-	-	262	0	58	30	0	0	0	0
合計	132,510	1,702	127,642	2,212	121,681	1,491	123,195	1,453	122,038	1,313

③新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	患者数	労災(再掲)								
精神科	-	-	1	0	0	0	-	-	0	0
脳神経内科	412	2	456	0	352	0	345	0	425	0
呼吸器内科	1,237	2	1,161	4	1,225	3	1,208	2	1,207	1
消化器内科	1,259	0	1,193	0	1,098	0	1,171	0	1,228	1
糖尿病・代謝内科	156	1	190	2	203	1	171	0	179	0
循環器内科	1,081	1	1,176	1	1,204	0	1,069	0	1,081	0
小児科	758	0	291	0	366	0	282	0	268	0
外科	1,290	6	1,247	4	1,333	1	1,345	4	897	7
呼吸器外科									93	0
乳腺外科									485	0
整形外科	1,424	71	1,474	81	1,447	72	1,385	76	1,332	63
形成外科	97	1	91	0	58	0	56	0	27	0
脳神経外科	266	1	250	6	209	2	214	1	216	3
心臓血管外科	129	0	105	0	87	0	88	0	64	0
皮膚科	143	1	126	2	120	3	236	1	283	1
泌尿器科	380	2	309	3	339	3	311	0	296	1
産婦人科	698	0	586	1	354	0	349	0	172	0
眼科	125	0	159	1	125	0	159	0	176	0
耳鼻咽喉科	532	3	451	0	500	0	484	0	624	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-
合計	9,987	91	9,266	105	9,020	85	8,873	84	9,053	77

平均在院日数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
精神科	12	-	-	-	-
脳神経内科	19.1	18.4	15.5	20.1	20.7
呼吸器内科	18.3	17.8	16.3	16.5	16.5
消化器内科	12.5	12.2	12.3	13.0	12.2
糖尿病・代謝内科	15.8	13.3	14.8	19.0	21.8
循環器内科	10.5	10.7	11.9	11.7	12.1
小児科	3.7	4.7	4.0	4.6	3.7
外科	10.4	11.4	10.9	10.3	12.2
呼吸器外科					10.7
乳腺外科					5.6
整形外科	20.8	19.9	20.3	20.7	20.9
形成外科	7.0	7.6	7.4	6.5	5.6
脳神経外科	22.1	24.9	28.4	28.8	20.2
心臓血管外科	20.2	24.5	17.6	21.4	24.9
皮膚科	11.8	12.8	13.9	10.8	11.2
泌尿器科	8.2	8.5	8.6	8.2	7.7
産婦人科	9.4	9.3	8.1	9.1	8.3
眼科	2.1	2.3	2.3	2.5	2.8
耳鼻咽喉科	10.7	9.5	8.8	9.0	7.3
リハビリテーション科	-	29.1	29.0	0	0
合計	13.2	13.8	13.5	13.9	13.5

④外来科別患者数

1日平均延患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	患者数	労災(再掲)								
内科	16.2	0.0	14.8	0.0	16.8	0.0	16.5	0.0	18.3	0.0
精神科	7.3	0.0	7.2	0.0	3.7	0.0	3.6	0.0	3.0	0.0
脳神経内科	18.8	0.1	16.6	0.1	17.3	0.1	19.2	0.0	20.6	0.0
呼吸器内科	48.9	0.3	44.4	0.3	48.7	0.1	63.6	0.2	53.3	0.1
消化器内科	50.8	0.2	49.5	0.3	50.8	0.2	55.2	0.2	56.9	0.3
糖尿病・代謝内科	28.1	0.0	28.2	0.0	29.9	0.0	30.8	0.0	32.5	0.0
循環器内科	32.6	0.0	34.8	0.0	38.7	0.0	42.6	0.0	44.1	0.0
小児科	37.9	0.0	23.5	0.0	27.8	0.0	25.5	0.0	21.1	0.0
外科	39.7	0.1	40.4	0.0	45.7	0.0	46.0	0.0	24.6	0.0
呼吸器外科									4.4	0.0
乳腺外科									21.4	0.0
整形外科	95.0	4.0	96.2	4.7	100.6	5.1	96.9	4.8	95.8	4.6
形成外科	11.7	0.2	10.1	0.1	9.5	0.1	7.7	0.1	5.9	0.1
脳神経外科	10.6	0.2	10.6	0.2	10.5	0.1	9.6	0.1	10.3	0.1
心臓血管外科	7.1	0.0	6.8	0.0	6.7	0.0	6.4	0.0	5.5	0.0
皮膚科	29.7	0.1	28.1	0.2	28.6	0.2	36.9	0.2	41.5	0.2
泌尿器科	27.6	0.8	25.3	0.7	26.1	0.6	25.0	0.5	24.7	0.4
産婦人科	35.8	0.0	33.0	0.0	27.5	0.0	24.4	0.0	16.0	0.0
眼科	21.9	0.2	26.3	0.3	23.8	0.4	22.3	0.2	23.1	0.1
耳鼻咽喉科	37.5	0.0	33.2	0.1	33.8	0.0	32.6	0.0	35.5	0.1
放射線科	16.6	0.0	15.9	0.0	16.2	0.0	15.4	0.0	16.5	0.0
麻酔科	11.6	0.2	11.1	0.2	9.7	0.2	10.2	0.2	10.0	0.2
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1	0.0
医療相談科	1.6	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0	0.9	0.0	0.8	0.0
合計	586.9	6.3	562.3	7.3	578.6	7.4	597.1	6.7	592.7	6.2

延患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	患者数	労災(再掲)								
内科	3,878	3	3,593	1	4,064	2	3,999	6	4,435	3
精神科	1,762	9	1,746	10	888	1	872	1	722	4
脳神経内科	4,508	22	4,041	22	4,189	21	4,667	12	5,009	9
呼吸器内科	11,734	60	10,781	71	11,783	35	15,449	42	12,944	14
消化器内科	12,183	41	12,017	62	12,282	55	13,418	38	13,830	77
糖尿病・代謝内科	6,739	11	6,864	5	7,242	3	7,491	5	7,900	4
循環器内科	7,833	9	8,456	2	9,372	1	10,345	2	10,725	2
小児科	9,085	0	5,710	0	6,736	0	6,194	0	5,126	0
外科	9,538	16	9,823	12	11,061	6	11,177	10	5,968	7
乳腺外科									1,075	1
整形外科									5,197	0
整形外科	22,791	958	23,370	1,141	24,352	1,240	23,536	1,176	23,272	1,109
形成外科	2,800	36	2,464	21	2,300	16	1,862	23	1,422	16
脳神経外科	2,543	48	2,585	42	2,544	34	2,321	32	2,510	36
心臓血管外科	1,700	0	1,662	0	1,611	0	1,562	0	1,332	0
皮膚科	7,121	24	6,840	55	6,913	56	8,978	46	10,074	44
泌尿器科	6,612	180	6,143	165	6,307	148	6,068	128	6,006	93
産婦人科	8,600	0	8,019	0	6,666	0	5,935	0	3,883	0
眼科	5,258	37	6,395	78	5,754	85	5,429	38	5,609	31
耳鼻咽喉科	9,009	6	8,076	28	8,190	8	7,918	2	8,624	16
放射線科	3,983	5	3,854	3	3,924	2	3,752	0	4,019	0
麻酔科	2,788	54	2,687	55	2,340	56	2,482	57	2,423	47
リハビリテーション科	-	-	1,224	7	1,265	22	1,443	18	1,714	1
医療相談科	384	0	287	0	250	0	209	0	205	0
合計	140,849	1,519	136,637	1,780	140,033	1,791	145,107	1,636	144,024	1,514

⑤外来科別初再診別患者数

	初診患者延数					再診患者延数				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内科	2,160	1,689	1,810	1,362	1,323	1,718	1,904	2,254	2,637	3,112
精神科	468	452	424	389	305	1,294	1,294	464	483	417
脳神経内科	1,245	1,120	1,019	940	908	3,263	2,921	3,170	3,727	4,101
呼吸器内科	2,051	1,588	2,143	4,542	2,559	9,683	9,193	9,640	10,907	10,385
消化器内科	2,057	1,845	1,768	1,749	1,717	10,126	10,172	10,514	11,669	12,113
糖尿病・代謝内科	687	632	723	703	648	6,052	6,232	6,519	6,788	7,252
循環器内科	1,410	1,390	1,444	1,503	1,301	6,423	7,066	7,928	8,842	9,424
小児科	2,245	1,315	1,726	2,038	1,472	6,840	4,395	5,010	4,156	3,654
外科	1,250	1,112	1,108	1,120	667	8,288	8,711	9,953	10,057	5,301
呼吸器外科					189					886
乳腺外科					733					4,464
整形外科	4,339	3,983	3,998	3,950	3,760	18,452	19,387	20,354	19,586	19,512
形成外科	873	687	630	509	448	1,927	1,777	1,670	1,353	974
脳神経外科	955	874	751	744	731	1,588	1,711	1,793	1,577	1,779
心臓血管外科	256	224	203	217	167	1,444	1,438	1,408	1,345	1,165
皮膚科	1,844	1,489	1,485	1,725	1,632	5,277	5,351	5,428	7,253	8,442
泌尿器科	987	776	845	763	746	5,625	5,367	5,462	5,305	5,260
産婦人科	854	761	577	595	299	7,746	7,258	6,089	5,340	3,584
眼科	850	676	625	614	445	4,408	5,719	5,129	4,815	5,164
耳鼻咽喉科	1,882	1,402	1,449	1,441	1,545	7,127	6,674	6,741	6,477	7,079
放射線科	938	853	849	783	722	3,045	3,001	3,075	2,969	3,297
麻酔科	2,328	1,930	1,697	1,759	1,580	460	757	643	723	843
リハビリテーション科	-	1,038	933	1,061	1,070	-	-	-	382	644
医療相談科	384	281	242	199	190	0	6	8	10	15
合計	30,063	26,117	26,449	28,706	25,157	110,786	110,334	113,252	116,401	118,867

※令和5年度から、外科が細分化(呼吸器外科、乳腺外科追加)

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (R5年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	9,057	-	4,660	4,397	67.0	14.4	470	5.2%
1 A00-B99 感染症及び寄生虫症	210	2.3%	112	98	56.8	14.6	19	0.2%
2 C00-D48 新生物(腫瘍)	2,025	22.4%	911	1,114	66.8	12.0	128	1.4%
3 D50-D89 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	35	0.4%	21	14	65.9	15.1	*	0.0%
4 E00-E90 内分泌、栄養及び代謝疾患	179	2.0%	88	91	63.9	18.1	*	0.0%
5 F00-F99 精神及び行動の障害	12	0.1%	*	10	41.4	18.0	0	0.0%
6 G00-G99 神経系の疾患	306	3.4%	181	125	62.0	14.1	10	0.1%
7 H00-H59 眼及び付属器の疾患	180	2.0%	89	91	74.1	3.6	0	0.0%
8 H60-H95 耳及び乳様突起の疾患	106	1.2%	47	59	59.4	6.3	0	0.0%
9 I00-I99 循環器系の疾患	1,524	16.8%	878	646	76.6	15.0	161	1.8%
10 J00-J99 呼吸器系の疾患	1,052	11.6%	627	425	59.8	14.9	77	0.9%
11 K00-K93 消化器系の疾患	1,155	12.8%	638	517	68.4	11.3	21	0.2%
12 L00-L99 皮膚及び皮下組織の疾患	126	1.4%	67	59	62.1	17.1	*	0.0%
13 M00-M99 筋骨格系及び結合組織の疾患	569	6.3%	292	277	68.6	23.7	*	0.0%
14 N00-N99 腎尿路生殖器系の疾患	214	2.4%	112	102	71.1	14.9	8	0.1%
15 O00-O99 妊娠、分娩及び産じょく(褥)	53	0.6%	0	53	32.2	8.9	0	0.0%
16 P00-P96 周産期に発生した病態	32	0.4%	15	17	0.0	9.0	0	0.0%
17 Q00-Q99 先天奇形、変形及び染色体異常	35	0.4%	17	18	19.0	7.5	*	0.0%
18 R00-R99 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	57	0.6%	27	30	59.8	12.9	6	0.1%
19 S00-T98 損傷・中毒及びその他の外因の影響	997	11.0%	436	561	68.0	18.9	17	0.2%
21 Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	41	0.5%	18	23	76.6	15.4	*	0.0%
22 U00-U89 原因不明の新たな疾患又はエムージョンコードの暫定分類(新型コロナウイルス感染症)	149	1.6%	82	67	33.1	3.8	12	0.1%

上位20疾患 退院患者数 (R5年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C50	乳房の悪性新生物	470	5.2%	*	468	57.3	6.5	9
2	C34	気管支および肺の悪性新生物	348	3.8%	228	120	71.2	15.0	35
3	I50	心不全	265	2.9%	133	132	82.6	21.7	36
4	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	258	2.8%	146	112	84.1	23.1	36
5	I63	脳梗塞	233	2.6%	123	110	79.0	22.2	13
6	K63	腸のその他の疾患	227	2.5%	144	83	70.5	5.0	*
7	S72	大腿骨骨折	219	2.4%	35	184	85.3	27.5	*
8	I20	狭心症	188	2.1%	127	61	74.1	5.2	0
9	I48	心房細動及び粗動	170	1.9%	110	60	71.4	5.6	0
10	K80	胆石症	166	1.8%	72	94	74.3	10.3	0
11	H25	老人性白内障	165	1.8%	81	84	75.7	3.4	0
12	C18	結腸の悪性新生物	164	1.8%	88	76	72.5	12.7	5
13	M48	その他の脊椎障害	151	1.7%	98	53	72.8	20.6	*
14	U07	新型コロナウイルス感染症2019	148	1.6%	82	66	76.6	15.4	12
15	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	111	1.2%	64	47	75.7	15.6	10
16	S32	腰椎及び骨盤の骨折	110	1.2%	42	68	74.7	18.7	*
17	S52	前腕の骨折	104	1.1%	40	64	57.0	10.6	0
18	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	97	1.1%	59	38	15.9	6.9	0
19	C20	直腸の悪性新生物	97	1.1%	42	55	69.7	11.2	4
20	E11	糖尿病	93	1.0%	49	44	66.0	19.1	0

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数(R5年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均 在院日数	死亡退院
1	C50	乳房の悪性新生物	470	5.2%	*	468	57.3	6.5	9
2	C34	気管支および肺の悪性新生物	348	3.8%	228	120	71.2	15.0	35
3	C18	結腸の悪性新生物	164	1.8%	88	76	72.5	12.7	5
4	C20	直腸の悪性新生物	97	1.1%	42	55	69.7	11.2	4
5	C25	脾の悪性新生物	87	1.0%	46	41	75.5	18.5	18
6	C16	胃の悪性新生物	85	0.9%	59	26	70.8	19.4	11
7	C61	前立腺の悪性新生物	66	0.7%	66	0	75.1	7.3	*
8	C67	膀胱の悪性新生物	57	0.6%	48	9	75.2	8.2	*
9	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	57	0.6%	48	9	72.9	16.3	6
10	C44	皮膚その他の悪性新生物	42	0.5%	16	26	82.2	7.1	*
11	C24	その他及び部位不明の 胆道の悪性新生物	40	0.4%	29	11	81.4	27.0	4
12	C65	腎盂の悪性新生物	27	0.3%	15	12	75.1	8.9	*
13	C54	子宮体部の悪性新生物	21	0.2%	0	21	69.9	8.4	0
14	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	20	0.2%	16	4	71.5	14.0	*
15	C56	卵巣の悪性新生物	20	0.2%	0	20	68.4	11.8	*
16	C85	非ホジキン(non-Hodgkin)リンパ腫の その他及び詳細不明の型	16	0.2%	11	5	69.4	11.3	*
17	C19	直腸S状結腸移行部の悪性新生物	16	0.2%	12	4	74.0	46.5	*
18	C15	食道の悪性新生物	15	0.2%	11	4	77.1	24.5	*
19	C32	喉頭の悪性新生物	14	0.2%	14	0	69.7	31.0	*
20	C53	子宮頸部の悪性新生物	13	0.1%	0	13	50.2	12.5	0

診療科別・疾患別 退院患者分類(R5年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	2型<インスリン非依存型>糖尿病<NIDDM>	88	53.3%	65.7	18.9
2	E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	16	9.7%	75.4	28.3
3	E05	甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	4	2.4%	59.0	17.3
3	E10	1型<インスリン依存症>糖尿病<IDDM>	4	2.4%	71.3	12.3

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	223	53.2%	79.1	21.3
2	G20	パーキンソン<Parkinson>病	25	6.0%	76.2	31.1
3	G40	てんかん	24	5.7%	71.1	12.4
4	G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	11	2.6%	77.5	7.3
5	A41	その他の敗血症	10	2.4%	78.5	22.7
6	G41	てんかん重積(状態)	8	1.9%	64.6	39.0
7	G71	原発性筋障害	7	1.7%	25.3	27.0
8	G25	その他の錐体外路障害及び異常運動	6	1.4%	69.3	33.2
9	H81	前庭機能障害	5	1.2%	74.6	5.6

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	269	22.9%	71.6	16.6
2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	214	18.2%	85.5	21.7
3	U07	コロナウイルス感染症2019	120	10.2%	81.9	16.2
4	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	92	7.8%	79.5	15.0
5	J84	その他の間質性肺疾患	87	7.4%	77.9	20.4
6	I46	心停止	26	2.2%	82.0	6.0
6	N39	尿路系のその他の障害	26	2.2%	84.3	20.7
8	J46	喘息発作重積状態	25	2.1%	64.3	9.1
9	J18	肺炎、病原体不詳	24	2.0%	73.5	17.1
10	J93	気胸	23	2.0%	70.0	20.4

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	K63	腸のその他の疾患	214	18.0%	70.7	3.6
2	K80	胆石症	101	8.5%	80.5	10.7
3	K57	腸の憩室性疾患	60	5.0%	74.3	8.7
4	C16	胃の悪性新生物	55	4.6%	71.2	13.8
5	K83	胆道のその他の疾患	53	4.5%	73.8	13.8
6	C25	脾の悪性新生物	49	4.1%	76.7	19.7
7	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	43	3.6%	72.6	15.7
8	N39	尿路系のその他の障害	33	2.8%	84.3	27.7
8	C18	結腸の悪性新生物	33	2.8%	74.5	13.3
10	K25	胃潰瘍	28	2.4%	78.9	13.4

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	250	23.3%	82.6	21.3
2	I20	狭心症	185	17.2%	74.1	5.0
3	I48	心房細動及び粗動	170	15.8%	71.4	5.6
4	I70	アテローム<じゅく><粥>状>硬化(症)	78	7.3%	79.2	16.8
5	I49	その他の不整脈	60	5.6%	78.3	9.7
6	I21	急性心筋梗塞	52	4.8%	73.9	17.7
7	I44	房室ブロック及び左脚ブロック	45	4.2%	80.9	11.9
8	I25	慢性虚血性心疾患	41	3.8%	73.0	4.1
9	I47	発作性頻拍(症)	40	3.7%	66.0	6.9
10	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	14	1.3%	77.8	10.1

小児科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J45	喘息	26	9.5%	3.1	5.0
2	J21	急性細気管支炎	25	9.2%	0.5	4.8
3	A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	20	7.3%	4.2	3.5
4	J06	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	18	6.6%	2.7	3.7
5	M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	14	5.1%	2.6	6.1
6	J02	急性咽頭炎	12	4.4%	2.8	3.3
7	B34	部位不明のウイルス感染症	11	4.0%	1.8	4.0
7	R56	けいれん(痙攣)、他に分類されないもの	11	4.0%	1.7	3.9
9	E86	体液量減少(症)	10	3.7%	3.8	3.8
10	U07	コロナウイルス感染症2019	9	3.3%	3.6	3.3
10	J20	急性気管支炎	9	3.3%	5.1	3.9

外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C18	結腸の悪性新生物	128	13.8%	72.0	12.6
2	C20	直腸の悪性新生物	79	8.5%	69.5	11.3
3	K40	そけい(鼠径)ヘルニア	76	8.2%	59.0	6.2
4	K80	胆石症	65	7.0%	64.7	9.6
5	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	60	6.5%	75.6	14.9
6	K35	急性虫垂炎	52	5.6%	39.3	7.1
7	Z94	臓器及び組織の移植後の状態	40	4.3%	32.4	3.5
8	C25	膵の悪性新生物	37	4.0%	74.5	17.2
9	K81	胆のう<嚢>炎	30	3.2%	70.4	19.5
9	C16	胃の悪性新生物	30	3.2%	70.1	29.6

呼吸器外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	68	63.0%	69.8	9.7
2	J86	膿胸(症)	11	10.2%	65.9	18.4
3	J93	気胸	8	7.4%	46.5	8.8

乳腺外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	462	95.5%	57.1	6.4
2	D24	乳房の良性新生物	17	3.5%	41.4	6.3

整形外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S72	大腿骨骨折	218	16.2%	85.3	27.5
2	M48	その他の脊椎障害	150	11.1%	72.7	20.3
3	S32	腰椎及び骨盤の骨折	108	8.0%	74.6	18.4
4	S52	前腕の骨折	104	7.7%	57.0	10.6
5	S82	下腿の骨折、足首を含む	84	6.2%	53.2	22.9
6	M47	脊椎症	72	5.3%	74.8	21.3
7	M51	その他の椎間板障害	70	5.2%	54.4	15.7
8	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	52	3.9%	78.4	19.6
9	M17	膝関節症[膝の関節症]	50	3.7%	75.4	33.2
10	S42	肩及び上腕の骨折	48	3.6%	55.7	14.5

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	7	25.9%	55.3	8.6
2	D23	皮膚のその他の良性新生物	6	22.2%	5.7	4.0
3	D22	メラニン細胞性母斑	4	14.8%	10.0	7.3
4	Q18	顔面及び頸部のその他の先天奇形	*	11.1%	8.7	4.3

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S06	頭蓋内損傷	68	30.4%	73.7	16.4
2	I61	脳内出血	60	26.8%	75.2	27.9
3	I62	その他の非外傷性頭蓋内出血	24	10.7%	76.8	16.0
4	I60	くも膜下出血	12	5.4%	68.0	47.0
5	G91	水頭症	11	4.9%	76.5	22.0

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I71	大動脈瘤及び解離	28	39.4%	78.0	21.3
2	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	6	8.5%	72.5	27.5
3	I83	下肢の静脈瘤	5	7.0%	64.8	6.4
3	I50	心不全	5	7.0%	74.0	31.6
3	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	5	7.0%	68.2	21.4

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C44	皮膚のその他の悪性新生物	42	14.7%	82.2	7.1
2	D23	皮膚のその他の良性新生物	40	14.0%	46.7	3.1
3	L03	蜂巣炎<蜂窩識炎>	34	11.9%	74.0	15.3
4	B02	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	17	6.0%	78.6	9.2
5	L89	じょくく瘡性潰瘍及び圧迫領域	10	3.5%	80.7	36.0

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C61	前立腺の悪性新生物	66	21.7%	75.1	7.3
2	C67	膀胱の悪性新生物	57	18.8%	75.2	8.2
3	C65	腎盂の悪性新生物	27	8.9%	75.1	8.9
4	N20	腎結石及び尿管結石	26	8.6%	72.0	7.3
5	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	20	6.6%	71.5	14.0
6	N40	前立腺肥大(症)	18	5.9%	71.4	8.7
6	N10	急性尿細管間質性腎炎	18	5.9%	77.4	11.4
8	C66	尿管の悪性新生物	9	3.0%	79.9	11.7
9	N17	急性腎不全	8	2.6%	83.0	10.9

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C54	子宮体部の悪性新生物	21	11.8%	69.9	8.4
2	C56	卵巣の悪性新生物	19	10.7%	68.1	10.7
3	D27	卵巣の良性新生物	18	10.1%	58.4	9.3
4	C53	子宮頸部の悪性新生物	13	7.3%	50.2	12.5
4	P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	13	7.3%	0.0	8.2
6	D25	子宮平滑筋腫	8	4.5%	48.0	8.1
7	D06	子宮頸(部)の上皮内癌	6	3.4%	48.8	5.2
7	O80	単胎自然分娩	6	3.4%	31.5	6.3
9	O62	娩出力の異常	5	2.8%	31.0	7.6

眼科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	165	94.3%	75.7	3.4
2	H26	その他の白内障	5	2.9%	75.0	2.8
3	H11	結膜その他の障害	*	1.7%	67.3	2.3

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	97	15.5%	15.9	6.9
2	J32	慢性副鼻腔炎	82	13.1%	53.7	6.2
3	G47	睡眠障害	71	11.3%	57.0	2.0
4	H81	前庭機能障害	46	7.3%	72.0	4.6
5	G51	顔面神経障害	39	6.2%	54.6	9.4
6	H91	その他の難聴	32	5.1%	57.9	9.7
7	J36	扁桃周囲膿瘍	31	4.9%	38.0	7.8
7	J34	鼻及び副鼻腔のその他の障害	17	2.7%	41.2	6.2
9	D11	大唾液腺の良性新生物	15	2.4%	56.3	7.0
9	C32	喉頭の悪性新生物	14	2.2%	69.7	31.0

※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は[*]で掲載しています。

院内がん登録データに係る統計 —2023年診断症例—

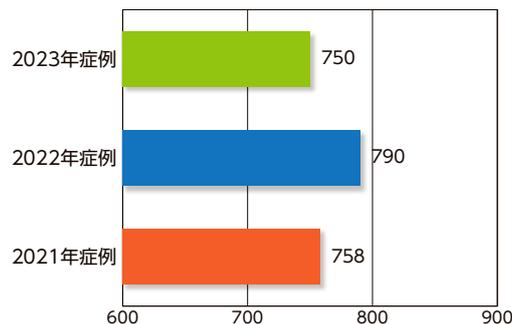
2023年の院内がん登録件数は750件で前年より40件減少した。登録上位5部位は、「肺」123件、「乳房」108件、「大腸」85件、「皮膚」78件、「尿路系」63件であった。

男女別登録数は男性385件、女性365件で、男性の方が20件多かった。登録件数の最も多い肺癌では男性79件、女性44件と男性が女性の約2倍となっている。

平均年齢は全体71.6歳、男性73.2歳、女性70.0歳で年齢分布でも70歳代が最も多く、次いで80歳代が多くなっており例年同様高い傾向にある。

がん検診・健康診断などによりがんが発見された人は、全体の13.8% (前年15.6%) であった。全体では前年より減少したにもかかわらず、乳房は24% (前年18.5%)、肺癌19% (17.8%) と増加している。

登録件数

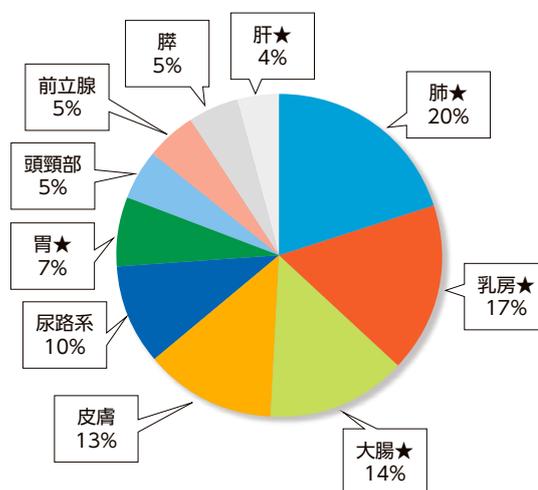


診断年別主要部位別登録件数

部位	2021年	2022年	2023年
肺★	137	118	123
乳房★	115	91	108
大腸★	95	97	85
皮膚	52	71	78
尿路系	50	54	63
その他	50	44	48
胃★	41	54	42
頭頸部	27	36	34
前立腺	45	60	33
膵	22	30	28
肝★	34	24	25
悪性血液	18	19	22
子宮	28	37	19
脳脊髄	16	23	17
食道	12	12	15
甲状腺	16	20	10

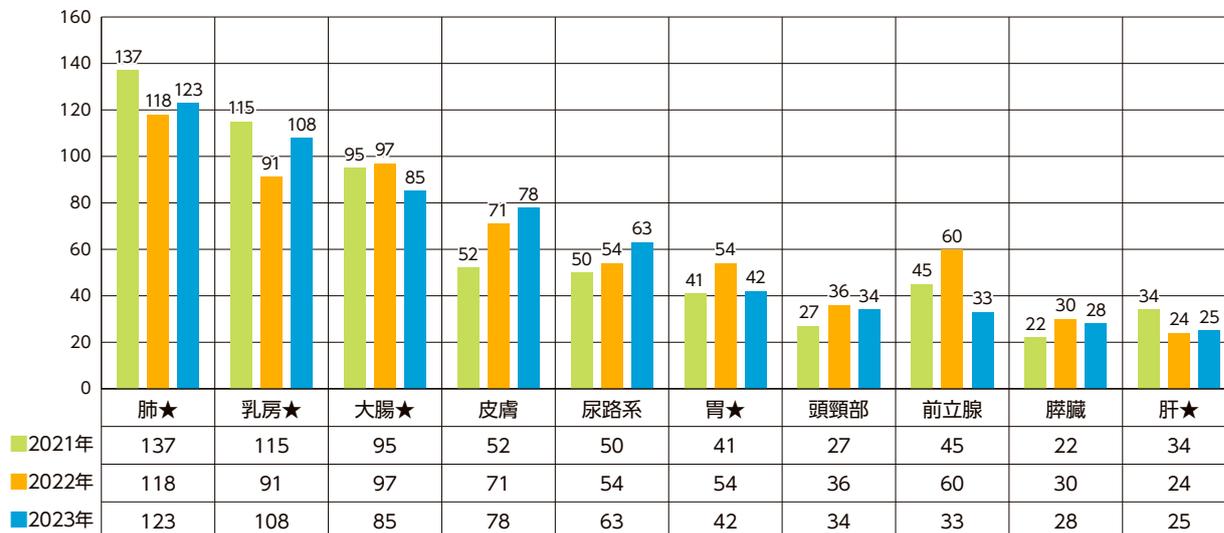
★は5大部位

登録上位10部位別登録割合



※大腸は結腸(57件)と直腸(28件)
 ※尿路系は膀胱(29件)、腎(18件)、腎盂(7件)、尿管(9件)、尿道
 ※子宮は子宮頸部(9件)と体部(10件)
 ※脳脊髄は脳腫瘍(16件)と脊髄(*件) 注: 脳脊髄は良性等も含む
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫(22件)、骨髄腫、他の造器器腫瘍

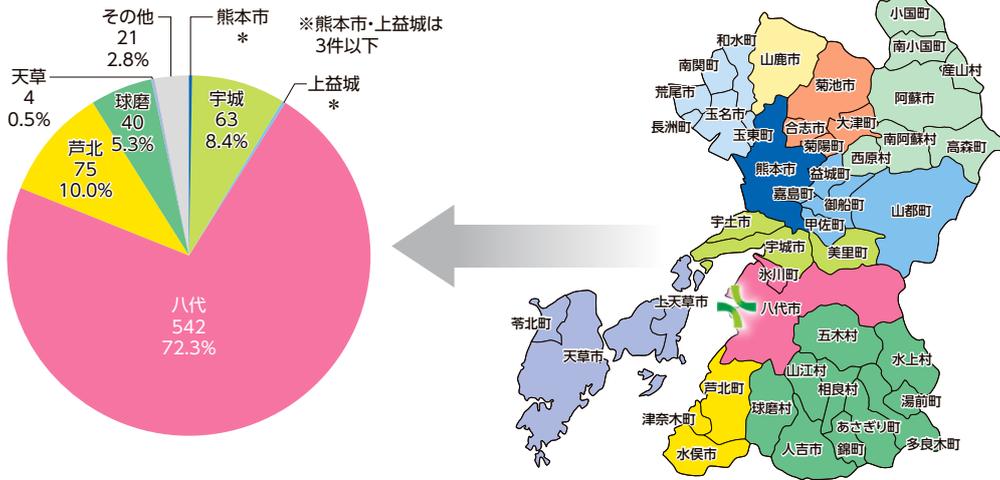
登録上位10部位



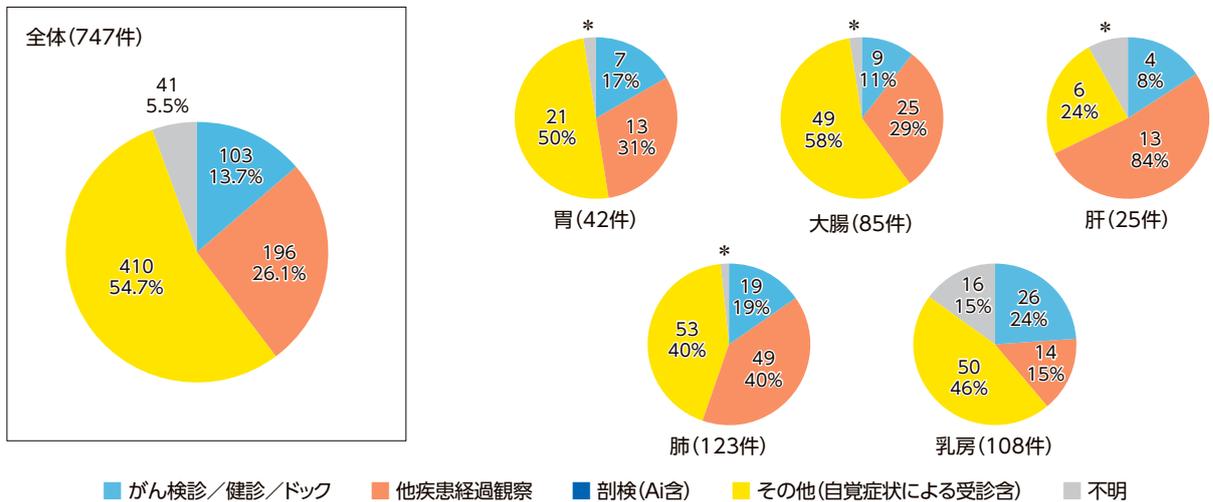
※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は[*]で掲載しています。

臨床業績

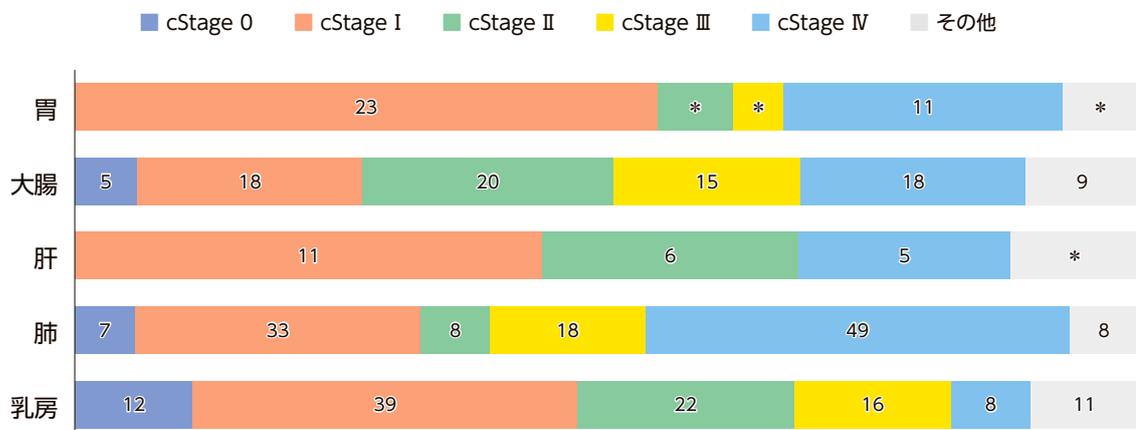
患者住所 医療圏別登録の状況



発見経緯 5大部位の内訳



5大部位別Stage件数



※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】
 (術前治療なし・観血的治療例はpStage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はcStage)
 ※UICC病期分類がないもの、分類不明なものはその他で集計

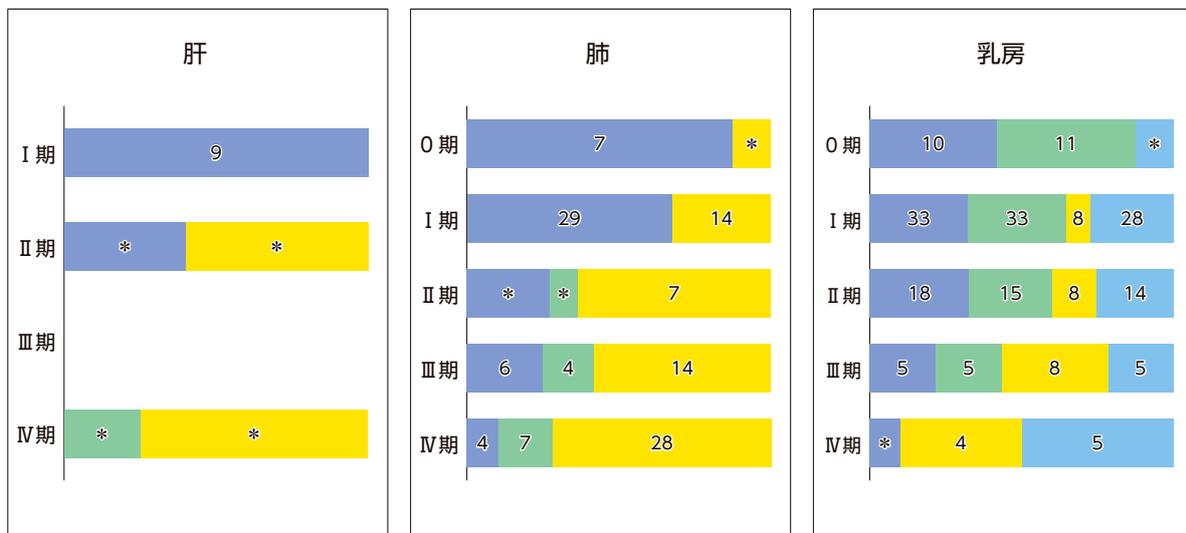
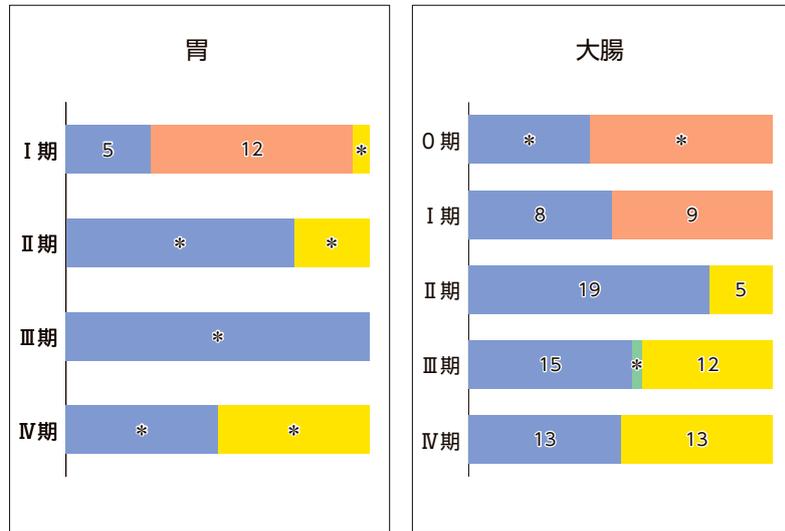
臨床業績

5大部位(総合Stage別)の主な治療

全登録部位において、自施設初回治療、他施設初回治療開始後の継続治療を行った症例614件は、手術療法409件、放射線療法101件、化学療法169件、内分泌療法79件、その他の治療(RFA等)7件、経過観察のみ78件であり、例年と同じく手術療法が最も多くなっている。

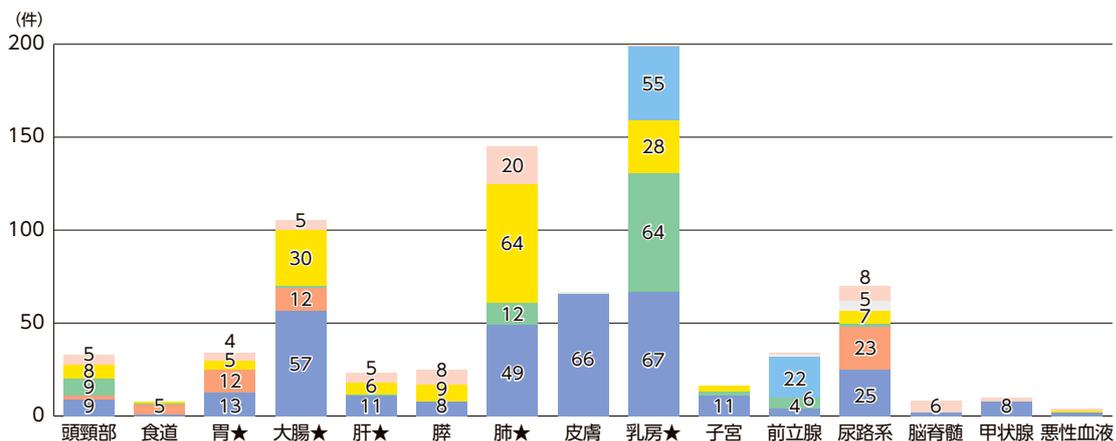
治療に関しては、高齢者・若年層に関わらず、症状が出現した状態で受診し、それらの多くが進行癌であることから外科的治療が出来ない場合が少なくない。特に登録件数の一番多い肺癌ではstageⅣの割合が約40%を占め、このような症例が多くみられた。

■ 手術(外科・鏡視下) ■ 内視鏡 ■ 放射線
■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等)



主要部位別治療の内訳

■ 手術(外科・鏡視下) ■ 内視鏡 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等) ■ 経過観察



※初回治療+継続治療症例のみ集計 ※治療は単独、複数に関わらず各々積算

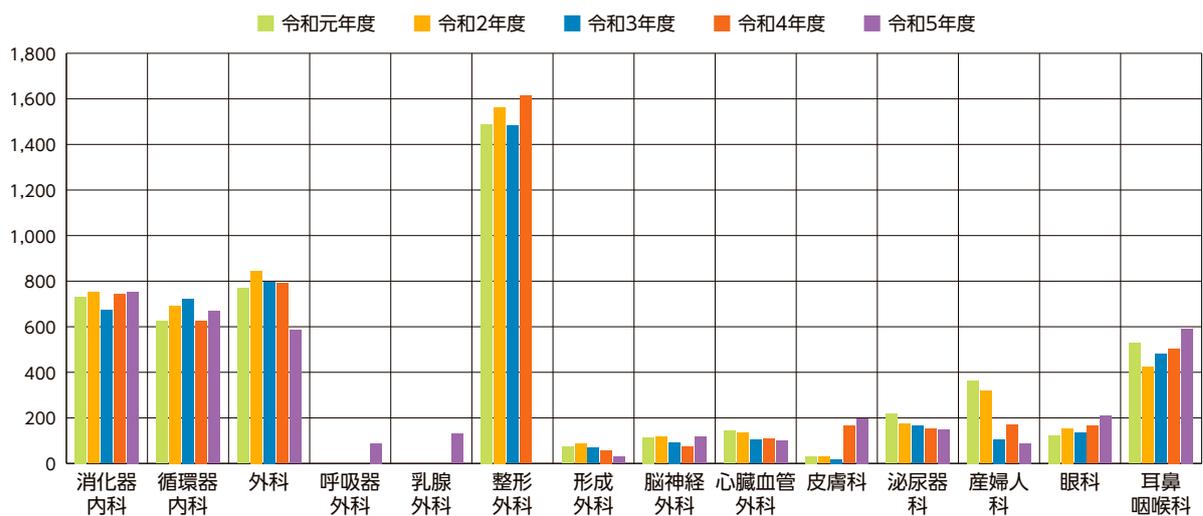
高度医療

※令和5年度から、外科が細分化(呼吸器外科、乳腺外科追加)

単価 (年度実績4-3月)

	1人1日当り単価(入院)					1人1日当り単価(外来)				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内科	-	-	-	-	-	18,766	19,239	20,447	18,690	17,756
精神科	33,458	-	-	-	-	3,830	3,732	2,241	2,046	2,242
脳神経内科	46,302	49,046	50,493	52,335	51,460	13,112	11,091	10,800	13,438	15,861
呼吸器内科	44,466	48,379	51,332	55,340	53,511	31,708	37,291	36,728	33,064	33,709
消化器内科	47,277	51,790	50,054	52,025	56,410	20,789	23,423	27,044	26,820	27,048
糖尿病・代謝内科	35,649	38,632	42,544	41,663	42,274	10,796	11,058	11,308	11,002	10,852
循環器内科	114,288	118,319	110,396	113,985	116,249	15,001	16,448	15,494	16,081	16,864
小児科	65,933	65,640	66,304	71,338	72,252	16,604	22,921	21,207	23,130	26,427
外科	82,661	82,920	80,382	89,766	81,998	21,379	22,488	22,601	26,134	23,259
呼吸器外科	-	-	-	-	141,256	-	-	-	-	18,901
乳腺外科	-	-	-	-	89,518	-	-	-	-	27,385
整形外科	58,803	61,195	60,635	64,057	63,699	9,496	9,366	9,437	9,596	9,445
形成外科	57,024	57,990	62,222	66,922	76,995	7,645	7,995	7,129	7,199	7,784
脳神経外科	59,874	57,073	56,406	56,339	64,250	13,687	13,803	13,305	13,681	13,564
心臓血管外科	130,062	146,607	169,075	159,606	199,341	14,158	14,382	14,197	15,406	16,026
皮膚科	43,566	44,731	41,906	56,197	57,518	8,499	8,012	7,584	9,199	10,601
泌尿器科	58,665	58,638	59,217	67,777	72,672	18,593	19,984	20,135	21,978	21,161
産婦人科	66,110	67,500	69,936	75,314	80,830	10,057	8,846	8,525	8,046	8,603
眼科	99,358	103,051	105,309	105,258	109,094	7,219	8,510	10,228	10,326	11,129
耳鼻咽喉科	52,458	58,594	60,586	66,363	74,558	11,352	12,374	11,877	11,542	12,387
放射線科	-	-	-	-	-	25,119	28,392	26,131	26,216	23,332
麻酔科	-	-	-	-	-	127	98	249	530	516
理学診療科	-	35,107	38,234	-	-	-	13	264	143	43
医療相談科	-	-	-	-	-	31,308	30,427	32,316	30,046	30,519
合計	62,689	66,582	66,656	69,721	70,919	15,111	16,030	16,582	17,274	17,344

手術 (年度実績4-3月)

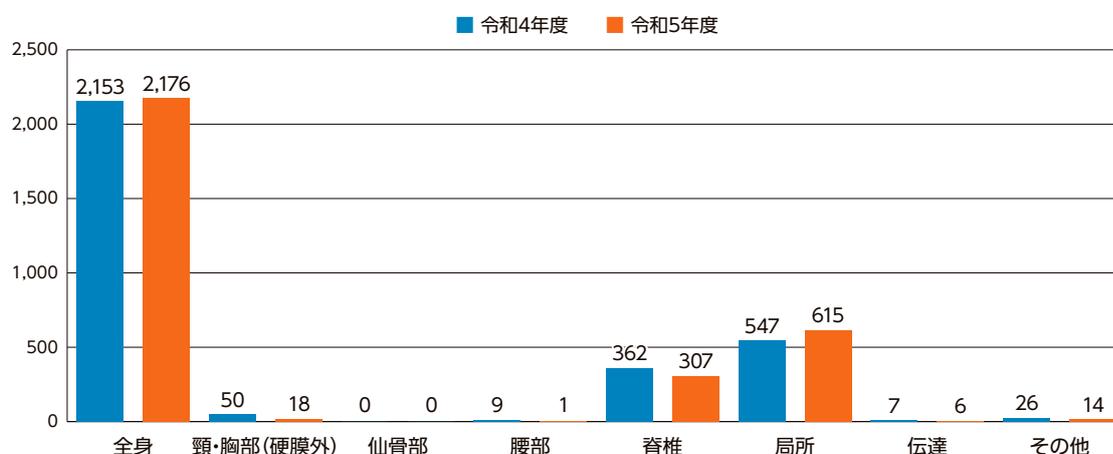


	消化器内科	循環器内科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
令和元年度	731	625	768	-	-	1,489	73	114	142	32	218	364	123	527	5,206
令和2年度	752	693	846	-	-	1,563	85	116	135	28	173	317	154	422	5,284
令和3年度	672	723	798	-	-	1,483	68	93	103	18	164	106	134	480	4,881
令和4年度	742	626	792	-	-	1,613	57	73	109	164	153	168	164	504	5,165
令和5年度	754	669	586	89	129	1,432	28	116	99	197	149	89	210	592	5,139

※入院と外来の手術室内手術件数(ただし、循環器内科と消化器内科については手術室外で行うため計上している)

麻酔（年度実績4-3月）

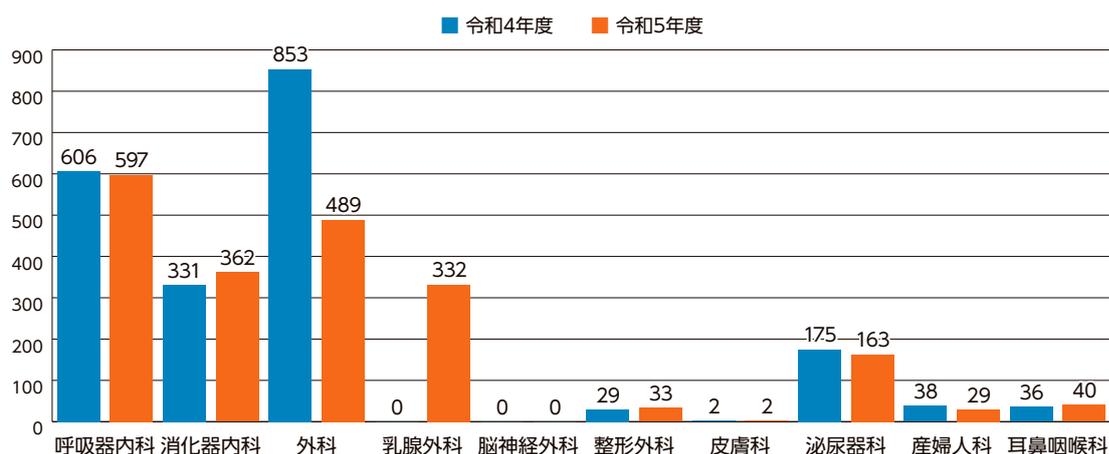
麻酔法別件数



	全身	頸・胸部(硬膜外)	仙骨部	腰部	脊椎	局所	伝達	その他
令和4年度	2,153	50	0	9	362	547	7	26
令和5年度	2,176	18	0	1	307	615	6	14
※参考 令和3年度	2,157	30	0	6	318	448	0	7

外来化学療法加算（年度実績4-3月）

化学療法加算件数



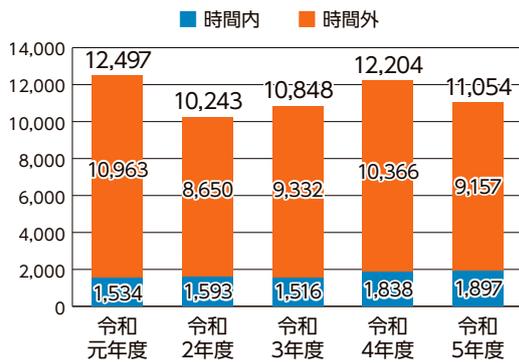
※令和4年度は外来化学療法加算、外来腫瘍化学療法診療料の合計件数

	呼吸器内科	消化器内科	外科	乳腺外科	脳神経外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科
令和4年度	606	331	853	-	0	29	2	175	38	36
令和5年度	597	362	489	332	0	33	2	163	29	40
※参考 令和3年度	498	319	686	-	3	31	6	138	21	44

救急医療(年度実績4-3月)

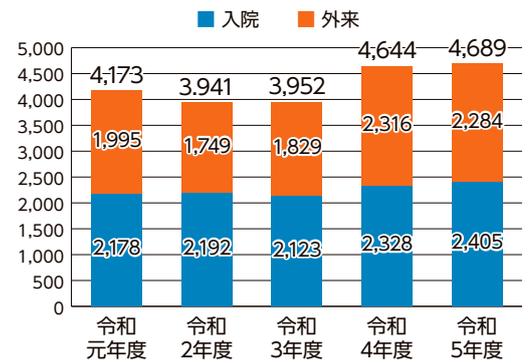
※令和5年度から、外科が細分化(呼吸器外科、乳腺外科追加)

救急患者数(時間内・時間外別)



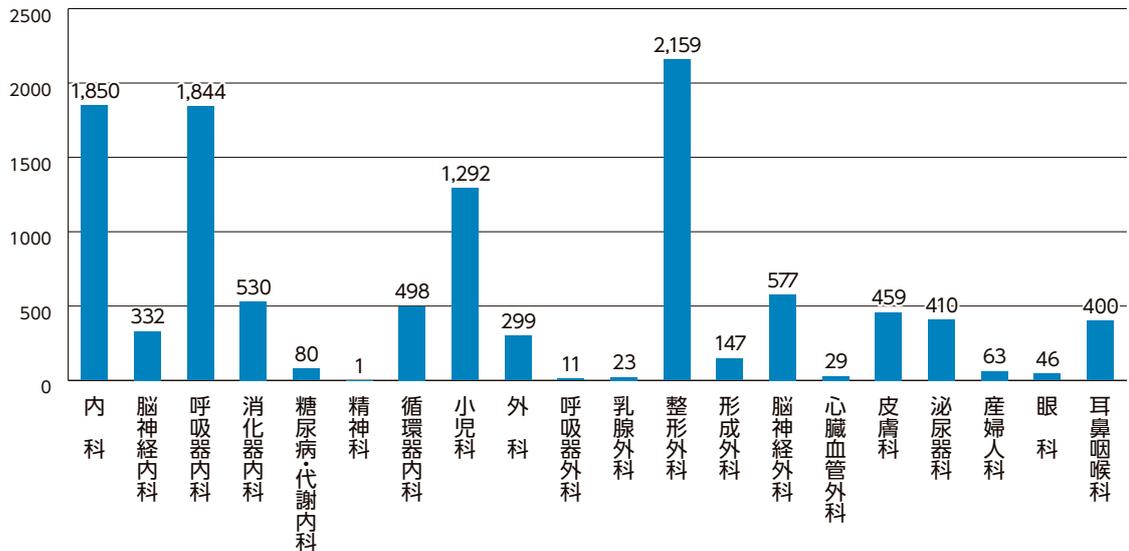
	時間内	時間外	合計
令和元年度	1,534	10,963	12,497
令和2年度	1,593	8,650	10,243
令和3年度	1,516	9,332	10,848
令和4年度	1,838	10,366	12,204
令和5年度	1,897	9,157	11,054

救急車搬送患者数(入院・外来別)(ヘリ含む)



	入院	外来	合計
令和元年度	2,178	1,995	4,173
令和2年度	2,192	1,749	3,941
令和3年度	2,123	1,829	3,952
令和4年度	2,328	2,316	4,644
令和5年度	2,405	2,284	4,689

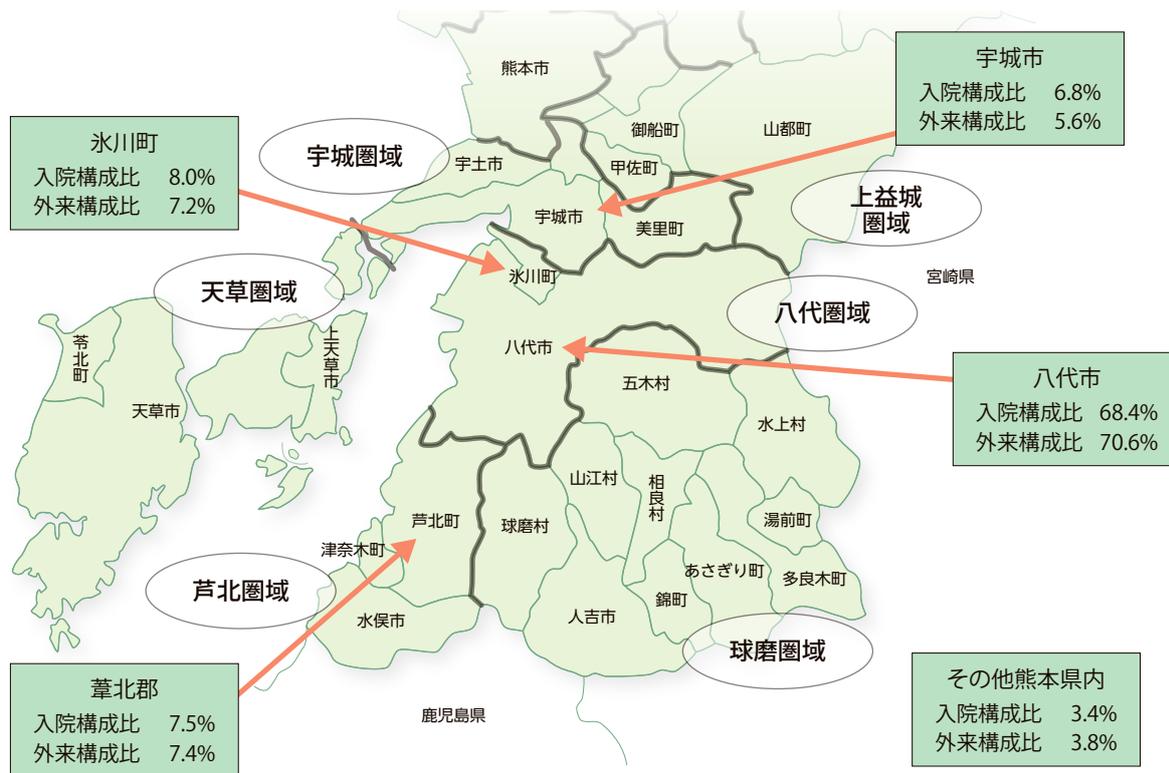
診療科別救急患者数(令和5年度)



	令和4年度	令和5年度	※参考 令和3年度
内科	1,691	1,850	2,359
脳神経内科	288	332	302
呼吸器内科	2,759	1,844	971
消化器内科	508	530	520
糖尿病・代謝内科	82	80	87
精神科	0	1	3
循環器内科	529	498	563
小児科	1,775	1,292	1,363
外科	348	299	308
呼吸器外科	-	11	-
乳腺外科	-	23	-

	令和4年度	令和5年度	※参考 令和3年度
整形外科	2,160	2,159	2,114
形成外科	193	147	192
脳神経外科	532	577	563
心臓血管外科	24	29	27
皮膚科	444	459	468
泌尿器科	349	410	410
産婦人科	145	63	140
眼科	42	46	78
耳鼻咽喉科	335	400	380
合計	12,204	11,050	10,848

地域医療(年度実績4-3月)



臨床業績

		入院患者				外来患者				
				労災患者				労災患者		
		延患者数	構成比(%)	延患者数	構成比(%)	延患者数	構成比(%)	延患者数	構成比(%)	
熊本県	八代医療圏	八代市	83,475	68.4	754	61.1	101,615	70.6	1,068	71.5
		氷川町	9,757	8.0	110	8.9	10,354	7.2	147	9.8
		小計	93,232	76.4	864	70.0	111,969	77.7	1,215	81.3
	葦北郡	9,212	7.5	67	5.4	10,688	7.4	40	2.7	
	宇城市	8,320	6.8	41	3.3	8,133	5.6	92	6.2	
	球磨郡	3,499	2.9	57	4.6	3,280	2.3	35	2.3	
	その他県内	4,193	3.4	114	9.2	5,457	3.8	48	3.2	
	熊本県 計	118,456	97.1	1,143	92.6	139,527	96.9	1,430	95.7	
福岡県	1,014	0.8	0	0.0	1,057	0.7	2	0.1		
鹿児島県	1,196	1.0	0	0.0	1,406	1.0	5	0.3		
その他	1,372	1.1	92	7.4	2,035	1.4	57	3.8		
合計		122,038	100.0	1,235	100.0	144,025	100.0	1,494	100.0	



〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405
<https://kumamotoh.johas.go.jp>



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式



KUMAROUH.OFFICIAL
インスタグラム